1．調査票

（1）身体障がい者調査

福岡市　障がい福祉に関するアンケート調査
【身体障がい者用】

【ご協力のお願い】

日頃から福岡市の福祉向上にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

福岡市では、障がいのある人が必要な支援を受けながら、自らの能力を最大限発揮し、地域や家庭でいきいきと生活することのできるまちづくりをめざし、「福岡市保健福祉総合計画」（令和３年度～令和８年度）および「第７期福岡市障がい福祉計画及び第３期福岡市障がい児福祉計画」（令和６年度～令和８年度）に基づき、障がい福祉施策を進めております。

今回、令和９年度以降の福岡市保健福祉総合計画等を作る基礎資料とするため、福岡市の身体・知的障がいのある方の中から 3,000 人の方に、生活の様子や福祉サービスに対するご意見やご要望などについて、アンケート調査を行うことといたしました。

この調査は、これからの福岡市の障がい福祉施策の充実のために実施するものです。
あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありません。

お手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和７年６月　　福岡市

記入にあたってのご注意

- この調査票は、**できる限りご本人（封筒のあて名の方）がお答えください。ご本人の回答や記入が難しい場合は、介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。**
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問は問４１までありますが、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
- 調査票・返信用封筒に住所やお名前を書く必要はありません。
- 調査票は、記入が終わったら、同封しております封筒（切手不要）に入れて、**７月２５日（金）まで**に、郵便ポストに入れてください。
- ◆記入にあたって、ご不明な点がある方や支援が必要な方は、ご遠慮なくお問い合わせください。

【調査に関するお問い合わせ先】
福岡市役所 障がい企画課　アンケート調査担当
電 話：092-711-4248　ＦＡＸ：092-711-4818
E-mail：s-kikaku.PWB@city.fukuoka.lg.jp

あなた自身のことについておたずねします

問１　あなたの性別を教えてください。（○は１つだけ）
※性的違和を感じている方は、あなたの感じている性に○をつけてください。

１．男性	２．女性	３．答えたくない

問２　あなたの年齢を教えてください。

満 [　　] 歳（令和７年６月１日現在）

問３　あなたがお住まいの区はどこですか。（○は１つだけ）

１．東区	２．博多区	３．中央区	４．南区
５．城南区	６．早良区	７．西区	８．市外

問４　あなたがお持ちの障害者手帳などについてお聞きします。①～⑤のそれぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。⑤は４０歳以上の方のみお答えください。

（それぞれあてはまるものに○）

① 身体障害者手帳	１．持っている ---→ ２．持っていない	１級　２級　３級 ４級　５級　６級
② 療育手帳	１．持っている ---→ ２．持っていない	Ａ１　Ａ２　Ａ３ Ｂ１　Ｂ２
③ 精神障害者保健福祉手帳	１．持っている ---→ ２．持っていない	１級　２級　３級
④ 障がい支援区分	１．受けている ---→ ２．非該当 ３．申請していない	区分１　区分２　区分３　区分４　区分５　区分６
⑤ 要介護認定（４０歳以上の方のみ）	１．受けている ---→ ２．非該当 ３．申請していない	要支援１　要支援２　要介護１　要介護２ 要介護３　要介護４　要介護５

【 問４－１へ 】

問４－１は、問４で「①身体障害者手帳」を「１．持っている」を選ばれた方におたずねします

問４－１　あなたの**主な障がい**（障がいの部位）を教えてください。（○は１つだけ）

１．視覚障がい	２．聴覚障がい
３．平衡機能障がい	４．音声、言語、そしゃく機能障がい
５．肢体不自由（上肢）	６．肢体不自由（下肢）
７．肢体不自由（体幹等）	８．肢体不自由（全身性）
９．呼吸器機能障がい	10．心臓機能障がい
11．じん臓機能障がい	12．ぼうこう、直腸又は小腸機能障がい
13．肝臓機能障がい	14．その他（　　）

問５　主な障がい（障がいの部位）のほかに、**重複する障がい**があれば教えてください。（○はあてはまるものすべて）

１．主な障がい以外はない	２．視覚障がい
３．聴覚障がい	４．平衡機能障がい
５．音声、言語、そしゃく機能障がい	６．肢体不自由（上肢）
７．肢体不自由（下肢）	８．肢体不自由（体幹等）
９．肢体不自由（全身性）	10．呼吸器機能障がい
11．心臓機能障がい	12．じん臓機能障がい
13．ぼうこう、直腸又は小腸機能障がい	14．肝臓機能障がい
15．知的障がい	16．精神障がい
17．発達障がい	18．高次脳機能障がい
19．難病	20．その他（　　）

生活状況についておたずねします

問６　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

１．自分や家族の持ち家
２．民間の借家や賃貸アパート・マンションなど
３．市営・県営住宅、公社住宅・ＵＲ住宅
４．障がい者グループホーム
５．障がい者の入所施設
６．その他（　　）

問７　ご家族などとの同居の状況についておたずねします。
あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか。**あなたからの続柄**でお答えください。（○はあてはまるものすべて）

１．父親	２．母親	３．祖父母
４．配偶者（夫・妻）	５．子ども	６．兄弟姉妹
７．グループホーム、入所施設などの共同生活者		
８．その他（　　）		
９．同居者はいない（一人暮らし）		

問８　ふだん、あなたの身の回りの世話（介助）を主にしているのはどなたですか。（○は１つだけ）

１．父親	２．母親	３．祖父母
４．配偶者（夫・妻）	５．子ども	６．兄弟姉妹
７．その他の家族		
８．障がい福祉サービス事業者（ヘルパー、グループホーム、入所施設などの支援員など）		
９．その他（　　）	10．世話をしてもらう必要がない	

問８－１は、問８で「１.」～「７.」を選ばれた方におたずねします

問８－１　身の回りの世話（介助）を主にしている方の年齢はいくつですか。（○は１つだけ）

１．19 歳以下	２．20 歳代	３．30 歳代
４．40 歳代	５．50 歳代	６．60～64 歳
７．65～74 歳	８．75 歳以上	

問９　介助者が病気や事故で不在となった場合の緊急時の対応を事前に準備していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．相談支援事業所に相談し、事前に対応方法を決めている
２．短期入所事業所への受け入れを事前に依頼している
３．親族や知人に介助を依頼する
４．何も準備していない

外出の状況などについておたずねします

問１０　あなたは、通勤や通学、通所、買い物、通院、レジャーなどの外出を１ヶ月にどのくらいしていますか。付き添い者と一緒に外出する場合も含めてお答えください。（○は１つだけ）

１．週に４回以上	２．週に３回	３．週に２回
４．週に１回	５．月に１～２回	６．外出しない

問１０－１・２は、問１０で「１.」～「５.」を選ばれた方におたずねします

問１０－１　どのようなところに外出することが多いですか。
（○はあてはまるものすべて）

１．仕事	２．通所施設など	３．学校
４．買い物	５．レジャー・スポーツ	６．美術館・映画など
７．親せきや友人を訪問	８．病院・医院など	９．役所や相談機関など
10．旅行・行楽	11．散歩・散策	12．食事・喫茶
13．その他（　　）		

問１０－２　どのような移動手段を使って外出しますか。（○はあてはまるものすべて）

１．徒歩	２．自転車・バイク	３．自家用車
４．タクシー	５．地下鉄	６．電車
７．バス	８．車いす	９．その他（　　）

問１１　あなたは、外出する時、どのようなことに不便や困難を感じますか。
（○は５つまで）

１．歩道がない道路に危険を感じる	
２．歩道に段差が多い	
３．視覚障がい者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない	
４．信号の変化がわかりにくく、危険を感じる	
５．障がい者が安心して利用できる交通機関が少ない	
６．ＩＣカードの使い方がわからない	
７．障がい者用の駐車場が少ない	
８．障がい者用トイレが少ない	
９．エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない	
10．エレベーターや障がい者用トイレなどの案内標識が少ない	
11．道路に自転車などの障害物が多い	
12．歩行者や走行自転車のマナーの悪さ	
13．外出に必要な情報が得られない	
14．付き添いをしてくれる人がいない	
15．困った時、まわりの人が助けてくれない	
16．まわりの人の目が気になる	
17．外出に費用がかかりすぎる	
18．その他（　　）	
19．特にない	

問１２　あなたは、普段、どのようなコミュニケーション（意思疎通）の支援を利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

1．手話通訳者の派遣
2．要約筆記者の派遣
3．点字による支援（点訳）
4．音声による支援（音訳）
5．触手話や指点字による支援
6．代筆や代読による支援
7．イラストや単語を指差して意思を伝える方法による支援
8．パソコンやスマートフォン・携帯電話の利用
9．情報・意思伝達機器による支援（具体的に：　　）
10．わかりやすい日本語の使用（簡単な言葉を使う・漢字に読みがなをつけるなど）
11．継続して関わっていることに伴い、あなたの意思をだいたい理解している人による支援（ヘルパーなどによる支援）
12．家族による支援
13．その他（　　）
14．何も利用していない

問１３　あなたは、コミュニケーション（意思疎通）する上で、困っていることがありますか。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない

問１３－１は、問１３で「1．」を選ばれた方におたずねします

問１３－１　どのようなことで困っていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．面と向かって人と話すのが苦手
2．声や言葉がでにくい(声が聞こえない、言葉がでない)ため、自分の思いが伝わりづらい
3．相手の話が聞き取りづらい
4．手話を理解する人が少ない
5．音声による情報量が少ない
6．写真や図表などの視覚情報の説明がされていない
7．話をうまく組み立てられない
8．難しい内容やあいまいな表現を理解することが難しい
9．どのように人とコミュニケーションをとればいいのかわからない
10．その他（　　）

就労の状況についておたずねします

問１４～２０は、あなたの現在の就労状況によって回答する質問が異なります。
下記に従ってお進みください。

- **現在働いている方**
  - ○正規の社員・従業員として働いている方（自営業を含む）
  - ○パートやアルバイトとして働いている方（家業手伝いを含む）
  - ○施設で働いている方（生活介護、生活訓練は含まない）
  - → 問１４～１６へ
- **以前、働いていたが仕事をやめた方** → 問１７へ
- **働いた経験がない方** → 問１８～２０へ

問１４～１６は、現在働いている方のみお答えください

問１４　あなたの就労形態は何ですか。（○は１つだけ）

1．自営業主　　2．家族従事者
3．正規の社員・従業員　　4．臨時・日雇、アルバイト、パート
5．派遣社員　　6．内職
7．施設で働いている（就労継続支援事業所）
8．将来、企業などで働くため、施設に通っている（就労移行支援事業所など）

問１５　どのような方法で仕事を探しましたか。（○はあてはまるものすべて）

1．ハローワークからのあっせん（紹介）
2．障がい者就労支援センターに支援してもらった
3．地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターに支援してもらった
4．学校、各種学校の紹介
5．職業能力開発施設（職業能力開発校など）の紹介
6．施設（就労移行支援事業所など）に支援してもらった
7．求人誌などで自分で探した
8．家族、親せきの紹介
9．知り合いの紹介
10．障がい者団体の紹介
11．起業した
12．その他（　　）

問１６　あなたの、ふだんの月収（手取り額）はどのくらいですか。賞与などの臨時的に支給されるものは除きます。（○は１つだけ）

１．３，０００円未満	２．３，０００円～５，０００円未満
３．５，０００円～１万円未満	４．１万円～３万円未満
５．３万円～５万円未満	６．５万円～１０万円未満
７．１０万円～１５万円未満	８．１５万円～２０万円未満
９．２０万円～３０万円未満	10．３０万円以上
11．収入はない	

問１４～１６を回答した方は、問１８へお進みください

問１７は、以前働いていたが仕事をやめた方のみお答えください

問１７　仕事をやめた原因は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．障がいや病気で身体的に働くことが難しくなったため
２．職場や通勤経路のバリアフリー化が進んでいなかったため
３．職場の人間関係が上手くいかなかったため
４．仕事内容が自分には向いていなかったため
５．職場で必要な支援を受けることができなかったため
６．家庭の事情（家事・結婚・育児など）のため
７．倒産など会社の都合
８．会社から解雇されたため
９．定年退職のため
10．その他（　　）

ここからは、全員におたずねします

問１８　あなたは、今後、働きたい（働き続けたい）ですか。（○は１つだけ）

１．働きたい（働き続けたい）　　２．働きたくない

問１９　障がいのある人が働くことについて社会の理解があると思いますか。（○は１つだけ）

１．あると思う	２．ある程度あると思う	
３．あまりあると思わない	４．あると思わない	５．わからない

問１９－１は、問１９で「３.」「４.」を選ばれた方におたずねします

問１９－１　障がいのある人が働くことについて社会の理解があると思わない理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．障がい者の働く場（雇用機会）が少ないため
２．障がい者が働くための情報提供が進んでいないため
３．障がい者が働くための相談機関が少ないため
４．通勤経路のバリアフリー化が進んでいないため
５．職場環境のバリアフリー化が進んでいないため
６．雇用・労働条件の整備が進んでいないため
　例：勤務時間、勤務日数の配慮、休憩時間の確保など
７．障がい者雇用に関する制度が不十分なため
　例：障がい者雇用の促進、雇用主への助成、支援員の確保など
８．職業訓練機会が不足しているため
９．障がいへの理解が進んでいないため（差別や偏見が残っているため）
10．その他（　　）

問２０　どのような働き方や制度が充実すれば障がいのある人が働きやすいと思いますか。
（○はあてはまるものすべて）

1．収入の増加
2．在宅勤務
3．短時間勤務などの労働（作業）時間の配慮
4．調子の悪いときに休みを取りやすくする
5．配置転換などの人事管理面についての配慮
6．通院時間の確保・服薬管理など医療上の配慮
7．仕事（作業）の内容の簡略化などの配慮
8．仕事（作業）上の援助や本人・周囲への助言を行う者（ジョブコーチなど）による支援
9．職場復帰のための訓練機会の提供・充実
10．職業生活・生活全般に関する相談支援の充実（障がい者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターなど）
11．試しにいろいろな仕事（作業）を体験してみること（職場実習など）
12．障がい者雇用のきっかけづくり（トライアル雇用※）
13．その他（　　）

※トライアル雇用：約３～６か月間の試行雇用を通じて、企業との間で相互理解を深め、お互いの不安を解消することで、障がいのある方の継続雇用をめざす制度。

福祉サービスの利用についておたずねします

福祉サービス・事業について

問２１　あなたは、次のようなサービスを利用したことがありますか。また、今後（２～３年以内に）利用したいと思いますか。
①～㉓の項目ごとに、利用状況と利用意向のそれぞれについて○をつけてください。

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
①	居宅介護	ヘルパーが訪問し、家事・身体介護などのサービスを提供する。	1	2	1	2	3
②	重度訪問介護	重度の障がいがあり常に介護が必要な人に、ヘルパーが訪問し、家事・身体介護や外出時の移動の支援などのサービスを提供する。	1	2	1	2	3
③	短期入所	介護している人が疾病などにより一時的に介護できない場合に施設などで宿泊を伴った日常生活上の支援を行う。	1	2	1	2	3
④	同行援護	移動に著しい困難を有する視覚障がい者に対し、外出時において移動に必要な情報の提供、移動の援護を行う。	1	2	1	2	3
⑤	施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日の入浴、排泄、食事の介護などを行う。	1	2	1	2	3
⑥	生活介護	常時介護を必要とする人に、施設で日中の介護などを行う。	1	2	1	2	3
⑦	自立訓練	身体機能、生活能力の向上のために必要な訓練を行う。	1	2	1	2	3
⑧	就労移行支援	一般企業への就職を希望する人に訓練を行う。	1	2	1	2	3
⑨	就労継続支援（A型）	通所により、雇用契約に基づく就労の機会を提供する。	1	2	1	2	3

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
⑩	就労継続支援（B型）	通所により、就労の機会や生産活動の機会を提供する。	1	2	1	2	3
⑪	就労定着支援	企業、自宅等への訪問や体調管理などに関する課題の解決に向けた支援を行う。	1	2	1	2	3
⑫	自立生活援助	定期的に居宅を訪問し、食事、洗濯などの課題や体調の変化や通院の状況などについて確認を行い、必要な助言などを行う。	1	2	1	2	3
⑬	共同生活援助（グループホーム）	地域で共同生活を営む住居において日常生活上の相談、介護などの支援を行う。	1	2	1	2	3
⑭	移動支援	一人での外出が困難な障がい者が、区役所や病院などへ外出する際、ヘルパーが外出の援助を行う。	1	2	1	2	3
⑮	日中一時支援	介護者が疾病等により、一時的に介護できない場合に、施設等において日中預かり、日常生活の支援を行う。	1	2	1	2	3
⑯	重度障がい者等就労支援事業	重度障がい者等の通勤や職場等における支援を行う。	1	2	1	2	3
⑰	日常生活用具	障がい者（児）の日常生活の利便を図るための用具の給付を行う。	1	2	1	2	3
⑱	補装具	身体上の障がいを補うための「補装具」の購入や修理にかかる費用の支給を行う。	1	2	1	2	3
⑲	福祉乗車券の交付	重度の障がい者などに対して、公共交通機関の乗車券などを交付する。	1	2	1	2	3
⑳	福祉タクシー料金の助成	在宅の重度障がい者(児)がタクシーを利用する際、運賃の一部を助成する。	1	2	1	2	3
㉑	福祉電話の貸与	障がい者に電話やファックスを貸与する。	1	2	1	2	3

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
㉒	緊急通報システム	急病などの緊急事態の際に、受信センターへ通報できる緊急通報機器を設置する。	1	2	1	2	3
㉓	福岡市重度心身障がい者福祉手当	重度の心身障がい者（児）へ市独自の手当を支給する。在宅者 20,000 円/年、入所者 15,000 円/年	1	2	1	2	3

問２２　問２１の①～㉓のサービス・事業の中で、サービスの量が不足していたり、利用対象・範囲の拡大などを図るべきだと思うものがありますか。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない　　3．わからない

問２２－１は、問２２で「１．」を選ばれた方におたずねします

問２２－１　それはどのサービス・事業ですか。優先度が高いと思うものを３つまで選んでください。（事業番号は①～㉓の数字を記入してください）

事業番号	選んだ理由

今後の暮らし方についておたずねします

問２３　あなたは、今後（親なき後を含む）、どのように暮らしたいと思いますか。
（○は１つだけ）

1．一人で暮らしたい
2．家族と一緒に暮らしたい
3．グループホームなどの地域で共同生活できる住居で暮らしたい
4．障がい者施設に入所したい
5．高齢者施設に入所したい
6．その他（　　）
7．わからない

問２４　自宅やグループホームなどで生活するためには、どのような条件が必要だと思いますか。（○は３つまで）

1．昼間の介護を頼める人がいること
2．夜間の介護を頼める人がいること
3．調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること
4．介護を受けながら日中活動を行う施設に通えること
5．就労や生活の自立、機能の回復へ向けて訓練を受けられる施設に通えること
6．就労継続支援事業所（A 型、B 型）で働けること
7．短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること
8．外出の介護を頼める人（ガイドヘルパー）のサービスがあること
9．主治医や医療機関が近くにあること
10．仕事があること
11．家族と同居できること
12．グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること
13．地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
14．スーパーや銀行などの生活に必要な機関が近くにあること
15．その他（　　）
16．特にない

情報収集や相談についておたずねします

問２５　あなたは、生活に関することで、福岡市からどのような情報が知りたいですか。
（○はあてはまるものすべて）

1．障がい者に関わる福祉制度などのこと
2．居宅介護などの在宅で利用できるサービスに関すること
3．通所施設などの日中活動の情報に関すること
4．グループホーム、入所施設に関すること
5．困ったときに相談ができる窓口や相談機関のこと
6．仕事の選び方などの就職に関すること
7．文化・スポーツ・レクリエーション、レジャーなどの余暇活動に関すること
8．災害時の避難の仕方などの災害対策に関すること
9．ボランティア団体などのこと
10．その他（　　）
11．特にない

問２６　福岡市が実施している福祉施策について、あなたが知る手掛かりとなっているのは、次のどれですか。（○はあてはまるものすべて）

1．市政だより　　2．新聞
3．テレビ・ラジオ　　4．ホームページ
5．団体の機関紙など　　6．区役所の福祉・介護保険課
7．障がい者更生相談所　　8．民生委員・児童委員
9．障がい者相談員　　10．通所または入所している施設
11．あいあいセンター　　12．区障がい者基幹相談支援センター
13．計画相談支援事業所　　14．福岡市情報プラザ（福岡市役所１階）
15．居宅介護や外出の支援をするヘルパーなど　　16．手話放送、字幕放送
17．その他（　　）　　18．特にない

問２７　あなたは、今の生活の中で困っていることや心配なこと、悩んでいることがありますか。（○は３つまで）

1．身体、心の健康や障がいのこと　　2．家族のこと
3．生活費などの経済的なこと　　4．障がい福祉サービスのこと
5．住まいのこと　　6．通所または入所している施設のこと
7．仕事のこと　　8．老後や将来のこと
9．その他（　　）
10．特にない

問２８　福岡市には、障がいのある方からのさまざまな相談事に応じる窓口として、次のような窓口があります。
あなたは、これらの相談窓口があることを知っていましたか。また、利用したことがありますか。
さらに、「利用したことがある」を選ばれた方は、その時の満足度はどうでしたか。
①～⑨の項目ごとに、認知度、利用状況、満足度のそれぞれについて○をつけてください。

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
記入例	①	2	①	2	1	②	3	4
①区役所の福祉・介護保険課 （障がい福祉サービスの利用などに関する相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
②障がい者基幹相談支援センター （市内14か所のセンターで、障がいがある人の在宅生活全般に関する相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
③ あいあいセンター （心身障がい福祉センター） （子どもの発達に関する相談支援や成人の障がい者の社会生活や就労支援などを行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
④ 福岡市障がい者１１０番 （差別の解消や、権利擁護に関する相談などに対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑤ 身体障がい者相談員、知的障がい者相談員 （障がいのある人の日常生活の問題について、地域の相談員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑥ 民生委員・児童委員 （障がいのある人の日常生活の問題について、身近な地域で民生委員・児童委員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑦ 障がい者就労支援センター （障がいのある人や家族、企業などの相談に応じ、「ジョブコーチ」を派遣したり、職場を開拓するなどの支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑧ 社会福祉協議会 （生活福祉資金の貸付や日常生活への支援、ボランティア利用など、様々な生活の相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑨ 聴覚障がい者情報センター （聴覚障がい者の総合的なコミュニケーション支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4

地域とのかかわりについておたずねします

問２９　あなたのご近所の方との関係は、次のどれに近いですか。（○は１つだけ）

1．何か困ったときに助け合う親しい人がいる
2．たまに家を訪問し合う人がいる
3．立ち話をする程度の人ならいる
4．あいさつをする程度の人ならいる
5．ほとんど付き合いはない

問３０　ここ２～３年の間、地域での行事（町内会などが実施する防災訓練、夏祭りなど）に参加したことがありますか。（○は１つだけ）

1．参加している　　2．たまに参加している
3．ほとんど参加していない　　4．参加していない
5．そのような行事があることを知らない

問３１　あなたは、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

1．簡単な身の周りの世話をする
2．外出時に付き添う
3．普段から定期的に声かけなどをする
4．相談相手になる
5．世間話をして一緒に過ごす
6．地域の行事やイベントに一緒に参加する
7．趣味やスポーツ活動を一緒にする
8．災害時の支援
9．その他（　　）
10．特にない

防災についておたずねします

問３２　あなたが、地震などの災害が発生したときに、困ることや不安なことは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．災害の情報を知る方法がない
2．助けを求める方法がない
3．近くに助けてくれる人がいない
4．一人では避難できない
5．避難所の設備が障がいに対応しているか不安
6．避難所で必要な支援が受けられるか不安
7．避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい
8．薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
9．医療機器の電源確保が心配
10．特にない
11．その他（　　）
12．わからない

問３３　あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．日頃から家族で災害時の対応を話し合っている
2．非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている
3．疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている
4．近所の人や知人などに、災害が発生した時の助けをお願いしている
5．「避難行動要支援者名簿」に登録している
6．避難先を確保している
7．その他（　　）
8．特にない

問３４　あなたが、水害や地震などの災害が発生したときに、安全の確保などで頼れる人はどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

１．同居の家族	２．同居している家族以外の親族
３．友人・知人	４．福祉サービスの事業者
５．その他（　　）	６．頼る必要がない（自力で避難などができる）
７．頼れる人がいない	

問３５　あなたは、福岡市は安全・安心のための社会環境整備ができていると感じていますか。（○は１つだけ）

１．感じている	２．どちらかといえば感じている
３．どちらかといえば感じていない	４．感じていない
５．わからない	

差別や人権についておたずねします

問３６　あなたは、ここ２～３年の間に、障がいがあるため、差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。（○は１つだけ）

１．ある　　２．ない

問３６－１は、問３６で「１．」を選ばれた方におたずねします

問３６－１　どのようなことで、いやな思いをしましたか。
（○はあてはまるものすべて）

１．病院・診療所などで診察を断られた
２．バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあった
３．家を借りる時に不動産業者や家主に断られた
４．ホテル・旅館、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られた
５．障がいを理由とした不採用や解雇
６．役所の窓口に行ったとき、職員の対応で不愉快な思いをした
７．相談機関・相談窓口に行ったとき、職員の対応で不愉快な思いをした
８．学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた
９．居宅介護や外出の支援をするヘルパーなどの対応で不愉快な思いをした
10．入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で不愉快な思いをした
11．バス、電車、タクシーの乗員の対応で不愉快な思いをした
12．近所の人達の対応で不愉快な思いをした
13．その他（　　）
14．思い出せない

問３７　障がい者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。（○は３つまで）

1．障がい者の意見や行動が尊重されないこと（結婚、就職に際しての周囲の反対など）
2．差別的な言動を受けること
3．聴覚や視覚に障がいのある人などへ必要な情報を伝える配慮が足らないこと
4．人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと
5．道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと
6．働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと
7．住宅を容易に借りることができないこと
8．就職・職場で不利な扱いを受けること
9．役所の窓口において不当な扱いを受けること
10．病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受けること
11．使える在宅サービスや福祉施設・病院が少ないこと
12．学校の受け入れ体制が不十分なこと
13．詐欺や悪徳商法の被害を受けやすいこと
14．スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと
15．その他（　　）
16．特にない

福祉施策全般についておたずねします

問３８　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、国や県、市に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1．障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実
2．就労支援の充実（働くための訓練や職場定着など）
3．施設で働ける場（就労継続支援事業所など）の充実
4．居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実
5．年金など、所得保障の充実
6．グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
7．困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実
8．乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり
9．障がい者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリーの推進など）
10．文化・スポーツなどを通じた社会参加の支援
11．障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実
12．介護や訓練が受けられる施設（入所・通所）の充実
13．行政自体の設備や手続きなどを含めたバリアフリーの推進
14．その他（　　）
15．特にない
16．わからない

問３９　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、地域社会や企業に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1．障がいに対する理解を深める
2．障がい者をはじめ、困っている人を支える地域活動やボランティア活動を活発にする
3．地域の行事やイベントに障がい者が参加しやすいよう配慮する
4．電車やバスなどの公共交通機関や建物、店舗、住居などを障がい者が利用しやすいようにつくる
5．企業で障がい者を積極的に雇用する
6．障がい者施設などで作ったものを購入する
7．その他（　　）
8．特にない
9．わからない

問４０　あなたは、福岡市は障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じていますか。
（○は１つだけ）

１．感じている	２．どちらかといえば感じている
３．どちらかといえば感じていない	４．感じていない
５．わからない	

問４１　障がい者福祉についてご意見がありましたら、自由に記入してください。

◎この調査票はどなたが回答しましたか。（○は１つだけ）

１．本人が全部回答した
２．他の人が本人の意思を確認しながら回答した
３．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答した
４．その他（　　）

「２．他の人が本人の意思を確認しながら回答した」
「３．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答した」
を選ばれた方におたずねします

◎この調査票を回答した方の続柄は何ですか。調査票のあて名の方からみた続柄をお答えください。（○は１つだけ）

１．父親	２．母親	３．祖父母	４．配偶者（夫・妻）
５．子ども	６．兄弟姉妹	７．その他の家族	
８．サービス事業者（ホームヘルパーなど）		９．その他（　　）	

全員におたずねします

◎調査票への回答にあたって、困ったことやその他何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

（２）知的障がい者調査

記入にあたっての　ご注意

●この調査票は、できるだけ　ご本人（封筒のあて名の方）が　お答えください。

●質問文などで　わからないことは、ご家族や　支援者の方などに　聞いて、お答えください。

●鉛筆　または　ボールペンで　記入してください。

●あてはまる項目を　選んで、その番号を　○印で囲んでください。

●質問は　問４２まであります。

●質問によっては、矢印や　案内に　そって　お答えください。

●調査票や　返信用封筒に　住所や　お名前を　書く　必要は　ありません。

記入が　終わったら

●同封している　封筒に　入れて、送ってください。

●切手は　不要です。

７月２５日（金）までに、送ってください。

わからないことが　ある場合

●わからないことがある方や　支援が　必要な方は、お問い合わせください。

●問い合わせ先

福岡市役所　障がい企画課　アンケート調査担当

電　話：092-711-4248　　ＦＡＸ：092-711-4818

E-mail：s-kikaku.PWB@city.fukuoka.lg.jp

●ご本人の　回答や　記入が　難しい場合は、介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と　相談したり、ご本人の　立場にたって　お答えください。

福岡市　障がい福祉に関するアンケート調査

【知的障がい者用】

【ご協力のお願い】

福岡市の　福祉向上に　ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

福岡市では、障がいのある人が　必要な支援を受けながら、

自分の力を　できるだけ出し、地域や　家庭で　いきいきと生活することのできるまちづくりをめざしています。

「福岡市保健福祉総合計画」（令和３年度～令和８年度）と「第７期福岡市障がい福祉計画、第３期福岡市障がい児福祉計画」（令和６年度～令和８年度）を基にして、障がい福祉施策を　進めています。

今回、福岡市は、令和９年度以降の福岡市保健福祉総合計画等を　作るために、アンケート調査を　行います。

生活や　福祉サービスについて、あなたの　意見や　要望を　教えてください。

わかる限りで　お答えください。

ご理解と　ご協力を　よろしく　お願いします。

あなたの　お名前や　回答の　内容が　他の人に　知られることは　ありません。

※この調査は、福岡市の　障がい福祉施策の　充実のために　実施します。

福岡市の　身体・知的障がいのある方の　中から　3,000人の方に、

アンケート調査を　お願いしています。

令和７年６月

福岡市

あなた自身のことについて　おたずねします

問１　あなたの性別を　教えてください。【○は　１つだけ】
※性的違和を感じている方は、あなたの感じている性に　○をつけてください。

１．男性	２．女性	３．答えたくない

問２　あなたの年齢を　教えてください。

□ 歳（令和７年６月１日現在）

問３　あなたが住んでいる区は　どこですか。【○は　１つだけ】

１．東区	２．博多区	３．中央区	４．南区
５．城南区	６．早良区	７．西区	８．市外

問４　あなたの障害者手帳などについて　教えてください。
①～④について、あてはまるもの　すべてに　○をつけてください。
⑤は４０歳以上の方だけ　お答えください。

【それぞれ　あてはまるものに　○】

① 身体障害者手帳	１．持っている ２．持っていない	１級　２級　３級　４級　５級　６級
② 療育手帳	１．持っている ２．持っていない	Ａ１　Ａ２　Ａ３　Ｂ１　Ｂ２
③ 精神障害者保健福祉手帳	１．持っている ２．持っていない	１級　２級　３級
④ 障がい支援区分	１．受けている ２．非該当 ３．申請していない	区分１　区分２　区分３　区分４　区分５　区分６
⑤ 要介護認定（40歳以上の方だけ）	１．受けている ２．非該当 ３．申請していない	要支援１　要支援２　要介護１　要介護２ 要介護３　要介護４　要介護５

【 問４－１へ 】

問４－１は、問４で「①身体障害者手帳」を「１．持っている」を選ばれた方におたずねします

問４－１　あなたの主な障がい（障がいの部位）を　教えてください。
【○は　１つだけ】

１．視覚障がい	２．聴覚障がい
３．平衡機能障がい	４．音声、言語、そしゃく機能障がい
５．肢体不自由（上肢）	６．肢体不自由（下肢）
７．肢体不自由（体幹等）	８．肢体不自由（全身性）
９．心臓機能障がい	10．じん臓機能障がい
11．呼吸器機能障がい	12．ぼうこう、直腸又は小腸機能障がい
13．肝臓機能障がい	14．その他（　　）

問５　主な障がい（障がいの部位）ほかに、重複する障がいがあれば、
教えてください。【○は　あてはまるもの　すべて】

１．主な障がい以外はない	２．視覚障がい
３．聴覚障がい	４．平衡機能障がい
５．音声、言語、そしゃく機能障がい	６．肢体不自由（上肢）
７．肢体不自由（下肢）	８．肢体不自由（体幹等）
９．肢体不自由（全身性）	10．呼吸器機能障がい
11．心臓機能障がい	12．じん臓機能障がい
13．ぼうこう、直腸又は小腸機能障がい	14．肝臓機能障がい
15．知的障がい	16．精神障がい
17．発達障がい	18．高次脳機能障がい
19．難病	20．その他（　　）

問6　あなたは、知的障がいとは　別の　感情や行動に　関する　問題がありますか。

【○は　1つだけ】

※「不登校」「ひきこもり」「いじめ」「自傷・他傷」「破壊行動」などの問題や、PTSD ・うつ・解離性障がい・適応障がいなどの、知的障がいと　別の症状　があること。

1．今も　感情や行動に　関する　問題がある
2．前は、感情や行動に　関する　問題があったが、解決した
3．感情や行動に　関する　問題はない

問6－1は、問6で「1.」「2.」を選ばれた方におたずねします

問6－1　感情や行動の　問題について　相談機関や　病院の利用状況を教えてください。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．今も　相談機関を　利用している（どこですか：　　）
2．今も　病院を　利用している　（どこですか：　　）
3．前は、相談機関を　利用していた（どこですか：　　）
4．前は、病院を　利用していた　（どこですか：　　）
5．相談機関や　病院を　利用したことは　ない

生活の様子について　おたずねします

問7　あなたの現在のお住まいは　どれですか。　【○は　1つだけ】

1．自分や家族の　持ち家
2．民間の借家や　賃貸アパート・マンションなど
3．市営・県営住宅、公社・公団住宅
4．障がい者グループホーム
5．障がい者の入所施設
6．その他（　　）

問8　あなたと一緒に暮らしている方は　どなたですか。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．あなたの父親　　2．あなたの母親　　3．あなたの祖父母
4．あなたの配偶者（夫・妻）　　5．あなたの子ども　　6．あなたの兄弟姉妹
7．グループホーム、入所施設などの共同生活者
8．その他（　　）
9．一人暮らし

問9　ふだん、あなたの身の回りの世話（介助）を　主にしているのは　どなたですか。

【○は　1つだけ】

1．あなたの父親　　2．あなたの母親
3．あなたの祖父母　　4．あなたの配偶者（夫・妻）
5．あなたの子ども　　6．あなたの兄弟姉妹
7．その他の家族
8．障がい福祉サービス事業者（ヘルパー、グループホーム、入所施設などの支援員など）
9．その他（　　）
10．世話をしてもらう必要がない

問9－1は、問9で「1.」～「7.」を選ばれた方におたずねします

問9－1　身の回りの世話（介助）を　主にしている方の年齢は　いくつですか。

【○は　1つだけ】

1．19歳以下　　2．20歳代　　3．30歳代
4．40歳代　　5．50歳代　　6．60～64歳
7．65～74歳　　8．75歳以上

問１０　介助者が　病気や事故の緊急時について、おたずねします。
緊急時の対応を　事前に準備していますか。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．相談支援事業所に相談し、事前に対応方法を決めている
2．短期入所事業所への受け入れを事前に依頼している
3．親族や知人に介助を依頼する
4．何も準備していない

外出について　おたずねします

問１１　あなたは、外出を1ヶ月に　どのくらいしていますか。
付き添い者と一緒に外出する場合も　含みます。【○は　１つだけ】
（例えば、通勤や通学、通所、買い物、通院、レジャーなどです）

1．週に4回以上　2．週に3回　3．週に2回
4．週に1回　5．月に1～2回　6．外出しない

問１１－１・２は、問１１で「1.」～「5.」を　選ばれた方に　おたずねします

問１１－１　どこに外出することが　多いですか。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．仕事　2．通所施設など　3．学校
4．買い物　5．レジャー・スポーツ　6．美術館・映画など
7．親せきや友人の家　8．病院・医院など　9．役所や相談機関など
10．旅行　11．散歩　12．食事
13．その他（　　）

問１１－２　移動の方法を　お答えください。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．徒歩　2．自転車・バイク　3．自家用車
4．タクシー　5．地下鉄　6．電車
7．バス　8．車いす　9．その他（　　）

問１２　あなたが、外出する時に困ることを　教えてください。【○は　５つまで】

1．歩道がない道路に　危険を感じる
2．歩道に　段差が多い
3．視覚障がい者用の信号機、点字ブロックなどの　設備が少ない
4．信号の変化がわかりにくく、危険を感じる
5．障がい者が　安心して利用できる　交通機関が少ない
6．ＩＣカードの　使い方がわからない
7．障がい者用の駐車場が　少ない
8．障がい者用トイレが　少ない
9．エレベーター、エスカレーターが　少ない
10．エレベーターや障がい者用トイレなどの　案内標識が少ない
11．道路に自転車などの　障害物が多い
12．歩行者や走行自転車の　マナーが悪い
13．外出に必要な情報が　得られない
14．付き添いを　してくれる人がいない
15．困った時、まわりの人が　助けてくれない
16．まわりの人の目が　気になる
17．外出に　お金がかかりすぎる
18．その他（　　）
19．特にない

問１３　あなたが利用している　コミュニケーション（意思疎通）の支援を　教えてください。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．手話通訳者の派遣
2．要約筆記者の派遣
3．点字による支援（点訳）
4．音声による支援（音訳）
5．触手話や指点字による支援
6．代筆や代読による支援
7．イラストや単語を指差して意思を伝える方法による支援
8．パソコンやスマートフォン・携帯電話の利用
9．情報・意思伝達機器による支援（具体的に：　　）
10．わかりやすい日本語の使用（簡単な言葉を使う・漢字に読みがなをつけるなど）
11．家族以外で、あなたの意思をだいたい理解している人の支援
（ヘルパーなどによる支援）
12．家族の支援
13．その他（　　）
14．何も利用していない

問１４　あなたは、コミュニケーション（意思疎通）で、困っていることがありますか。【○は　１つだけ】

1．ある　　2．ない

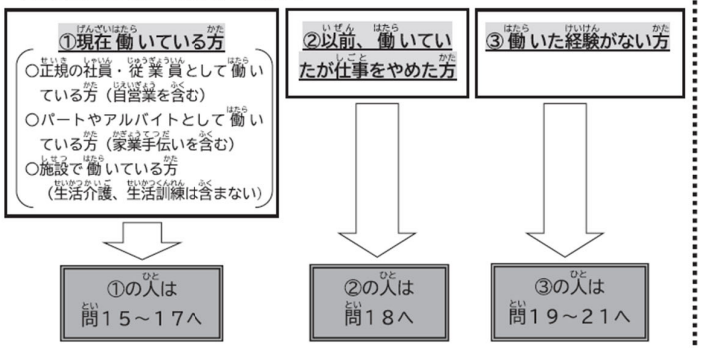
問１４－１は、問１４で「１．」を選ばれた方に　おたずねします

問１４－１　困ってることを　教えてください。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．面と向かって　人と話すのが苦手
2．声や言葉がでにくいため（声が聞こえない、言葉がでない）、自分の思いが　伝わりにくい
3．相手の話が　聞き取りにくい
4．手話を使える人が少ない
5．音声による情報量が少ない
6．写真や図表などの　視覚情報の説明がない
7．話をうまく組み立てられない
8．難しい内容やあいまいな表現を　理解することが難しい
9．人とのコミュニケーションの　取り方がわからない
10．その他（　　）

就労について　おたずねします

問１５～２１は、あなたの現在の就労状況によって　回答する質問が　違います。
下の図のとおりに　進んでください。



問１５～１７は、①の人（現在働いている方）だけ　お答えください

問１５　あなたの就労形態は　何ですか。【○は　１つだけ】

1. 自営業主
2. 家族従事者
3. 正規の社員・従業員
4. 臨時・日雇、アルバイト、パート
5. 派遣社員
6. 内職
7. 施設で働いている（就労継続支援事業所など）
8. 将来、企業などで働くため、施設に通っている（就労移行支援事業所など）

問１６　仕事を探した方法を　教えてください。【○は　あてはまるもの　すべて】

1. ハローワークからの紹介
2. 障がい者就労支援センターに　支援してもらった
3. 地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターに支援してもらった
4. 学校、各種学校の紹介
5. 職業能力開発施設（職業能力開発校など）の紹介
6. 施設（就労移行支援事業所など）に　支援してもらった
7. 求人誌などで　自分で探した
8. 家族、親せきの紹介
9. 家族・親せきなどの経営する会社・店で働いた
10. 知り合いの紹介
11. 障がい者団体の紹介
12. 起業した
13. その他（　　）

問１７　あなたの、月収（手取り額）を　教えてください。
賞与などの臨時的に支給されるものは　除きます。【○は　１つだけ】

1. ３，０００円未満
2. ３，０００円～５，０００円未満
3. ５，０００円～１万円未満
4. １万円～３万円未満
5. ３万円～５万円未満
6. ５万円～１０万円未満
7. １０万円～１５万円未満
8. １５万円～２０万円未満
9. ２０万円～３０万円未満
10. ３０万円以上
11. 収入はない

①の人（現在働いている方）は、問１９へ　お進みください

問１８は、②の人（以前働いていたが仕事をやめた方）だけ　お答えください

問１８　仕事をやめた原因は　何ですか。【○は　あてはまるもの　すべて】

1. 障がいや病気で　身体的に働くことが難しくなった
2. 職場や通勤のバリアフリー化が　進んでいなかった
3. 職場の人間関係が　上手くいかなかった
4. 仕事内容が　自分には向いていなかった
5. 職場で必要な支援を　受けることができなかった
6. 家庭の事情（家事・結婚・育児など）
7. 倒産など会社の都合
8. 会社から解雇された
9. 定年退職
10. その他（　　）

ここからは、①②③の人　全員に　おたずねします

問１９　あなたは、今後、働きたい（働き続けたい）ですか。【○は　１つだけ】

1. 働きたい（働き続けたい）　　2. 働きたくない

問２０　障がいのある人が働くことに　社会の理解が　あると思いますか。
【○は　１つだけ】

1. とても理解があると思う　　2. ある程度理解があると思う
3. あまり理解が無いと思う　　4. 理解が無いと思う　　5. わからない

問２０－１は、問２０で「3.」「4.」を選ばれた方に　おたずねします

問２０－１　障がいのある人が働くことに　社会の理解が　無いと思うものを選んでください。【○は　あてはまるもの　すべて】

1. 障がい者の働く場（雇用機会）が少ない
2. 障がい者が働くための　情報提供が進んでいない
3. 障がい者が働くために　相談できるところが少ない
4. 通勤のバリアフリー化が　進んでいない
5. 職場のバリアフリー化が　進んでいない
6. 障がい者の雇用・労働条件の整備が　進んでいない
   例：勤務時間、勤務日数の配慮、休憩時間の確保など
7. 障がい者雇用に関する制度が不十分
   例：障がい者雇用の促進、雇用主への助成、支援員の不足など
8. 職業訓練機会が　不足しているため
9. 障がいへの理解が　進んでいない（差別や偏見が　残っているため）
10. その他（　　）

問２１　障がいのある人が　働きやすくなると思うものを　選んでください。
【○は　あてはまるもの　すべて】

1．収入が増える
2．在宅で働ける
3．短時間勤務などの　労働（作業）時間の　配慮がある
4．調子の悪いときに　休みが取りやすい
5．配置転換などの　人事管理面の　配慮がある
6．通院時間の確保、服薬管理など　医療上の　配慮がある
7．仕事（作業）の内容の簡略化などの　配慮がある
8．仕事（作業）の援助や　本人・周囲への助言を行う者（ジョブコーチなど）の支援がある
9．職場復帰のための訓練機会が提供される・充実する
10．職業生活・生活全般に関する　相談支援が充実する
（障がい者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターなど）
11．試しにいろいろな仕事（作業）を　体験できる（職場実習など）
12．障がい者雇用の　きっかけづくりが　できる（トライアル雇用※）
13．その他（　　）

※トライアル雇用：

約３～６か月間の試行雇用を通じて、企業との間で相互理解を深め、お互いの不安を解消することで、障がいのある方の継続雇用をめざす制度。

福祉サービスの利用について　おたずねします

福祉サービス・事業について

問２２　あなたは、次のサービスを　利用したことがありますか。
あてはまる利用状況に、○をつけてください。【○は　１つだけ】
また、今後（２～３年以内に）利用したいと思いますか。
あてはまる利用意向に、○をつけてください。【○は　１つだけ】

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
①	居宅介護	ヘルパーが訪問し、家事・身体介護などのサービスを提供する。	1	2	1	2	3
②	重度訪問介護	重度の障がいがあり常に介護が必要な人に、ヘルパーが訪問し、家事・身体介護や外出時の移動の支援などのサービスを提供する。	1	2	1	2	3
③	短期入所	介護している人が疾病などにより一時的に介護できない場合に施設などで宿泊を伴った日常生活上の支援を行う。	1	2	1	2	3
④	行動援護	行動上著しい困難を有する知的障がい者に対し、予防的対応、外出時の介護等を行う。	1	2	1	2	3
⑤	施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日の入浴、排泄、食事の介護などを行う。	1	2	1	2	3
⑥	生活介護	常時介護を必要とする人に、施設で日中の介護などを行う。	1	2	1	2	3
⑦	自立訓練	身体機能、生活能力の向上のために必要な訓練を行う。	1	2	1	2	3

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
⑧	就労移行支援	一般企業への就職を希望する人に訓練を行う。	1	2	1	2	3
⑨	就労継続支援（A型）	通所により、雇用契約に基づく就労の機会を提供する。	1	2	1	2	3
⑩	就労継続支援（B型）	通所により、就労の機会や生産活動の機会を提供する。	1	2	1	2	3
⑪	就労定着支援	企業、自宅等への訪問や体調管理などに関する課題の解決に向けた支援を実施する。	1	2	1	2	3
⑫	自立生活援助	定期的に居宅を訪問し、食事、洗濯などの課題や体調の変化や通院の状況などについて確認を行い、必要な助言などを行う。	1	2	1	2	3
⑬	グループホーム	地域で共同生活を営む住居において日常生活上の相談、介護などの支援を行う。	1	2	1	2	3
⑭	移動支援	一人での外出が困難な障がい者が、区役所や病院などへ外出する際、ヘルパーが外出の援助を行う。	1	2	1	2	3
⑮	日中一時支援	介護者が疾病等により、一時的に介護できない場合に、施設等において日中預かり、日常生活の支援を行う。	1	2	1	2	3

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
⑯	重度障がい者等就労支援事業	重度障がい者等の通勤や職場等における支援を行う。	1	2	1	2	3
⑰	日常生活用具	障がい者（児）の日常生活の利便を図るための用具の給付を行う。	1	2	1	2	3
⑱	福祉乗車券の交付	重度の障がい者などに対して、公共交通機関の乗車券などを交付する。	1	2	1	2	3
⑲	福祉タクシー料金の助成	在宅の重度障がい者(児)がタクシーを利用する際、運賃の一部を助成する。	1	2	1	2	3
⑳	福岡市重度心身障がい者福祉手当	重度の心身障がい者(児)へ市独自の手当を支給する。在宅者20,000円/年、入所者15,000円/年	1	2	1	2	3

問２３　問２２の①～⑳のサービス・事業の中で、サービスの量が少なかったり、利用対象・範囲の拡大などが　必要だと思うものが　ありますか。

【○は　１つだけ】

１．ある	２．ない	３．わからない

問２３－１は、問２３で「１．」を選ばれた方に　おたずねします

問２３－１　問２２の①～⑳のサービス・事業の中で、大事だと思うものを　選んでください。

選ぶのは　３つまでです。

【事業番号は　①～⑳の数字を　記入してください】

事業番号	選んだ理由

今後の暮らし方について　おたずねします

問２４　あなたは、今後（親なき後を含む）、どのように　暮らしたいと思いますか。

【○は　１つだけ】

１．一人で　暮らしたい
２．家族と一緒に　暮らしたい
３．グループホームなどの　地域で　共同生活できる住居で暮らしたい
４．障がい者施設に　入所したい
５．高齢者施設に　入所したい
６．その他（　　）
７．わからない

問２５　自宅やグループホームなどで　生活するために必要なことは　どれですか。

【○は　３つまで】

１．昼間の介護を　頼める人がいること
２．夜間の介護を　頼める人がいること
３．調理や掃除、洗濯などの　家事の手伝いを　頼める人がいること
４．介護を受けながら　日中活動を行う施設に　通えること
５．就労や生活の自立、機能の回復へ向けて　訓練を受けられる施設に　通えること
６．就労継続支援事業所（A型、B型）で　働けること
７．短期入所など　緊急時に宿泊できるところがあること
８．外出の介護を頼める人（ガイドヘルパー）の　サービスがあること
９．主治医や医療機関が　近くにあること
10．仕事があること
11．家族と同居できること
12．グループホームなど　共同生活できる場があること
13．地域で何でも相談できる　相談員や相談窓口があること
14．スーパーや銀行などの　生活に必要な機関が近くにあること
15．その他（　　）
16．特にない

情報収集や相談について　おたずねします

問２６　生活に関することで、あなたが　福岡市から知りたい情報を　選んでください。
【○は　あてはまるもの　すべて】

1．障がい者に関わる　福祉制度などのこと
2．居宅介護などの　在宅で利用できるサービスのこと
3．通所施設などの　日中活動の情報に関すること
4．グループホーム、入所施設に関すること
5．困ったときに相談ができる　窓口や相談機関のこと
6．仕事の選び方などの　就職に関すること
7．文化・スポーツ・レクリエーション、レジャーなどに関すること
8．災害時の避難の仕方などの　災害対策に関すること
9．ボランティア団体などのこと
10．その他（　　）
11．特にない

問２７　福岡市の福祉施策について、あなたが　知るきっかけとなっているのは、どれですか。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．市政だより
2．新聞
3．テレビ・ラジオ
4．ホームページ
5．団体の機関紙など
6．区役所の福祉・介護保険課
7．障がい者更生相談所
8．民生委員・児童委員
9．障がい者相談員
10．通所　または　入所している施設
11．あいあいセンター
12．ゆうゆうセンター
13．区障がい者基幹相談支援センター
14．計画相談支援事業所
15．福岡市情報プラザ（福岡市役所１階）
16．居宅介護や外出を支援するヘルパーなど
17．手話放送、字幕放送
18．その他（　　）
19．特にない

問２８　あなたは、今の生活で困っていることや　心配なこと、悩んでいることが　ありますか。【○は　３つまで】

1．身体、心の健康や障がいのこと
2．家族のこと
3．生活費などの　経済的なこと
4．障がい福祉サービスのこと
5．住まいのこと
6．通っている施設　または　入所している施設のこと
7．仕事のこと
8．老後や　将来のこと
9．その他（　　）
10．特にない

問２９　福岡市の障がいのある方の相談窓口について、おたずねします。

（１）あなたは、下記①～⑨の相談窓口があることを　知っていましたか。
また、利用したことが　ありますか。
あてはまる認知度、利用状況に　○をつけてください。【○は　１つだけ】

（２）相談窓口の満足度について、おたずねします。
利用状況の「利用したことがある」を選ばれた方だけ　答えてください。
あてはまる満足度に　○をつけてください【○は　１つだけ】

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
記入例	①	2	①	2	①	2	3	4
①区役所の福祉・介護保険課（障がい福祉サービスの利用などに関する相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
②区障がい者基幹相談支援センター（市内14か所のセンターで、障がいがある人の在宅生活全般に関する相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
③あいあいセンター（心身障がい福祉センター）（子どもの発達に関する相談支援や成人の障がい者の社会生活や就労支援などを行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
④ゆうゆうセンター（発達障がい者支援センター）（発達障がいのある人に総合的な相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑤福岡市障がい者１１０番（差別の解消や、権利擁護に関する相談などに対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑥身体障がい者相談員、知的障がい者相談員（障がいのある人の日常生活の問題について、地域の相談員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑦民生委員・児童委員（障がいのある人の日常生活の問題について、身近な地域で民生委員・児童委員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
⑧障がい者就労支援センター （障がいのある人や家族、企業などの相談に応じ、「ジョブコーチ」を派遣したり、職場を開拓するなどの支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑨社会福祉協議会 （生活福祉資金の貸付や日常生活への支援、ボランティア利用など、様々な生活の相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4

地域とのかかわりについて　おたずねします

問30　あなたの　ご近所の方との関係を　選んでください。【○は　1つだけ】

1．何か困ったときに　助け合う親しい人がいる
2．たまに家に来たり、行ったりする人がいる
3．立ち話をする程度の人がいる
4．あいさつをする程度の人がいる
5．ほとんど　付き合いはない

問31　ここ2～3年の間、地域での行事に　参加したことが　ありますか。
（たとえば、町内会などが実施する防災訓練、夏祭りなど）【○は　1つだけ】

1．参加している
2．たまに　参加している
3．ほとんど　参加していない
4．参加していない
5．行事があることを　知らない

問32　あなたが、地域の方のボランティア活動で、あったらいいと思う支援・交流を　選んでください。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．簡単な　身の周りの世話をする
2．外出時に　付き添う
3．普段から　定期的に声かけなどをする
4．相談相手になる
5．世間話をして　一緒に過ごす
6．地域の行事や　イベントに　一緒に参加する
7．趣味や　スポーツ活動を　一緒にする
8．災害時の　支援
9．その他（　　）
10．特にない

防災について　おたずねします

問３３　あなたが、地震などの災害が発生したときに、困ることや　不安なことは何ですか。

【○は　あてはまるもの　すべて】

1．災害の情報を知る　方法がない
2．助けを求める　方法がない
3．近くに　助けてくれる人が　いない
4．一人では　避難できない
5．避難所の設備が　障がいに対応しているか　不安
6．避難所で必要な支援が　受けられるか　不安
7．避難所でほかの人と　一緒に過ごすのが　難しい
8．薬や医療的ケアを　確保できるかどうか　不安
9．医療機器の電源確保が　心配
10．特にない
11．その他（　　）
12．わからない

問３４　あなたが、災害に対して　備えているものを　教えてください。

【○は　あてはまるもの　すべて】

1．日頃から家族で　災害時の対応を　話し合っている
2．非常時持ち出し品の用意、非常食などの　準備をしている
3．疾病などで必要な薬や　医療機関の連絡先などを　備えている
4．近所の人や知人などに、災害が発生した時の　助けをお願いしている
5．「避難行動要支援者名簿」に登録している
6．避難先を確保している
7．その他（　　）
8．特にない

問３５　あなたが、水害や地震などの　災害が発生したときに、安全の確保などで頼れる人は　だれですか。【○は　あてはまるもの　すべて】

1．同居の家族
2．同居していない親族
3．友人・知人
4．福祉サービスの事業者
5．その他（　　）
6．頼る必要がない（自力で避難などができる）
7．頼れる人がいない

問３６　あなたは、福岡市は　安全・安心のための社会環境整備が　できていると感じていますか。【○は　１つだけ】

1．感じている
2．どちらかといえば　感じている
3．どちらかといえば　感じていない
4．感じていない
5．わからない

差別や人権について　おたずねします

問３７　あなたは、ここ２～３年の間に、障がいがあるため、
差別を受けたり、いやな思いをしたことが　ありますか。【○は　１つだけ】

1．ある　　2．ない

問３７－１は、問３７で「１.」を選ばれた方に　おたずねします

問３７－１　いやな思いをしたことを　教えてください。
【○は　あてはまるもの　すべて】

1．病院・診療所などで　診察を断られた
2．バス、電車、タクシーなどの　乗車を断られた
3．家を借りる時に　不動産業者や家主に　断られた
4．ホテル・旅館、公衆浴場、飲食店など　を利用することを断られた
5．障がいを理由とした　不採用や解雇
6．役所の窓口に行ったとき、職員の対応で　不愉快な思いをした
7．相談機関・相談窓口に行ったとき、職員の対応で　不愉快な思いをした
8．学校、職場、施設などで　不当な扱いを受けた
9．居宅介護や外出の支援をする　ヘルパーなどの対応で　不愉快な思いをした
10．入所・通所している　施設職員や他の利用者の対応で　不愉快な思いをした
11．バス、電車、タクシーの　乗員の対応で　不愉快な思いをした
12．近所の人達の対応で　不愉快な思いをした
13．その他（　　）
14．思い出せない

問３８　障がい者に関することで、特に人権上問題が　あると思うのは　どれですか。
【○は　３つまで】

1．障がい者の意見や行動が　尊重されないこと
（結婚、就職での周囲の反対など）
2．差別的な言動を受けること
3．聴覚や視覚に障がいのある人などへ　必要な情報を伝える配慮が　足りないこと
4．人々の障がい者に対する理解を　深める機会が少ないこと
5．道路の段差や建物の階段など　外出先での不便が多いこと
6．働ける場所や能力を　発揮する機会が少ないこと
7．住宅を　簡単に借りることができないこと
8．就職・職場で　不利な扱いを受けること
9．役所の窓口で　不当な扱いを受けること
10．病院や福祉施設で　不当な扱いや　虐待を受けること
11．使える在宅サービスや福祉施設・病院が少ないこと
12．学校の受け入れ体制が　不十分なこと
13．詐欺や悪徳商法の被害を　受けやすいこと
14．スポーツ・文化活動・地域活動に　気軽に参加できないこと
15．その他（　　）
16．特にない

福祉施策全般について　おたずねします

問３９　障がいのある人が　暮らしやすい社会を　つくるために、**国や県、市に**、特にしてほしいことは　何ですか。【○は　３つまで】

1．障がい者に配慮した保健、医療体制と医療費公費負担制度の充実
2．就労支援の充実（働くための訓練や職場定着など）
3．施設で働ける場（就労継続支援事業所など）の充実
4．居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実
5．年金など、所得保障の充実
6．グループホームなどの　地域で共同生活できる住まいの整備
7．困ったときにいつでも専門職員が　相談に応じてくれる体制の充実
8．乳幼児期から成人期までの支援を　一貫して実施できる仕組みづくり
9．障がい者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリーの推進など）
10．文化・スポーツなどを通じた　社会参加の支援
11．障がい者に対する　社会全体の理解を深めるための　啓発や教育の充実
12．介護や訓練が受けられる　施設（入所・通所）の充実
13．行政の設備や手続きなどを含めた　バリアフリーの推進
14．その他（　　）
15．特にない
16．わからない

問４０　障がいのある人が　暮らしやすい社会を　つくるために、**地域社会や企業**に特にしてほしいことは　何ですか。【○は　３つまで】

1．障がいに対する理解を深める
2．困っている人を支える　地域活動やボランティア活動を活発にする
3．地域の行事やイベントに　障がい者が参加しやすいよう配慮する
4．電車、バスや建物、店舗、住居などを　障がい者が利用しやすいようにつくる
5．企業で障がい者を　積極的に雇用する
6．障がい者施設などで　作ったものを購入する
7．その他（　　）
8．特にない
9．わからない

問４１　福岡市は　障がいのある人が　暮らしやすいまちだ　と感じていますか。【○は　１つだけ】

1．感じている　　2．どちらかといえば　感じている
3．どちらかといえば　感じていない　　4．感じていない
5．わからない

問４２　障がい者福祉について　ご意見がありましたら、記入してください。

◎この調査票は　どなたが　回答しましたか。【○は　１つだけ】

1．本人が　全部回答した
2．他の人が　本人の意思を確認しながら　回答した
3．本人の意思を確認するのが困難であり、他の人が　回答した
4．その他（　　）

「２．他の人が本人の意思を確認しながら回答した」
「３．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答した」
を選ばれた方に　おたずねします

◎この調査票を回答した方の続柄は何ですか。調査票のあて名の方からみた続柄をお答えください。【○は　１つだけ】

1．父親　　2．母親　　3．祖父母
4．配偶者（夫・妻）　　5．子ども　　6．兄弟姉妹
7．その他の家族　　8．サービス事業者（ホームヘルパーなど）
9．その他（　　）

全員におたずねします

◎回答にあたって、困ったことやその他ご意見がありましたら、お書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

福岡市　障がい福祉に関するアンケート調査
【身体・知的障がい児用】

【ご協力のお願い】

日頃から福岡市の福祉向上にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

福岡市では、障がいのある人が必要な支援を受けながら、自らの能力を最大限発揮し、地域や家庭でいきいきと生活することのできるまちづくりをめざし、「福岡市保健福祉総合計画」（令和３年度～令和８年度）および「第７期福岡市障がい福祉計画及び第３期福岡市障がい児福祉計画」（令和６年度～令和８年度）に基づき、障がい福祉施策を進めております。

今回、令和９年度以降の福岡市保健福祉総合計画等を作る基礎資料とするため、福岡市の身体・知的障がいのある方の中から 3,000 人の方に、生活の様子や福祉サービスに対するご意見やご要望などについて、アンケート調査を行うことといたしました。

この調査は、これからの福岡市の障がい福祉施策の充実のために実施するものです。

あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありません。

お手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和７年６月　　福岡市

記入にあたってのご注意

- この調査票は、**あて名のお子さんの保護者の方がお答えください。お子さんの将来のために、お子さんとも話し合いながらお答えください。**
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問は問４２までありますが、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
- 調査票・返信用封筒に住所やお名前を書く必要はありません。
- 調査票は、記入が終わったら、同封しております封筒（切手不要）に入れて、**７月２５日（金）まで**に、お送りください。
- ◆記入にあたって、ご不明な点がある方や支援が必要な方は、ご遠慮なくお問い合わせください。

【調査に関するお問い合わせ先】
福岡市役所 こども発達支援課 アンケート調査担当
電話：092-711-4178　ＦＡＸ：092-733-5718
E-mail：hattatsushien.CB@city.fukuoka.lg.jp

お子さん自身のことについておたずねします

問１　お子さんの性別を教えてください。（○は１つだけ）
※性的違和を感じている方は、お子さんの感じている性に○をつけてください。

１．男性	２．女性	３．答えたくない

問２　お子さんの年齢を教えてください。

満 [　　] 歳（令和７年６月１日現在）

問３　お子さんがお住まいの区はどこですか。（○は１つだけ）

１．東区	２．博多区	３．中央区	４．南区
５．城南区	６．早良区	７．西区	８．市外

問４　お子さんがお持ちの障害者手帳の種類と程度を教えてください。（①～③のそれぞれについて、○はあてはまるものすべて）

（それぞれあてはまるものに○）

障害者手帳の種類	手帳の有無	障がいの程度（手帳を持っている方）
① 身体障害者手帳	1．持っている 2．持っていない	1級　2級　3級　4級　5級　6級
② 療育手帳	1．持っている 2．持っていない	A1　A2　A3　B1　B2
③ 精神障害者保健福祉手帳	1．持っている 2．持っていない	1級　2級　3級

問４－１は、問４で「①身体障害者手帳」を「１．持っている」を選ばれた方におたずねします

問４－１　お子さんの**主な障がい**（障がいの部位）を教えてください。（○は１つだけ）

1．視覚障がい	2．聴覚障がい
3．平衡機能障がい	4．音声、言語、そしゃく機能障がい
5．肢体不自由（上肢）	6．肢体不自由（下肢）
7．肢体不自由（体幹等）	8．肢体不自由（全身性）
9．心臓機能障がい	10．じん臓機能障がい
11．呼吸器機能障がい	12．ぼうこう、直腸又は小腸機能障がい
13．肝臓機能障がい	14．その他（　　）

問５　主な障がい（障がいの部位）のほかに、**重複する障がい**があれば教えてください。（○はあてはまるものすべて）

1．主な障がい以外はない	2．視覚障がい
3．聴覚障がい	4．平衡機能障がい
5．音声、言語、そしゃく機能障がい	6．肢体不自由（上肢）
7．肢体不自由（下肢）	8．肢体不自由（体幹等）
9．肢体不自由（全身性）	10．呼吸器機能障がい
11．心臓機能障がい	12．じん臓機能障がい
13．ぼうこう、直腸又は小腸機能障がい	14．肝臓機能障がい
15．知的障がい	16．精神障がい
17．発達障がい	18．高次脳機能障がい
19．難病	20．その他（　　）

問６　お子さんは次のような障がいの診断を受けていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．知的なおくれ	2．ダウン症
3．脳性マヒ	4．てんかん
5．自閉症（知的障がいを伴うもの）	6．自閉症（知的障がいを伴わないもの）
7．広汎性発達障がい（知的障がいを伴うもの）	8．広汎性発達障がい（知的障がいを伴わないもの）
9．アスペルガー症候群	10．注意欠陥多動性障がい（ＡＤＨＤ）
11．学習障がい（ＬＤ）	12．その他（　　）
13．わからない	

問７　お子さんは、本来抱えている困難さとは別の二次的な情緒や行動などの問題を抱えていますか。（○は１つだけ）

※「不登校」「ひきこもり」「いじめ」「自傷・他傷」「破壊行動」などの問題を抱えていたり、PTSD・うつ・解離性障がい・適応障がいなどの、主な障がいとは別の症状を抱えていること。

1．現在、二次的な情緒や行動などの問題を抱えている
2．過去に二次的な情緒や行動などの問題を抱えていたが、現在は解消している
3．二次的な情緒や行動などの問題は抱えていない

問７－１は、問７で「1.」「2.」を選ばれた方におたずねします

問７－１　二次的な問題について、相談機関や医療機関の利用状況を教えてください。（○はあてはまるものすべて）

1．現在、相談機関を利用している（具体的に：　　）
2．現在、医療機関を利用している（具体的に：　　）
3．過去、相談機関を利用していた（具体的に：　　）
4．過去、医療機関を利用していた（具体的に：　　）
5．相談機関や医療機関を利用したことはない

生活の状況についておたずねします

問８　お子さんの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

１．家族の持ち家	２．民間の借家や賃貸アパート・マンションなど
３．市営・県営住宅、公営住宅、ＵＲ住宅	４．障がい者グループホーム
５．障がい者の入所施設	６．その他（　　）

問９　お子さんと一緒に暮らしている方はどなたですか。**お子さんからの続き柄**でお答えください。（○はあてはまるものすべて）

１．父親	２．母親	３．祖父母	４．兄弟姉妹
５．入所施設やグループホームなどの共同生活者			
６．その他（　　）			

問１０　ふだん、お子さんの身の回りの世話（介助）を主にしているのはどなたですか。（○は１つだけ）

１．父親	２．母親	３．祖父母
４．兄弟姉妹	５．その他の家族	
６．障がい福祉サービス事業者（ヘルパー、入所施設などの支援員など）		
７．その他（　　）	８．世話をしてもらう必要がない	

問１０－１は、問１０で「１.」～「５.」を選ばれた方におたずねします

問１０－１　身の回りの世話（介助）を主にしている方の年齢はいくつですか。（○は１つだけ）

１．19 歳以下	２．20 歳代	３．30 歳代
４．40 歳代	５．50 歳代	６．60～64 歳
７．65～74 歳	８．75 歳以上	

問１１　介助者が病気や事故で不在となった場合の緊急時の対応を事前に準備していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．相談支援事業所に相談し、事前に対応方法を決めている
２．短期入所事業所への受け入れを事前に依頼している
３．親族や知人に介助を依頼する
４．何も準備していない

障がいについておたずねします

問１２　お子さんの発達の遅れに気づいたのは、どういうきっかけでしたか。（○はあてはまるものすべて）

１．発達や行動が気になり自ら気づいた	２．親せきなどの身内から指摘された
３．友人から指摘された	４．乳幼児健診で指摘された
５．医療機関で指摘された	６．保育所（園）、幼稚園で指摘された
７．学校で指摘された	８．その他（　　）

問１３　発達の遅れに気づいてから、どこに相談し、診察・検査を求めに行きましたか。または、行っていますか。（○はあてはまるものすべて）

１．こども総合相談センター（児童相談所）	２．保健所
３．福祉事務所（区役所の福祉・介護保険課）	４．こども病院
５．こども病院以外の病院・医院	６．あいあいセンター(心身障がい福祉センター)
７．精神保健福祉センター	８．学校
９．発達教育センター	10．保育所（園）、幼稚園
11．西部療育センター	12．東部療育センター
13．南部療育センター	14．その他（　　）

問１４　医学的診断の結果、障がいがはっきりとわかったのは、お子さんが何歳の時でしたか。（○は１つだけ）

１．０歳	２．１歳	３．２歳	４．３歳
５．４歳	６．５歳	７．６～１１歳	８．１２～１４歳
９．１５～１７歳	10．わからない		

問１５　お子さんの障がいの状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦労、悩み、不安がありましたか。（○は３つまで）

1．障がいのことや福祉の制度についての情報が少なかった
2．身近に相談できる相手がいなかった
3．相談機関がわからなかった
4．保健所や福祉事務所（区役所の福祉・介護保険課）、あるいは病院などの専門機関でもっと指導してほしかった
5．適切な療育施設がほしかった
6．適切な医療機関がほしかった
7．子どもの介護・介助の手助けがほしかった
8．家族が働いているため、仕事上に問題が生じた
9．医療費に悩んだ
10．その他（　　）
11．特にない

療育や保育・教育についておたずねします

問１６　お子さんは、これまでに療育や身体の機能回復訓練（リハビリテーション※）を受けたことがありますか。または、受けていますか。（○は１つだけ）

※リハビリテーション：身体に障がいのある人や事故・病気による後遺症がある人などに、最大限の機能回復と社会生活への復帰を目指して行われる総合的な治療と訓練のことです。

1．療育や訓練を受けた（受けている）　　2．療育や訓練を受けていない

問１６－１は、問１６で「１．」を選ばれた方におたずねします

問１６－１　療育や訓練で利用した、または利用している施設はどこですか。（○はあてはまるものすべて）

1．あいあいセンター（心身障がい福祉センター）　2．児童発達支援センター
3．児童発達支援事業所　4．放課後等デイサービス
5．入所施設　6．こども病院
7．こども病院以外の病院・医院　8．学校
9．発達教育センター　10．西部療育センター
11．東部療育センター　12．南部療育センター
13．その他（　　）

問１７　お子さんの今後の療育、訓練について、どのような希望をお持ちですか。あなたの希望に最も近いものを選んでください。（○は１つだけ）

1．家庭で療育、訓練を受けたい
2．家庭から施設に通って療育、訓練を受けたい（児童発達支援や放課後等デイサービス）
3．施設に入って療育、訓練を受けたい（入所施設）
4．病院・医院に通院して治療、訓練を受けたい
5．病院・医院に入院して治療、訓練を受けたい
6．学校で指導、訓練を受けたい
7．保育所（園）・幼稚園で指導、訓練を受けたい
8．その他（　　）
9．特にない

問１８　お子さんは、学校や幼稚園・保育所（園）などに通っていますか。（○はあてはまるものすべて）

１．幼稚園	２．保育所（園）
３．盲・ろう学校幼稚部	４．児童発達支援センター
５．児童発達支援事業所	６．放課後等デイサービス
７．小学校（通常の学級）	８．小学校（特別支援学級）
９．特別支援学校(盲・ろう・養護学校)小学部	10．中学校（通常の学級）
11．中学校（特別支援学級）	12．特別支援学校（盲・ろう・養護学校）中学部
13．高等学校	14．特別支援学校（盲・ろう・養護学校）高等部
15．訪問教育	16．大学・短大・専門学校
17．その他（　　）	18．通っていない

問１８－１・２は、問１８で「１.」～「17.」を選ばれた方におたずねします

問１８－１　通園･通学で困っていることがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．園や学校までの距離が遠い
２．ひとりでは通えない
３．園での活動や学校の授業についていけない
４．トイレなどの設備が障がい者に配慮されていない
５．学校内・園内での介助や支援が十分でない
６．先生の配慮や生徒たちの理解が得られない
７．医療的なケア（吸引・導尿など）が受けられない
８．スクールカウンセラーなどの相談体制が十分でない
９．その他（　　）
10．特にない

問１８－２　通園・通学先にどのようなことを望みますか。
（○はあてはまるものすべて）

１．就学相談や進路相談などの相談体制を充実してほしい
２．能力や障がいの状況にあった支援をしてほしい
３．施設・設備・教材を充実してほしい
４．個別的な支援を充実してほしい
５．通常の学級での学習や交流の機会を増やしてほしい
６．関係機関などと連携を密にしてほしい
７．その他（　　）
８．特にない

外出の状況などについておたずねします

問１９　お子さんは、通園・通学や通勤、通院、買い物、レジャーなどの外出を１ヶ月にどのくらいしていますか。付き添い者と一緒に外出する場合も含めてお答えください。（○は１つだけ）

１．週に４回以上	２．週に３回	３．週に２回
４．週に１回	５．月に１～２回	６．外出しない

問１９－１・２は、問１９で「１.」～「５.」を選ばれた方におたずねします

問１９－１　どのようなところに外出することが多いですか。
（○はあてはまるものすべて）

１．仕事	２．児童発達支援や放課後等デイサービス
３．幼稚園・保育所（園）・学校	４．買い物
５．レジャー・スポーツ	６．美術館・映画など
７．親せきや友人を訪問	８．病院・医院など
９．役所や相談機関など	10．旅行・行楽
11．散歩・散策	12．食事・喫茶
13．その他（　　）	

問１９－２　どのような方法で、あるいはどのような移動手段を使って外出しますか。
（○はあてはまるものすべて）

１．徒歩	２．自転車・バイク	３．自家用車
４．タクシー	５．地下鉄	６．電車
７．バス	８．車いす	９．その他（　　）

問２０　お子さんの外出に関して、どのようなことに不便や困難を感じますか。
（○は５つまで）

1．歩道がない道路に危険を感じる
2．歩道に段差が多い
3．視覚障がい者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない
4．信号の変化がわかりにくく、危険を感じる
5．障がい者が安心して利用できる交通機関が少ない
6．ＩＣカードの使い方がわからない
7．障がい者用の駐車場が少ない
8．障がい者用トイレが少ない
9．エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない
10．エレベーターや障がい者用トイレなどの案内標識が少ない
11．道路に自転車などの障害物が多い
12．歩行者や走行自転車のマナーの悪さ
13．外出に必要な情報が得られない
14．付き添いをしてくれる人がいない
15．困った時、まわりの人が助けてくれない
16．まわりの人の目が気になる
17．外出に費用がかかりすぎる
18．その他（　　）
19．特にない

問２１　お子さんは、普段、どのようなコミュニケーション（意思疎通）の支援を利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

1．手話通訳者の派遣
2．要約筆記者の派遣
3．点字による支援（点訳）
4．音声による支援（音訳）
5．触手話や指点字による支援
6．代筆や代読による支援
7．イラストや単語を指差して意思を伝える方法による支援
8．パソコンやスマートフォン・携帯電話の利用
9．情報・意思伝達機器による支援（具体的に：　　）
10．わかりやすい日本語の使用（簡単な言葉を使う・漢字に読みがなをつけるなど）
11．継続して関わっていることに伴い、お子さんの意思をだいたい理解している人による支援（ヘルパーなどによる支援）
12．家族による支援
13．その他（　　）
14．何も利用していない

問２２　お子さんは、コミュニケーション（意思疎通）する上で、困っていることがありますか。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない

問２２－１は、問２２で「1.」を選ばれた方におたずねします

問２２－１　どのようなことで困っていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．面と向かって人と話すのが苦手
2．声や言葉がでにくい（声が聞こえない、言葉が出ない）ため、自分の思いが伝わりづらい
3．相手の話が聞き取りづらい
4．手話を理解する人が少ない
5．音声による情報量が少ない
6．写真や図表などの視覚情報の説明がされていない
7．話をうまく組み立てられない
8．難しい内容やあいまいな表現を理解することが難しい
9．どのように人とコミュニケーションをとればいいのかわからない
10．その他（　　）

福祉サービスの利用についておたずねします

福祉サービス・事業について

問２３　お子さんは、次のようなサービスを利用したことがありますか。また、今後（２～３年以内に）利用したいと思いますか。
1～27 の項目ごとに、利用状況と利用意向のそれぞれについて○をつけてください。

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
1	居宅介護	ヘルパーが訪問し、家事・身体介護などのサービスを提供する。	1	2	1	2	3
2	短期入所	介護している人が疾病などにより一時的に介護できない場合に施設などで宿泊を伴った日常生活上の支援を行う。	1	2	1	2	3
3	行動援護	行動上著しい困難を有する知的障がい者などに対し、予防的対応，外出時の介護などを行う。	1	2	1	2	3
4	同行援護	移動に著しい困難を有する視覚障がい者に対し、外出時において移動に必要な情報の提供、移動の援護を行う。	1	2	1	2	3
5	施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日の入浴、排泄、食事の介護などを行う。	1	2	1	2	3
6	生活介護	常時介護を必要とする人に、施設で日中の介護などを行う。	1	2	1	2	3
7	自立訓練	身体機能、生活能力の向上のために必要な訓練を行う。	1	2	1	2	3
8	就労移行支援	一般企業への就職を希望する人に訓練を行う。	1	2	1	2	3
9	就労継続支援（A型）	通所により、雇用契約に基づく就労の機会を提供する。	1	2	1	2	3
10	就労継続支援（B型）	通所により、就労の機会や生産活動の機会を提供する。	1	2	1	2	3
11	就労定着支援	企業、自宅等への訪問や体調管理などに関する課題の解決に向けた支援を実施する。	1	2	1	2	3
12	自立生活援助	定期的に居宅を訪問し、食事、洗濯などの課題や体調の変化や通院の状況などについて確認を行い、必要な助言などを行う。	1	2	1	2	3
13	グループホーム	地域で共同生活を営む住居において日常生活上の相談、介護などの支援を行う。	1	2	1	2	3
14	移動支援	一人での外出が困難な障がい者が、区役所や病院などへ外出する際、ヘルパーが外出の援助を行う。	1	2	1	2	3
15	日中一時支援	介護者が疾病などにより、一時的に介護できない場合に、施設などにおいて日中預かり、日常生活の支援を行う。	1	2	1	2	3
16	日常生活用具	障がい者（児）の日常生活の利便を図るための用具の給付を行う。	1	2	1	2	3
17	補装具	身体上の障がいを補うための「補装具」の購入や修理にかかる費用の支給を行う。	1	2	1	2	3
18	福祉乗車券の交付	重度の障がい者などに対して、公共交通機関の乗車券などを交付する。	1	2	1	2	3
19	福祉タクシー料金の助成	在宅の重度障がい者(児)がタクシーを利用する際、運賃の一部を助成する。	1	2	1	2	3
20	緊急通報システム	急病などの緊急事態の際に、受信センターへ通報できる緊急通報機器を設置する。	1	2	1	2	3
21	福岡市重度心身障がい者福祉手当	重度の心身障がい者（児）へ市独自の手当を支給する。在宅者 20,000 円/年、入所者 15,000 円/年	1	2	1	2	3

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
22	児童発達支援	障がいのある子どもに、通園施設などにおいて日常生活の指導や集団生活への適応訓練などを行う。	1	2	1	2	3
23	放課後等デイサービス	学校通学中の障がいのある子どもに、放課後や夏休みなどに生活能力向上のための訓練などを行う。	1	2	1	2	3
24	保育所等訪問支援	障がいのある子どもの通う保育所などを訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援を行う。	1	2	1	2	3
25	居宅訪問型児童発達支援	障がい児通所支援を受けるために外出することが著しく困難な障がいのある子どもの居宅を訪問し、日常生活における基本動作の指導などを行う。	1	2	1	2	3
26	障がい児入所支援	障がいのある子どもを入所施設などにおいて保護し、日常生活における基本動作の指導などを行う。	1	2	1	2	3
27	特別支援学校放課後等支援事業	特別支援学校に通う児童・生徒を放課後などにあずかる。	1	2	1	2	3

問２４　問２３の 1～27 のサービス・事業の中で、サービスの量が不足していたり、利用対象・範囲の拡大などを図るべきだと思うものがありますか。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない　　3．わからない

問２４－１は、問２４で「1．」を選ばれた方におたずねします

問２４－１　それはどのサービス・事業ですか。優先度が高いと思うものを３つまで選んでください。（事業番号は 1～27 の数字を記入してください）

事業番号	選んだ理由

今後の暮らし方についておたずねします

問２５　将来、お子さんが成人した後、さまざまな理由でご家族との同居ができなくなったとき、どのように暮らしてほしいと思いますか。（○は１つだけ）

1．一人で暮らす
2．グループホームなどの、地域で共同生活できる住居で暮らす
3．障がい者施設に入所する
4．その他（　　）
5．わからない

問２６　お子さんが、自宅やグループホームなどで生活するためには、どのような条件が必要だと思いますか。（○は３つまで）

1．昼間の介護を頼める人がいること
2．夜間の介護を頼める人がいること
3．調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること
4．お子さんの見守りを頼める人がいること
5．介護を受けながら日中活動を行う施設に通えること
6．就労や生活の自立、機能の回復へ向けて訓練を受けられる施設に通えること
7．就労継続支援事業所（A型、B型）で働けること
8．短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること
9．外出の介護を頼める人（ガイドヘルパー）のサービスがあること
10．主治医や医療機関が近くにあること
11．仕事があること
12．家族と同居できること
13．グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること
14．地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
15．スーパーや銀行などの生活に必要な機関が近くにあること
16．その他（　　）
17．特にない

情報収集や相談についておたずねします

問２７　お子さんの生活に関することで、福岡市からどのような情報が知りたいですか。（○はあてはまるものすべて）

1．障がい者に関わる福祉制度などのこと
2．居宅介護などの在宅で利用できるサービスに関すること
3．通所施設などの日中活動の情報に関すること
4．困ったときに相談ができる窓口や相談機関のこと
5．グループホーム、入所施設に関すること
6．学校の選び方などの就学に関すること
7．仕事の選び方などの就職や卒後の施設での活動などに関すること
8．文化・スポーツ・レクリエーション、レジャーなどの余暇活動に関すること
9．災害時の避難の仕方などの災害対策に関すること
10．ボランティア団体などのこと
11．その他（　　）
12．特にない

問２８　福岡市が実施している福祉施策について、あなたが知る手掛かりとなっているのは、次のどれですか。（○はあてはまるものすべて）

1．市政だより　　2．新聞
3．テレビ・ラジオ　　4．ホームページ
5．団体の機関紙など　　6．区役所の福祉・介護保険課
7．障がい者更生相談所　　8．民生委員・児童委員
9．障がい者相談員　　10．こども総合相談センター（児童相談所）
11．あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター・南部療育センター
12．ゆうゆうセンター　　13．通所または入所している施設
14．区障がい者基幹相談支援センター　　15．計画相談支援事業所
16．福岡市情報プラザ（福岡市役所１階）　　17．居宅介護や外出の支援をするヘルパーなど
18．手話放送、字幕放送　　19．その他（　　）
20．特にない

問２９　お子さんを育てていくうえで、困っていることや心配なこと、悩んでいることがありますか。（○は３つまで）

１．教育のこと	２．身体、心の健康や障がいのこと
３．生活費などの経済的なこと	４．住まいのこと
５．通っているまたは入所している施設のこと	
６．仕事のこと	７．家族のこと
８．障がい児福祉施策のこと	９．老後や将来のこと
10．その他（　　）	11．特にない

問３０　福岡市には、障がいのある方からのさまざまな相談事に応じる窓口として，次のような窓口があります。
これらの相談窓口があることを知っていましたか。また、利用したことがありますか。
さらに、「利用したことがある」を選ばれた方は、その時の満足度はどうでしたか。
①～⑩の項目ごとに、認知度、利用状況、満足度のそれぞれについて○をつけてください。

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
記入例	①	2	①	2	1	②	3	4
①区役所の福祉・介護保険課（障がい福祉サービスの利用などに関する相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
②こども総合相談センター（20歳未満の人に関する保健・福祉・教育などの専門的・総合的な相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
③あいあいセンター（心身障がい福祉センター）、西部療育センター、東部療育センター、南部療育センター（子どもの発達に関する相談をうけ、医学的な診断と発達評価に基づいた支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4

地域とのかかわりについておたずねします

問３１　お子さん（家族の方も含む）は、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．会った時はあいさつしあう
2．あいさつだけでなく、親しく話をしている（世間話）
3．一緒に遊んだり、出かけたりする
4．子ども会などの地域活動に一緒に参加する
5．盆踊りや祭りなどのイベントを一緒に楽しむ
6．地域のサークルで趣味やスポーツの活動を一緒にする
7．保育所（園）・幼稚園や学校などの行事に参加する
8．入所・通所している施設の行事などで交流する
9．その他（　　）
10．つきあいはしていない

問３２　あなたは、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

1．簡単な身の周りの世話をする
2．外出時に付き添う
3．普段から定期的に声かけなどをする
4．相談相手になる
5．世間話をして一緒に過ごす
6．地域の行事やイベントに一緒に参加する
7．趣味やスポーツ活動を一緒にする
8．災害時の支援
9．その他（　　）
10．特にない

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
④区障がい者基幹相談支援センター （市内14か所のセンターで、障がいがある人の在宅生活全般に関する相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑤ゆうゆうセンター （発達障がい者支援センター） （発達障がいのある人に対して総合的な相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑥福岡市障がい者１１０番 （差別の解消や、権利擁護に関する相談などに対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑦身体障がい者相談員、知的障がい者相談員 （障がいのある人の日常生活の問題について、地域の相談員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑧民生委員・児童委員 （障がいのある人の日常生活のな問題について、身近な地域で民生委員・児童委員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑨障がい者就労支援センター （障がいのある人や家族、企業などの相談に応じ、「ジョブコーチ」を派遣したり、職場を開拓するなどの支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑩社会福祉協議会 （生活福祉資金の貸付や日常生活への支援、ボランティア利用など、様々な生活の相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4

防災についておたずねします

問３３　お子さんが、地震などの災害が発生したときに、困ることや不安なことは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．子どもが災害の情報を知る方法がない
2．子どもが助けを求める方法がない
3．近くに助けてくれる人がいない
4．一人では避難できない
5．避難所の設備が障がいに対応しているか不安
6．避難所で必要な支援が受けられるか不安
7．避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい
8．薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
9．医療機器の電源確保が心配
10．特にない
11．その他（　　）
12．わからない

問３４　お子さんのために、災害に対してどのような備えをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．日頃から家族で災害時の対応を話し合っている
2．非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている
3．疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている
4．近所の人や知人などに，災害が発生した時の助けをお願いしている
5．「避難行動要支援者名簿」に登録している
6．避難先を確保している
7．その他（　　）
8．特にない

問３５　水害や地震などの災害が発生したときに、お子さんの安全の確保などで頼れる人はどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

1．同居の家族
2．同居している家族以外の親族
3．友人・知人
4．福祉サービスの事業者
5．その他（　　）
6．頼る必要がない（自力で避難などができる）
7．頼れる人がいない

問３６　あなたは、福岡市は安全・安心のための社会環境整備ができていると感じていますか。（○は１つだけ）

1．感じている
2．どちらかといえば感じている
3．どちらかといえば感じていない
4．感じていない
5．わからない

差別や人権についておたずねします

問３７　ここ２～３年の間に、障がいがあるため、差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。（○は１つだけ）

１．ある　　２．ない

問３７－１は、問３７で「１．」を選ばれた方におたずねします

問３７－１　どのようなことで、いやな思いをしましたか。
（○はあてはまるものすべて）

1. 病院などで診察を断られた
2. バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあった
3. 家を借りる時に不動産業者や家主に断られた
4. ホテル・旅館、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られた
5. 障がいを理由とした不採用や解雇
6. 役所の窓口に行ったとき、職員の対応で不愉快な思いをした
7. 相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした
8. 居宅介護や外出の支援をするヘルパーなどの対応で不愉快な思いをした
9. 入所・通所している施設、保育所（園）・幼稚園や学校の職員及び他の児童生徒の対応で不愉快な思いをした
10. バス、電車、タクシーの乗員の対応で不愉快な思いをした
11. 近所の人達の対応で不愉快な思いをした
12. その他（　　）
13. 思い出せない

問３８　障がい者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。（○は３つまで）

1. 障がい者の意見や行動が尊重されないこと（結婚、就職に際しての周囲の反対など）
2. 差別的な言動を受けること
3. 聴覚や視覚に障がいのある人などへ必要な情報を伝える配慮が足らないこと
4. 人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと
5. 道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと
6. 働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと
7. 住宅を容易に借りることができないこと
8. 就職・職場で不利な扱いを受けること
9. 役所の窓口において不当な扱いを受けること
10. 病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受けること
11. 使える在宅サービスや福祉施設・病院が少ないこと
12. 学校の受け入れ体制が不十分なこと
13. 詐欺や悪徳商法の被害を受けやすいこと
14. スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと
15. その他（　　）
16. 特にない

福祉施策全般についておたずねします

問３９　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**国や県、市に**、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1．障がいの早期発見・早期支援体制の充実
2．特別支援教育の充実
3．障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実
4．就労支援の充実（働くための訓練や職場定着など）
5．施設で働ける場（就労継続支援事業所など）の充実
6．居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実
7．年金など、所得保障の充実
8．グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
9．困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実
10．乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり
11．障がい者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリーの推進など）
12．文化・スポーツなどを通じた社会参加の支援
13．障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実
14．介護や訓練が受けられる施設（入所・通所）の充実
15．行政自体の設備や手続きなどを含めたバリアフリーの推進
16．その他（　　）
17．特にない
18．わからない

問４０　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**地域社会や企業**に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1．障がいに対する理解を深める
2．障がい者をはじめ、困っている人を支える地域活動やボランティア活動を活発にする
3．地域の行事やイベントに障がい者が参加しやすいよう配慮する
4．電車やバスなどの公共交通機関や建物、店舗、住居などを障がい者が利用しやすいようにつくる
5．企業で障がい者を積極的に雇用する
6．障がい者施設などで作ったものを購入する
7．その他（　　）
8．特にない
9．わからない

問４１　あなたは、福岡市は障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じていますか。（○は１つだけ）

1．感じている　　2．どちらかといえば感じている
3．どちらかといえば感じていない　　4．感じていない
5．わからない

問４２　障がい者福祉についてご意見がありましたら，自由に記入してください。

◎この調査票はどなたが回答しましたか。お子さんからみた**続柄**をお答えください。（○は１つだけ）

1．父親　　2．母親　　3．祖父母　　4．兄弟姉妹
5．その他の家族　　6．その他（　　）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

（４）精神障がい者調査

記入にあたってのご注意

●この調査票は、できる限りご本人（封筒のあて名の方）がお答えください。ご本人の回答や記入が難しい場合は、介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。

●鉛筆またはボールペンでご記入ください。

●回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。

●質問は問４１までありますが、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。

●調査票・返信用封筒に住所やお名前を書く必要はありません。

●調査票は、記入が終わったら、同封している封筒（切手不要）に入れて、**７月２５日（金）まで**に、お送りください。

◆記入にあたって、ご不明な点がある方は、お問い合わせください。

【調査に関するお問い合わせ先】

福岡市精神保健福祉センター　アンケート調査担当

電話：092-737-8825　　ＦＡＸ：092-737-8827

E-mail：seishinhoken.PHB@city.fukuoka.lg.jp

福岡市　障がい福祉に関するアンケート調査

【精神障がい者用】

【ご協力のお願い】

日頃から福岡市の福祉向上にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

福岡市では、障がいのある人が必要な支援を受けながら、自らの能力を最大限発揮し、地域や家庭でいきいきと生活することのできるまちづくりをめざし、「福岡市保健福祉総合計画」（令和３年度～令和８年度）および「第７期福岡市障がい福祉計画及び第３期福岡市障がい児福祉計画」（令和６年度～令和８年度）に基づき、障がい福祉施策を進めております。

今回、令和９年度以降の福岡市保健福祉総合計画等を作る基礎資料とするため、福岡市にお住まいの精神障がい者の中から 1,000人の方に、生活の様子や福祉サービスに対するご意見やご要望などについて、アンケート調査を行うことといたしました。

この調査は、これからの福岡市の障がい福祉施策の充実のために実施するものです。

あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありません。

お手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和７年６月

福岡市

あなた自身のことについておたずねします

問1　あなたの性別を教えてください。（○は１つだけ）
※性的違和を感じている方は、あなたの感じている性に○をつけてください。

1．男性	2．女性	3．答えたくない

問2　あなたの年齢を教えてください。

満［　　］歳（令和7年6月1日現在）

問3　あなたがお住まいの区はどこですか。（○は１つだけ）

1．東区	4．南区	7．西区
2．博多区	5．城南区	8．市外
3．中央区	6．早良区	

問4　あなたがお持ちの障害者手帳などについて、①～⑤のそれぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。⑤は４０歳以上の方のみお答えください。

① 身体障害者手帳	1．持っている 2．持っていない	1級　2級　3級 4級　5級　6級
② 療育手帳	1．持っている 2．持っていない	A1　A2　A3 B1　B2
③ 精神障害者保健福祉手帳	1．持っている 2．持っていない	1級　2級　3級
④ 障がい支援区分	1．受けている → 2．非該当 3．申請していない	区分1　区分2　区分3 区分4　区分5　区分6
⑤ 要介護認定（４０歳以上の方のみ）	1．受けている → 2．非該当 3．申請していない	要支援1　要支援2　要介護1　要介護2 要介護3　要介護4　要介護5

→【 問4－1へ 】

問4－1は、問4で「③精神障害者保健福祉手帳」を「1．持っている」を選ばれた方におたずねします

問4－1　あなたの主な診断名を教えてください。（○は１つだけ）

1．認知症
2．物質依存症（アルコール依存症、薬物依存症など）
3．統合失調症
4．気分障がい（うつ病、双極性感情障がいなど）
5．その他（※）（　　）
6．わからない

※その他の例：神経症、知的障がい、発達障がいなど

問5　あなたは、これまで精神科・神経科の入院経験がありますか。入院経験のある方は、入院回数を教えてください。（○は１つだけ）

1．入院したことがある　⇒（　　）回
2．入院したことがない
3．わからない
4．現在、入院中である

問5－1・問5－2は、問5で「1．」を選ばれた方におたずねします

問5－1　前回の入院期間を教えてください。（○は１つだけ）

1．1ヶ月未満	4．6ヶ月～1年未満	7．5～10年未満
2．1～3ヶ月未満	5．1～3年未満	8．10年以上
3．3～6ヶ月未満	6．3～5年未満	9．わからない

問5－2　前回退院してどのくらいの期間が経過しましたか。（○は１つだけ）

1．1ヶ月未満	4．6ヶ月～1年未満	7．5～10年未満
2．1～3ヶ月未満	5．1～3年未満	8．10年以上
3．3～6ヶ月未満	6．3～5年未満	9．わからない

問６　あなたは、精神科・神経科に通院していますか。（○は１つだけ）

1．ほぼ主治医の指示どおりに通院している
2．不定期に通院している
3．通院していない

問６－１は、問６で「１.」「２.」を選ばれた方におたずねします

問６－１　どのくらいの頻度で通院していますか。（○は１つだけ）

1．週２回以上	3．隔週に１回程度	5．月１回未満
2．週１回程度	4．月１回程度	6．その他

生活状況についておたずねします

問７　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

1．自分や家族の持ち家
2．民間の借家や賃貸アパート・マンションなど
3．市営・県営住宅、公社住宅・ＵＲ住宅
4．障がい者グループホーム
5．障がい者の入所施設
6．その他（　　）

問８　ご家族などとの同居の状況についておたずねします。
あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか。**あなたからの続柄**でお答えください。（○はあてはまるものすべて）

1．父親
2．母親
3．祖父母
4．配偶者（夫・妻）
5．子ども
6．兄弟姉妹
7．グループホーム、入所施設などの共同生活者
8．その他（　　）
9．同居者はいない（一人暮らし）

問９　ふだん、あなたの身の回りの世話（介助）を主にしているのはどなたですか。
（○は１つだけ）

1．父親
2．母親
3．祖父母
4．配偶者（夫・妻）
5．子ども
6．兄弟姉妹
7．その他の家族
8．障がい福祉サービス事業者（ヘルパー、グループホーム・入所施設などの支援員など）
9．その他（　　）
10．世話をしてもらう必要がない

問９－１は、問９で「１.」～「７.」を選ばれた方におたずねします

問９－１　身の回りの世話（介助）を主にしている方の年齢はいくつですか。
（○は１つだけ）

1．19歳以下	4．40歳代	7．65～74歳
2．20歳代	5．50歳代	8．75歳以上
3．30歳代	6．60～64歳	

問１０　介助者が病気や事故で不在となった場合の緊急時の対応を事前に準備していますか。
（○はあてはまるものすべて）

1．相談支援事業所に相談し、事前に対応方法を決めている
2．短期入所事業所への受け入れを事前に依頼している
3．親族や知人に介助を依頼する
4．何も準備していない

外出の状況などについておたずねします

問１１　あなたは、通勤や通学、通所、買い物、通院、レジャーなどの外出を１ヶ月にどのくらいしていますか。付き添い者と一緒に外出する場合も含めてお答えください。

（○は１つだけ）

1．週に4回以上	3．週に2回	5．月に1～2回
2．週に3回	4．週に1回	6．外出しない

問１１－１・問１１－２は、問１１で「1.」～「5.」を選ばれた方におたずねします

問１１－１　どのようなところに外出することが多いですか。

（○はあてはまるものすべて）

1．仕事	8．病院・医院など
2．通所施設など	9．役所や相談機関など
3．学校	10．旅行・行楽
4．買い物	11．散歩・散策
5．レジャー・スポーツ	12．食事・喫茶
6．美術館・映画など	13．その他（　　）
7．親せきや友人を訪問	

問１１－２　どのような移動手段を使って外出しますか。（○はあてはまるものすべて）

1．徒歩	4．タクシー	7．バス
2．自転車・バイク	5．地下鉄	8．車いす
3．自家用車	6．電車	9．その他（　　）

問１２　あなたは、外出する時、どのようなことに不便や困難を感じますか。

（○は５つまで）

1．歩道がない道路に危険を感じる
2．歩道に段差が多い
3．視覚障がい者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない
4．信号の変化がわかりにくく、危険を感じる
5．障がい者が安心して利用できる交通機関が少ない
6．ＩＣカードの使い方がわからない
7．障がい者用の駐車場が少ない
8．障がい者用トイレが少ない
9．エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない
10．エレベーターや障がい者用トイレなどの案内標識が少ない
11．道路に自転車などの障害物が多い
12．歩行者や走行自転車のマナーの悪さ
13．外出に必要な情報が得られない
14．付き添いをしてくれる人がいない
15．困った時、まわりの人が助けてくれない
16．まわりの人の目が気になる
17．外出に費用がかかりすぎる
18．その他（　　）
19．特にない

就労の状況についておたずねします

問１３～１９は、あなたの現在の就労状況によって回答する質問が異なります。
下記に従ってお進みください。

現在働いている方
○正規の社員・従業員として働いている方（自営業を含む）
○パートやアルバイトとして働いている方（家業手伝いを含む）
○施設で働いている方
（生活介護、生活訓練は含まない）

→ 問１３～１５へ

以前、働いていたが仕事をやめた方

→ 問１６へ

働いた経験がない方

→ 問１７～１９へ

問１３～１５は、現在働いている方のみお答えください

問１３　あなたの就労形態は何ですか。（○は１つだけ）

1. 自営業主
2. 家族従事者
3. 正規の社員・従業員
4. 臨時・日雇、アルバイト、パート
5. 派遣社員
6. 内職
7. 施設で働いている（就労継続支援事業所など）
8. 将来、企業などで働くため、施設に通っている（就労移行支援事業所など）

問１４　どのような方法で仕事を探しましたか。（○はあてはまるものすべて）

1. ハローワークからのあっせん（紹介）
2. 障がい者就労支援センターに支援してもらった
3. 地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターに支援してもらった
4. 学校、各種学校の紹介
5. 職業能力開発施設（職業能力開発校など）の紹介
6. 施設（就労移行支援事業所など）に支援してもらった
7. 病院関係者からの紹介
8. 求人誌などで自分で探した
9. 家族、親せきの紹介
10. 家族・親せきなどの経営する会社・店で働いた
11. 知り合いの紹介
12. 障がい者団体の紹介
13. 起業した
14. その他（　　）

問１５　あなたの、ふだんの月収（手取り額）はどのくらいですか。賞与などの臨時的に支給されるものは除きます。（○は１つだけ）

1. ３，０００円未満
2. ３，０００円～５，０００円未満
3. ５，０００円～１万円未満
4. １万円～３万円未満
5. ３万円～５万円未満
6. ５万円～１０万円未満
7. １０万円～１５万円未満
8. １５万円～２０万円未満
9. ２０万円～３０万円未満
10. ３０万円以上
11. 収入はない

→ **問１３～１５を回答した方は、問１７へお進みください**

問１６は、以前働いていたが仕事をやめた方のみお答えください

問１６　仕事をやめた原因は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．障がいや病気で働くことが難しくなったため
2．職場の人間関係が上手くいかなかったため
3．仕事内容が自分には向いていなかったため
4．職場で必要な支援を受けることができなかったため
5．家庭の事情（家事・結婚・育児など）のため
6．倒産など会社の都合
7．会社から解雇されたため
8．定年退職のため
9．職場や通勤経路のバリアフリー化が進んでいなかったため
10．その他（　　）

ここからは、全員におたずねします

問１７　あなたは、今後、働きたい（働き続けたい）ですか。（○は１つだけ）

1．働きたい（働き続けたい）　　2．働きたくない

問１８　障がいのある人が働くことについて社会の理解があると思いますか。（○は１つだけ）

1．あると思う
2．ある程度あると思う
3．あまりあると思わない
4．あると思わない
5．わからない

問１８－１は、問１８で「3.」「4.」を選ばれた方におたずねします

問１８－１　障がいのある人が働くことについて社会の理解があると思わない理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．障がい者の働く場（雇用機会）が少ないため
2．障がい者が働くための情報提供が進んでいないため
3．障がい者が働くための相談機関が少ないため
4．障がい者の雇用・労働条件の整備が進んでいないため
（例：勤務時間、勤務日数の配慮、休憩時間の確保など）
5．障がい者雇用に関する制度が不十分なため
（例：障がい者雇用の促進、雇用主への助成、支援員の不足など）
6．職業訓練機会が不足しているため
7．障がいへの理解が進んでいないため（差別や偏見が残っているため）
8．通勤経路のバリアフリー化が進んでいないため
9．職場環境のバリアフリー化が進んでいないため
10．その他（　　）

問１９　どのような働き方や制度が充実すれば障がいのある人が働きやすいと思いますか。

（○はあてはまるものすべて）

1. 収入の増加
2. 在宅勤務
3. 短時間勤務などの労働（作業）時間の配慮
4. 調子の悪いときに休みを取りやすくする
5. 配置転換などの人事管理面についての配慮
6. 通院時間の確保・服薬管理など医療上の配慮
7. 仕事（作業）の内容の簡略化などの配慮
8. 仕事（作業）上の援助や本人・周囲への助言を行う者（ジョブコーチなど）による支援
9. 職場復帰のための訓練機会の提供・充実
10. 職業生活・生活全般に関する相談支援の充実（障がい者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターなど）
11. 試しにいろいろな仕事（作業）を体験してみること（職場実習など）
12. 障がい者雇用のきっかけづくり（トライアル雇用※）
13. ピアサポーターなど病気の経験を生かして働けること
14. その他（　　）

※トライアル雇用：約３～６か月間の試行雇用を通じて、企業との間で相互理解を深め、お互いの不安を解消することで、障がいのある方の継続雇用をめざす制度。

福祉サービスの利用についておたずねします

福祉サービス・事業について

問２０　あなたは、次のようなサービスを利用したことがありますか。また、今後（２～３年以内に）利用したいと思いますか。

①～⑳の項目ごとに利用状況と利用意向のそれぞれについて○をつけてください。

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
記入例			1	(2)	(1)	2	3
①	居宅介護	ヘルパーが訪問し、家事・身体介護などのサービスを提供する。	1	2	1	2	3
②	重度訪問介護	重度の障がいがあり常に介護が必要な人に、ヘルパーが訪問し、家事・身体介護や外出時の移動の支援などのサービスを提供する。	1	2	1	2	3
③	短期入所	介護している人が疾病などにより一時的に介護できない場合に施設などで宿泊を伴った日常生活上の支援を行う。	1	2	1	2	3
④	行動援護	行動上著しい困難を有する知的障がい者や精神障がい者に対し、予防的対応、外出時の介護等を行う。	1	2	1	2	3
⑤	施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日の入浴、排泄、食事の介護などを行う。	1	2	1	2	3
⑥	生活介護	常時介護を必要とする人に、施設で日中の介護などを行う。	1	2	1	2	3
⑦	自立訓練	身体機能、生活能力の向上のために必要な訓練を行う。	1	2	1	2	3

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
⑱	福祉乗車券の交付	重度の障がい者などに対して、公共交通機関の乗車券などを交付する。	1	2	1	2	3
⑲	福祉タクシー料金の助成	在宅の重度障がい者(児)がタクシーを利用する際、運賃の一部を助成する。	1	2	1	2	3
⑳	地域活動支援センター	在宅の障がい者を対象として創作的活動または生産活動を提供し、社会との交流を促進する場。	1	2	1	2	3

問２１　問２０の①～⑳のサービス・事業の中で、サービスの量が不足していたり、利用対象・範囲の拡大などを図るべきだと思うものがありますか。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない　　3．わからない

問２１－１は、問２１で「1.」を選ばれた方におたずねします

問２１－１　それはどのサービス・事業ですか。優先度が高いと思うものを３つまで選んでください。（事業番号は①～⑳の数字を記入してください）

事業番号	選んだ理由

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
⑧	就労移行支援	一般企業への就職を希望する人に訓練を行う。	1	2	1	2	3
⑨	就労継続支援（A型）	通所により、雇用契約に基づく就労の機会を提供する。	1	2	1	2	3
⑩	就労継続支援（B型）	通所により、就労の機会や生産活動の機会を提供する。	1	2	1	2	3
⑪	就労定着支援	企業、自宅等への訪問や体調管理などに関する課題の解決に向けた支援を行う。	1	2	1	2	3
⑫	自立生活援助	定期的に居宅を訪問し、食事、洗濯などの課題や体調の変化や通院の状況などについて確認を行い、必要な助言などを行う。	1	2	1	2	3
⑬	共同生活援助（グループホーム）	地域で共同生活を営む住居において日常生活上の相談、介護などの支援を行う。	1	2	1	2	3
⑭	移動支援	一人での外出が困難な障がい者が、区役所や病院などへ外出する際、ヘルパーが外出の援助を行う。	1	2	1	2	3
⑮	日中一時支援	介護者が疾病等により、一時的に介護できない場合に、施設等において日中預かり、日常生活の支援を行う。	1	2	1	2	3
⑯	重度障がい者等就労支援事業	重度障がい者等の通勤や職場等における支援を行う。	1	2	1	2	3
⑰	日常生活用具	障がい者(児)の日常生活の利便を図るための用具の給付を行う。	1	2	1	2	3

今後の暮らし方についておたずねします

問２２　あなたは、今後（親なき後を含む）、どのように暮らしたいと思いますか。
（○は１つだけ）

1．一人で暮らしたい
2．家族と一緒に暮らしたい
3．グループホームなどの地域で共同生活できる住居で暮らしたい
4．障がい者施設に入所したい
5．高齢者施設に入所したい
6．その他（　　）
7．わからない

問２３　自宅やグループホームなどで生活するためには、どのような条件が必要だと思いますか。
（○は３つまで）

1．昼間の介護を頼める人がいること
2．夜間の介護を頼める人がいること
3．調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること
4．介護を受けながら日中活動を行う施設に通えること
5．就労や生活の自立、機能の回復へ向けて訓練を受けられる施設に通えること
6．就労継続支援事業所（A型、B型）で働けること
7．短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること
8．外出の介護を頼める人（ガイドヘルパー）のサービスがあること
9．主治医や医療機関が近くにあること
10．仕事があること
11．家族と同居できること
12．グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること
13．地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
14．スーパーや銀行などの生活に必要な機関が近くにあること
15．ピアスタッフ（当事者の職員）がいる福祉施設などがあること
16．その他（　　）
17．特にない

問２４　自宅やグループホームなどで生活するためには、どのような医療の支援が必要だと思いますか。
（○は３つまで）

1．精神科医の往診
2．精神科デイケアや訪問看護の充実
3．夜間や休日に対応（受診・入院）できる精神科の医療機関
4．多職種チームにて、訪問による生活支援・就労支援・家族支援・医療支援などを行うアウトリーチ支援
5．夜眠れない時などに利用できる医療に関する電話相談
6．その他（　　）
7．特にない

情報収集や相談についておたずねします

問２５　あなたは、生活に関することで、福岡市からどのような情報が知りたいですか。
（○はあてはまるものすべて）

1．障がい者に関わる福祉制度などのこと
2．居宅介護などの在宅で利用できるサービスに関すること
3．通所施設などの日中活動の情報に関すること
4．グループホーム、入所施設に関すること
5．困ったときに相談ができる窓口や相談機関のこと
6．仕事の選び方などの就職に関すること
7．文化・スポーツ・レクリエーション、レジャーなどの余暇活動に関すること
8．災害時の避難の仕方などの災害対策に関すること
9．ボランティア団体などのこと
10．その他（　　）
11．特にない

問２６　福岡市が実施している福祉施策について、あなたが知る手掛かりとなっているのは、次のどれですか。（○はあてはまるものすべて）

1. 市政だより
2. 新聞
3. テレビ・ラジオ
4. ホームページ
5. 団体の機関紙など
6. 区役所、各区保健福祉センター、保健所
7. 精神保健福祉センター
8. 民生委員・児童委員
9. 障がい者相談員
10. 通所または入所している施設
11. あいあいセンター
12. ゆうゆうセンター
13. 区障がい者基幹相談支援センター
14. 計画相談支援事業所
15. 居宅介護や外出の支援をするヘルパーなど
16. 地域活動支援センター
17. 福岡市情報プラザ（福岡市役所１階）
18. 医療機関
19. その他（　　）
20. 特にない

問２７　あなたは、今の生活の中で困っていることや心配なこと、悩んでいることがありますか。（○は３つまで）

1. 身体、心の健康や障がいのこと
2. 家族のこと
3. 生活費などの経済的なこと
4. 障がい福祉サービスのこと
5. 住まいのこと
6. 仕事のこと
7. 通所または入所している施設のこと
8. 老後や将来のこと
9. その他（　　）
10. 特にない

問２８　福岡市には、障がいのある方からのさまざまな相談事に応じる窓口として、次のような窓口があります。
あなたは、これらの相談窓口があることを知っていましたか。また、利用したことがありますか。
さらに、「利用したことがある」を選ばれた方は、その時の満足度はどうでしたか。
①～⑪の項目ごとに、認知度、利用状況、満足度のそれぞれについて○をつけてください。

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
記入例	①	2	①	2	①	2	3	4
① 区保健福祉センター（健康課） （障がい福祉サービスの利用などに関する相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
② 保健所（精神保健・難病対策課） （精神保健福祉の総合相談窓口として、措置入院や医療保護入院などに関する相談などに対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
③ 精神保健福祉センター （精神保健福祉の専門相談窓口として依存症、ひきこもり、自殺予防などに対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
⑨ 社会福祉協議会 （生活福祉資金の貸付や日常生活への支援、ボランティア利用など、様々な生活の相談に対応する。）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑩ ひきこもり成年地域支援センター（よかよかルーム） （市内在住の概ね20歳以上のひきこもり状態にある本人やその家族の相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑪ 障がい者就労支援センター （障がいのある人や家族、企業などの相談に応じ、「ジョブコーチ」を派遣したり、職場を開拓するなどの支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
④ 障がい者基幹相談支援センター （市内14か所のセンターで、障がいがある人の在宅生活全般に関する相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑤ 福岡市障がい者１１０番 （差別の解消や、権利擁護に関する相談などに対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑥ ゆうゆうセンター（発達障がい者支援センター） （発達障がいのある人に総合的な相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑦ あいあいセンター（心身障がい福祉センター） （子どもの発達に関する相談支援や成人の障がい者の社会生活や就労支援などを行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑧ 民生委員・児童委員 （障がいのある人の日常生活の問題について、身近な地域で民生委員・児童委員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4

地域とのかかわりについておたずねします

問２９　あなたのご近所の方との関係は、次のどれに近いですか。（○は１つだけ）

1．何か困ったときに助け合う親しい人がいる
2．たまに家を訪問し合う人がいる
3．立ち話をする程度の人ならいる
4．あいさつをする程度の人ならいる
5．ほとんど付き合いはない

問３０　ここ２～３年の間、地域での行事（町内会などが実施する防災訓練、夏祭りなど）に参加したことがありますか。（○は１つだけ）

1．参加している
2．たまに参加している
3．ほとんど参加していない
4．参加していない
5．そのような行事があることを知らない

問３１　あなたは、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

1．簡単な身の周りの世話をする
2．外出時に付き添う
3．普段から定期的に声かけなどをする
4．相談相手になる
5．世間話をして一緒に過ごす
6．地域の行事やイベントに一緒に参加する
7．趣味やスポーツ活動を一緒にする
8．災害時の支援
9．その他（　　）
10．特にない

防災についておたずねします

問３２　あなたが、地震などの災害が発生したときに、困ることや不安なことは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．災害の情報を知る方法がない
2．助けを求める方法がない
3．近くに助けてくれる人がいない
4．一人では避難できない
5．避難所の設備が障がいに対応しているか不安
6．避難所で必要な支援が受けられるか不安
7．避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい
8．薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
9．医療機器の電源確保が心配
10．特にない
11．その他（　　）
12．わからない

問３３　あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．日頃から家族で災害時の対応を話し合っている
2．非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている
3．疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている
4．近所の人や知人などに、災害が発生した時の助けをお願いしている
5．「避難行動要支援者名簿」に登録している
6．避難先を確保している
7．その他（　　）
8．特にない

問３４　あなたが、水害や地震などの災害が発生したときに、安全の確保などで頼れる人はどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

1．同居の家族
2．同居している家族以外の親族
3．友人・知人
4．福祉サービスの事業者
5．その他（　　）
6．頼る必要がない（自力で避難などができる）
7．頼れる人がいない

問３５　あなたは、福岡市は安全・安心のための社会環境整備ができていると感じていますか。（○は１つだけ）

１．感じている	４．感じていない
２．どちらかといえば感じている	５．わからない
３．どちらかといえば感じていない	

差別や人権についておたずねします

問３６　あなたは、ここ２～３年の間に、障がいがあるため、差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。（○は１つだけ）

１．ある　　２．ない

問３６－１は、問３６で「１．」を選ばれた方におたずねします

問３６－１　どのようなことで、いやな思いをしましたか。
（○はあてはまるものすべて）

１．病院・診療所などで診察を断られた
２．バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあった
３．家を借りる時に不動産業者や家主に断られた
４．ホテル・旅館、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られた
５．障がいを理由とした不採用や解雇
６．役所の窓口に行ったとき、職員の対応で不愉快な思いをした
７．相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした
８．学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた
９．居宅介護や外出の支援をするヘルパーなどの対応で不愉快な思いをした
10．入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で不愉快な思いをした
11．バス、電車、タクシーの乗員の対応で不愉快な思いをした
12．近所の人達の対応で不愉快な思いをした
13．その他（　　）
14．思い出せない

問３７　障がい者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。（○は３つまで）

１．障がい者の意見や行動が尊重されないこと
（結婚、就職に際しての周囲の反対など）
２．差別的な言動を受けること
３．聴覚や視覚に障がいのある人などへ必要な情報を伝える配慮が足らないこと
４．人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと
５．道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと
６．働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと
７．住宅を容易に借りることができないこと
８．就職・職場で不利な扱いを受けること
９．役所の窓口において不当な扱いを受けること
10．病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受けること
11．利用できる在宅サービスや福祉施設・病院が少ないこと
12．学校の受け入れ体制が不十分なこと
13．詐欺や悪徳商法の被害を受けやすいこと
14．スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと
15．その他（　　）
16．特にない

福祉施策全般についておたずねします

問３８　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**国や県、市に**、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1. 障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実
2. 就労支援の充実（働くための訓練や職場定着など）
3. 施設で働ける場（就労継続支援事業所など）の充実
4. 居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実
5. 年金など、所得保障の充実
6. グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
7. 困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実
8. 乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり
9. 障がい者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリーの推進など）
10. 文化・スポーツなどを通じた社会参加の支援
11. 障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実
12. 介護や訓練が受けられる施設（入所・通所）の充実
13. 行政自体の設備や手続きなどを含めたバリアフリーの推進
14. その他（　　）
15. 特にない
16. わからない

問３９　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**地域社会や企業**に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1. 障がいに対する理解を深める
2. 障がい者をはじめ、困っている人を支える地域活動やボランティア活動を活発にする
3. 地域の行事やイベントに障がい者が参加しやすいよう配慮する
4. 電車やバスなどの公共交通機関や建物、店舗、住居などを障がい者が利用しやすいようにつくる
5. 企業で障がい者を積極的に雇用する
6. 障がい者施設などで作ったものを購入する
7. その他（　　）
8. 特にない
9. わからない

問４０　あなたは、福岡市は障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じていますか。（○は１つだけ）

1. 感じている
2. どちらかといえば感じている
3. どちらかといえば感じていない
4. 感じていない
5. わからない

問４１　障がい者福祉についてご意見がありましたら、自由に記入してください。

◎この調査票はどなたが回答しましたか。（○は１つだけ）

1. 本人が全部回答した
2. 他の人が本人の意思を確認しながら回答した
3. 本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答した
4. その他（　　）

「２．他の人が本人の意思を確認しながら回答した」
「３．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答した」
を選ばれた方におたずねします

◎この調査票を回答した方の続柄は何ですか。調査票のあて名の方からみた続柄をお答えください。（○は１つだけ）

1. 父親
2. 母親
3. 祖父母
4. 配偶者（夫・妻）
5. 子ども
6. 兄弟姉妹
7. その他の家族
8. 障がい福祉サービス事業所
9. その他（　　）

全員におたずねします

◎調査票への回答にあたって、困ったことやその他何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

（５）発達障がい児・者調査

記入にあたってのご注意

●この調査票は、対象者がこどもの場合、お子さんの保護者の方がお答えください。お子さんの将来のために、お子さんとも話し合いながらお答えください。

●対象者が成人の場合、できる限りご本人がお答えください。質問文などでわからない表現や言葉がある場合は、お手数ですが、ご家族の方などに聞いて、お答えください。ご本人の回答や記入が難しい場合は、介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。

●鉛筆またはボールペンでご記入ください。

●回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。

●質問は問４２までありますが、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。

●調査票・返信用封筒に住所やお名前を書く必要はありません。

●各相談機関や親の会、学校や施設等にご協力をお願いしているため、複数の機関から「発達障がい児・者用のアンケート調査」が届く場合があります。その場合は、どれか一つにご回答ください。

●調査票は、記入が終わったら、同封しております封筒（切手不要）に入れて、**7月２５日（金）まで**に、お送りください。

◆記入にあたって、ご不明な点がある方や支援が必要な方は、ご遠慮なくお問い合わせください。

【調査に関するお問い合わせ先】
福岡市役所　こども発達支援課　アンケート調査担当
電話：092-711-4178　　ＦＡＸ：092-733-5718

≪送られてきた調査票についてお答えください≫

①調査票はいくつ送られてきましたか。
　１．１通（この調査票だけ）　　２．２通以上

②２通以上送られてきた方は，何通送られてきましたか。
　（　　）通

福岡市　障がい福祉に関するアンケート調査
【発達障がい児・者用】

【ご協力のお願い】

日頃から福岡市の福祉向上にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

福岡市では、障がいのある人が必要な支援を受けながら、自らの能力を最大限発揮し、地域や家庭でいきいきと生活することのできるまちづくりをめざし、「福岡市保健福祉総合計画」（令和３年度～令和８年度）および「第７期福岡市障がい福祉計画及び第３期福岡市障がい児福祉計画」（令和６年度～令和８年度）に基づき、障がい福祉施策を進めております。

今回、令和９年度以降の福岡市保健福祉総合計画等を作る基礎資料とするため、福岡市の発達障がいのある方に、生活の様子や福祉サービスに対するご意見やご要望などについて、アンケート調査を行うことといたしました。（900部配布）

この調査は、これからの福岡市の障がい福祉施策の充実のために実施するものです。あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありません。

お手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和７年６月

福岡市

あなた自身のことについておたずねします

問1　あなたの性別を教えてください。（○は１つだけ）
※性的違和を感じている方は、あなたの感じている性に○をつけてください。

1．男性	2．女性	3．答えたくない

問2　あなたの年齢を教えてください。

満 [　　] 歳（令和７年６月１日現在）

問3　あなたがお住まいの区はどこですか。（○は１つだけ）

1．東区	2．博多区	3．中央区	4．南区
5．城南区	6．早良区	7．西区	8．市外

問4　あなたがお持ちの障害者手帳の種類と程度を教えてください。（①、②のそれぞれについて、○はあてはまるものすべて）

（それぞれあてはまるものに○）

障害者手帳の種類	手帳の有無	障がいの程度（手帳を持っている方）
① 療育手帳	1．持っている --→ 2．持っていない	A１　A２　A３　B１　B２
② 精神障害者保健福祉手帳	1．持っている --→ 2．持っていない	１級　２級　３級

問5　あなたは、発達障がいの診断を受けていますか。（○は１つだけ）

1．受けている	2．受けていない

問5－1・2・3は、問5で「1.」を選ばれた方におたずねします

問5－1　あなたが発達障がいと診断された機関は、どこですか。（○は１つだけ）

1．医院・病院
2．あいあいセンター、西部・東部・南部療育センター
3．こども総合相談センター（児童相談所）
4．その他（　　）

問5－2　あなたが診断を受けた時の年齢を教えてください。

満 [　　] 歳

問5－3　あなたの診断名を教えてください。（○はあてはまるものすべて）

1．注意欠陥多動性障がい（ＡＤＨＤ）
2．学習障がい（ＬＤ）
3．アスペルガー症候群
4．自閉症（知的障がいを伴うもの）
5．自閉症（知的障がいを伴わないもの）
6．広汎性発達障がい（知的障がいを伴うもの）
7．広汎性発達障がい（知的障がいを伴わないもの）
8．知的障がい
9．その他（　　）

問6　あなたは、本来抱えている困難さとは別の二次的な情緒や行動などの問題を抱えていますか。（○は１つだけ）

※「不登校」「ひきこもり」「いじめ」「自傷・他傷」「破壊行動」などの問題を抱えていたり、PTSD・うつ・解離性障がい・適応障がいなどの、発達障がいとは別の症状を抱えていること。

1．現在、二次的な情緒や行動などの問題を抱えている
2．過去に二次的な情緒や行動などの問題を抱えていたが、現在は解消している
3．二次的な情緒や行動などの問題は抱えていない

問6－1は、問6で「1.」「2.」を選ばれた方におたずねします

問6－1　二次的な問題について、相談機関や医療機関の利用状況を教えてください。（○はあてはまるものすべて）

1．現在、相談機関を利用している（具体的に：　　）
2．現在、医療機関を利用している（具体的に：　　）
3．過去、相談機関を利用していた（具体的に：　　）
4．過去、医療機関を利用していた（具体的に：　　）
5．相談機関や医療機関を利用したことはない

問7　あなたの所属を教えてください。（○は１つだけ）

《 就学前の場合 》
1．保育所(園)　　2．幼稚園
3．障がい児通園施設　　4．自宅

《 小学校の場合 》
1．通常学級　　2．通常学級＋通級指導教室
3．特別支援学級　　4．特別支援学校

《 中学校の場合 》
1．通常学級　　2．通常学級＋通級指導教室
3．特別支援学級　　4．特別支援学校

《 上記以外 》
1．高等学校　　2．特別支援学校高等部
3．専門学校　　4．短大・大学・大学院
5．就労中（アルバイト含む。5以降同じ）　　6．以前就労していたが現在は無職
7．就労経験なく無職

生活状況についておたずねします

問8　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

1．自分や家族の持ち家
2．民間の借家や賃貸アパート・マンションなど
3．市営・県営住宅、公営住宅・UR住宅
4．障がい者グループホーム
5．障がい者の入所施設
6．その他（　　）

問９　あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか。**あなたからの続柄**でお答えください。（○はあてはまるものすべて）

1．父親　2．母親　3．祖父母　4．配偶者（夫・妻）
5．子ども　6．兄弟姉妹
7．グループホーム、入所施設などの共同生活者
8．その他（　　）
9．同居者はいない（一人暮らし）

問１０　ふだん、あなたの身の回りの世話（介助）を主にしているのはどなたですか。（○は１つだけ）

1．父親　2．母親
3．祖父母　4．配偶者（夫・妻）
5．子ども　6．兄弟姉妹
7．その他の家族
8．サービス事業者（ホームヘルパー、グループホーム、入所施設などの支援員など）
9．その他（　　）
10．世話をしてもらう必要がない

問１０―１は、問１０で「１.」～「７.」を選ばれた方におたずねします

問１０－１　身の回りの世話（介助）を主にしている方の年齢はいくつですか。（○は１つだけ）

1．19歳以下　2．20歳代　3．30歳代
4．40歳代　5．50歳代　6．60～64歳
7．65～74歳　8．75歳以上

問１１　介助者が病気や事故で不在となった場合の緊急時の対応を事前に準備していますか。（○はあてはまるものすべて）

1．相談支援事業所に相談し、事前に対応方法を決めている
2．短期入所事業所への受け入れを事前に依頼している
3．親族や知人に介助を依頼する
4．何も準備していない

外出の状況などについておたずねします

問１２　あなたは、通勤や通学、通所、買い物、通院、レジャーなどの外出を１ヶ月にどのくらいしていますか。付き添い者と一緒に外出する場合も含めてお答えください。（○は１つだけ）

1．週に４回以上　2．週に３回　3．週に２回
4．週に１回　5．月に１～２回　6．外出しない

問１２―１・２は、問１２で「１.」～「５.」を選ばれた方におたずねします

問１２－１　どのようなところに外出することが多いですか。（○はあてはまるものすべて）

1．仕事　2．通所施設など　3．学校
4．買い物　5．レジャー・スポーツ　6．美術館・映画など
7．親せきや友人を訪問　8．病院・医院など　9．役所や相談機関など
10．旅行・行楽　11．散歩・散策　12．食事・喫茶
13．その他（　　）

問１２－２　どのような方法で、あるいはどのような移動手段を使って外出しますか。（○はあてはまるものすべて）

1．徒歩　2．自転車・バイク　3．自家用車
4．タクシー　5．地下鉄　6．電車
7．バス　8．車いす　9．その他（　　）

問１３　あなたは、外出する時、どのようなことに不便や困難を感じますか。
（○は５つまで）

1．歩道がない道路に危険を感じる
2．歩道に段差が多い
3．視覚障がい者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない
4．信号の変化がわかりにくく、危険を感じる
5．障がい者が安心して利用できる交通機関が少ない
6．ＩＣカードの使い方がわからない
7．障がい者用の駐車場が少ない
8．障がい者用トイレが少ない
9．エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない
10．エレベーターや障がい者用トイレなどの案内標識が少ない
11．道路に自転車などの障害物が多い
12．歩行者や走行自転車のマナーの悪さ
13．外出に必要な情報が得られない
14．付き添いをしてくれる人がいない
15．困った時、まわりの人が助けてくれない
16．まわりの人の目が気になる
17．外出に費用がかかりすぎる
18．その他（　　）
19．特にない

問１４　あなたは、普段、どのようなコミュニケーション（意思疎通）の支援を利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

1．手話通訳者の派遣
2．要約筆記者の派遣
3．点字による支援（点訳）
4．音声による支援（音訳）
5．触手話や指点字による支援
6．代筆や代読による支援
7．イラストや単語を指差して意思を伝える方法による支援
8．パソコンやスマートフォン・携帯電話の利用
9．情報・意思伝達機器による支援（具体的に：　　）
10．わかりやすい日本語の使用（簡単な言葉を使う・漢字に読みがなをつけるなど）
11．継続して関わっていることに伴い、あなたの意思をだいたい理解している人による支援（ヘルパーなどによる支援）
12．家族による支援
13．その他（　　）
14．何も利用していない

問１５　あなたは、コミュニケーション（意思疎通）する上で、困っていることがありますか。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない

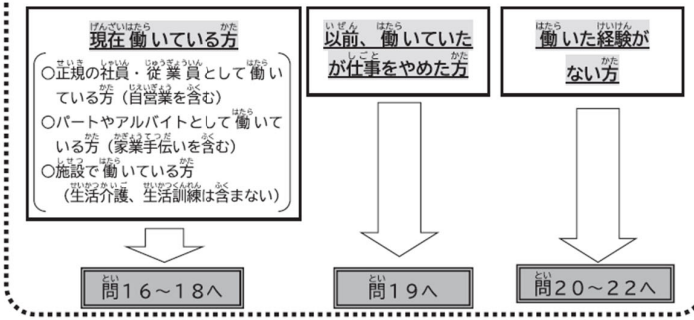
問１５－１は、問１５で「1．」を選ばれた方におたずねします

問１５－１　どのようなことで困っていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．面と向かって人と話すのが苦手
2．声や言葉がでにくい（声が聞こえない、言葉がでない）ため、自分の思いが伝わりづらい
3．相手の話が聞き取りづらい
4．手話を使える人が少ない
5．音声による情報量が少ない
6．写真や図表などの視覚情報の説明がされていない
7．話をうまく組み立てられない
8．難しい内容やあいまいな表現を理解することが難しい
9．どのように人とコミュニケーションをとればいいのかわからない
10．その他（　　）

就労の状況についておたずねします

問１６～２２は、１８歳以上の方のみお答えください。また、あなたの現在の就労状況によって回答する質問が異なります。下記に従ってお進みください。



問１６～１８は、現在働いている方のみお答えください

問１６　あなたの就労形態は何ですか。（○は１つだけ）

1. 自営業主
2. 家族従事者
3. 正規の社員・従業員
4. 臨時・日雇、アルバイト、パート
5. 派遣社員
6. 内職
7. 施設で働いている（就労継続支援事業所など）
8. 将来、企業などで働くため、施設に通っている（就労移行支援事業所など）

問１７　どのような方法で仕事を探しましたか。（○はあてはまるものすべて）

1. ハローワークからのあっせん（紹介）
2. 障がい者就労支援センターに支援してもらった
3. 地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターに支援してもらった
4. 学校、各種学校の紹介
5. 職業能力開発施設（職業能力開発校など）の紹介
6. 施設（就労移行支援事業所など）に支援してもらった
7. ゆうゆうセンター（発達障がい者支援センター）に支援してもらった
8. 求人誌などで自分で探した
9. 家族、親せきの紹介
10. 家族・親せきなどの経営する会社・店で働いた
11. 知り合いの紹介
12. 障がい者団体の紹介
13. 起業した
14. その他（　　）

問１８　あなたの、ふだんの月収（手取り額）はどのくらいですか。賞与などの臨時的に支給されるものは除きます。（○は１つだけ）

1. ３，０００円未満
2. ３，０００円～５，０００円未満
3. ５，０００円～１万円未満
4. １万円～３万円未満
5. ３万円～５万円未満
6. ５万円～１０万円未満
7. １０万円～１５万円未満
8. １５万円～２０万円未満
9. ２０万円～３０万円未満
10. ３０万円以上
11. 収入はない

問１６～１８を回答した方は、問２０へお進みください

問１９は、以前働いていたが仕事をやめた方のみお答えください

問１９　仕事をやめた原因は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．障がいや病気で身体的に働くことが難しくなったため
2．職場や通勤経路のバリアフリー化が進んでいなかったため
3．職場の人間関係が上手くいかなかったため
4．仕事内容が自分には向いていなかったため
5．職場で必要な支援を受けることができなかったため
6．家庭の事情（家事・結婚・育児など）のため
7．倒産など会社の都合
8．会社から解雇されたため
9．定年退職のため
10．その他（　　）

ここからは、全員におたずねします

問２０　あなたは、今後、働きたい（働き続けたい）ですか。（○は１つだけ）

1．働きたい（働き続けたい）　　2．働きたくない

問２１　発達障がいのある人が働くことについて社会の理解があると思いますか。（○は１つだけ）

1．とてもあると思う　　2．ある程度あると思う
3．あまりあると思わない　　4．あると思わない　　5．わからない

問２１－１は、問２１で「3.」「4.」を選ばれた方におたずねします

問２１－１　発達障がいのある人が働くことについて社会の理解があると思わない理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．発達障がい者の働く場（雇用機会）が少ないため
2．発達障がい者が働くための情報提供が進んでいないため
3．発達障がい者が働くための相談機関が少ないため
4．発達障がいへの理解が進んでいないため
5．通勤経路のバリアフリー化が進んでいないため
6．職場環境のバリアフリー化が進んでいないため
7．雇用・労働条件の整備が進んでいないため
　例：勤務時間、勤務日数の配慮、休憩時間の確保など
8．障がい者雇用に関する制度が不十分なため
　例：障がい者雇用の促進、雇用主への助成、支援員の不足など
9．職業訓練機会が不足しているため
10．障がいへの理解が進んでいないため（差別や偏見が残っているため）
11．その他（　　）

問２２　どのような働き方や制度が充実すれば発達障がいのある人が働きやすいと思いますか。（〇はあてはまるものすべて）

1. 収入の増加
2. 在宅勤務
3. 短時間勤務などの労働（作業）時間の配慮
4. 調子の悪いときに休みを取りやすくする
5. 配置転換などの人事管理面についての配慮
6. 通院時間の確保・服薬管理など医療上の配慮
7. 仕事（作業）の内容の簡略化などの配慮
8. 発達障がいの特性を踏まえた作業手順の視覚化などの配慮
9. 仕事（作業）上の援助や本人・周囲への助言を行う者（ジョブコーチなど）による支援
10. 職場復帰のための訓練機会の提供・充実
11. 職業生活・生活全般に関する相談支援の充実（障がい者就労支援センター、障害者就業・生活支援センター、ゆうゆうセンターなど）
12. 試しにいろいろな仕事（作業）を体験してみること（職場実習など）
13. 障がい者雇用のきっかけづくり（トライアル雇用※）
14. その他（　　）

※トライアル雇用：約３～６か月間の試行雇用を通じて、企業との間で相互理解を深め、お互いの不安を解消することで、障がいのある方の継続雇用をめざす制度。

利用したいサービスなどについておたずねします

問２３　利用したいサービスなどについておたずねします。

（１）あなたは、これから、こんなことができたらいいな、必要だなと思うサービスや充実すべき施策は何だと思われますか。（〇はあてはまるものすべて）

区分	内容
保育所(園)・幼稚園	1. 保育士などの発達障がいに関する支援の専門性の向上 2. 療育機関からの専門的な助言・指導
学校	3. 学校での特別支援教育支援員によるサポート 4. 教師の発達障がいに関する専門性の向上 5. 学齢期の療育的支援 6. 発達障がい児の放課後支援
仕事	7. 職場の勤務内容や労働環境などを調整するジョブコーチの支援 8. 就労するための訓練 9. 就労の前段階の日常生活訓練（成人期の居場所や活動の場） 10. 実習を利用した職場に適応するための訓練 11. 発達障がい者の雇用に対する職場の理解啓発 12. 自動車運転免許の取得支援
健康	13. 続けて通院が必要な場合の医療費の助成 14. 発達障がいの早期発見と早期支援 15. 発達障がいに対する専門医（精神科医・小児科医）の育成 16. 発達障がいについて理解のある医療機関の育成
お金	17. 経済的負担を軽減するための手当 18. 交通料金の割引 19. 税の控除
身の回り	20. 調理や洗濯、掃除などの家事援助 21. 育児の仕方について助言指導など 22. 区役所や病院などへ出かける際の付き添い 23. 行動上の問題のある子どもの外出に際し、保護者と一緒の付き添い 24. 保護者が病気、事故、出産などの際の子どもの一時的な預かり 25. 保護者が病気、事故、出産などの際の子どもの短期の宿泊 26. 余暇支援のためのボランティア育成 27. 健康管理、金銭管理などの日常生活支援 28. 行動上の問題で公共交通機関を利用できない人に対する保護者の自家用車での送迎時の付き添い

次頁に続きます

区分	内容
住居	29. グループホーム（アパートなどでの世話人付きの共同生活） 30. 一人暮らしのための賃貸住宅のあっせん
相談	31. 就職に関する相談や仕事上の悩みの相談 32. 障がい者の制度や手続きの相談 33. 障がいの専門機関ではない身近な場所での育児相談の充実 34. 兄弟姉妹などの家族を対象にした相談 35. 思春期・青年期の自己認知支援
その他	36. 先輩保護者が保護者を支援する相談員の育成と活用 37. 本人・保護者の希望を反映した個別の支援計画による幼児期から成人期までの支援の継続 38. 障がい児（者）の生活の拠点となる地域での受け入れ促進 39. 本人の特性や対応、相談や支援の経過など情報をまとめたサポート手帳の作成 40. その他（ご自由にお書きください。）

（2）　（1）で回答したもののうち、**最も力を入れてほしいこと**は何ですか。
（1）で回答したものの中から１つだけ、選択肢の番号を記入してください。

（1）で回答したもののうち、
最も力を入れてほしいもの：［　　］番　　（番号は１つだけ）

今後の暮らし方についておたずねします

問２４　あなたは、今後（親なき後を含む）、どのように暮らしたいと思いますか。
（○は１つだけ）

1. 一人で暮らしたい
2. 家族と一緒に暮らしたい
3. グループホームなどの地域で共同生活できる住居で暮らしたい
4. 障がい者施設に入所したい
5. 高齢者施設に入所したい
6. その他（　　）
7. わからない

問２５　自宅やグループホームなどで生活するためには、どのような条件が必要だと思いますか。（○は３つまで）

1. 昼間の介護を頼める人がいること
2. 夜間の介護を頼める人がいること
3. 調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること
4. 子育ての相談が出来たり、手伝いを頼める人がいること
5. 緊急時に子どもを預けられる所があること（ご近所や、施設など）
6. 短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること
7. 主治医や医療機関が近くにあること
8. 病院や施設に通えること（作業、レクリエーション活動、訓練など）
9. 介護を受けながら日中活動を行う施設に通えること
10. 就労や生活の自立、機能の回復へ向けて訓練を受けられる施設に通えること
11. 就労継続支援事業所（A型、B型）で働けること
12. 仕事があること
13. スーパーや銀行などの生活に必要な機関が近くにあること
14. 外出の介護を頼める人（ガイドヘルパー）のサービスがあること
15. 家族と同居できること
16. グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること
17. 地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
18. 地域や職場の人たちが障がいについて理解があること
19. その他（　　）
20. 特にない

情報収集や相談についておたずねします

問２６　あなたは、生活に関することで、福岡市からどのような情報が知りたいですか。（○はあてはまるものすべて）

1. 障がい者に関わる福祉制度などのこと
2. 居宅介護などの在宅で利用できるサービスに関すること
3. 通所施設などの日中活動の情報に関すること
4. グループホーム、入所施設に関すること
5. 困ったときに相談ができる窓口や相談機関のこと
6. 診断や医療に関すること
7. 仕事の選び方などの就職に関すること
8. 文化・スポーツ・レクリエーション、レジャーなどの余暇活動に関すること
9. 仲間づくりが出来るなどの身近な居場所に関すること
10. 災害時の避難の仕方などの災害対策に関すること
11. ボランティア団体などのこと
12. その他（　　）
13. 特にない

問２７　福岡市が実施している福祉施策について、あなたが知る手掛かりとなっているのは、次のどれですか。（○はあてはまるものすべて）

1. 市政だより
2. 新聞
3. テレビ・ラジオ
4. ホームページ
5. 団体の機関紙など
6. 区役所の福祉・介護保険課
7. 保健福祉センター（区役所の健康課）
8. 障がい者更生相談所
9. 民生委員・児童委員
10. 障がい者相談員
11. 通所または入所している施設
12. あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター・南部療育センター
13. ゆうゆうセンター
14. 区障がい者基幹相談支援センター
15. 計画相談支援事業所
16. 福岡市情報プラザ（福岡市役所１階）
17. 居宅介護や外出の支援をするヘルパーなど
18. 手話放送、字幕放送
19. 精神保健福祉センター
20. その他（　　）
21. 特にない

問２８　あなたは、今の生活の中で困っていることや心配なこと、悩んでいることがありますか。（○は３つまで）

1. 身体、心の健康や障がいのこと
2. 家庭のこと
3. 生活費などの経済的なこと
4. 現在受けているサービスのこと
5. 将来受けられるサービスのこと
6. 住宅のこと
7. 仕事のこと
8. 子どものこと
9. 老後や将来のこと
10. その他（　　）
11. 特にない

問２９　福岡市には、障がいのある方からのさまざまな相談事に応じる窓口として，次のような窓口があります。
あなたは、これらの相談窓口があることを知っていましたか。また、利用したことがありますか。
さらに、「利用したことがある」を選ばれた方は、その時の満足度はどうでしたか。
①～⑩の項目ごとに、認知度、利用状況、満足度のそれぞれについて○をつけてください。

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
記入例	①	2	①	2	①	2	3	4
①区役所の福祉・介護保険課、保健福祉センター（区役所の健康課） （障がい福祉サービスの利用などに関する相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
②あいあいセンター（心身障がい福祉センター）、西部療育センター、東部療育センター、南部療育センター （子どもの発達に関する相談をうけ、医学的な診断と発達評価に基づいた支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
③区障がい者基幹相談支援センター （市内14か所のセンターで，障がいがある人の在宅生活全般に関する相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
④ゆうゆうセンター（発達障がい者支援センター） （発達障がいのある人に総合的な相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑤福岡市障がい者１１０番 （差別の解消や、権利擁護に関する相談などに対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑥身体障がい者相談員、知的障がい者相談員 （障がいのある人の日常生活の問題について、地域の相談員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4

地域とのかかわりについておたずねします

問30　あなたのご近所の方との関係は，次のどれに近いですか。（○は１つだけ）

1．何か困ったときに助け合う親しい人がいる
2．たまに家を訪問し合う人がいる
3．立ち話をする程度の人ならいる
4．あいさつをする程度の人ならいる
5．ほとんど付き合いはない

問31　ここ２～３年の間、地域での行事（町内会などが実施する防災訓練、夏祭りなど）に参加したことがありますか。（○は１つだけ）

1．参加している
2．たまに参加している
3．ほとんど参加していない
4．参加していない
5．そのような行事があることを知らない

問32　あなたは、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

1．簡単な身の周りの世話をする
2．外出時に付き添う
3．普段から定期的に声かけなどをする
4．相談相手になる
5．世間話をして一緒に過ごす
6．地域の行事やイベントに一緒に参加する
7．趣味やスポーツ活動を一緒にする
8．災害時の支援
9．その他（　　）
10．特にない

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
⑦民生委員・児童委員 （障がいのある人の日常生活の問題について、身近な地域で民生委員・児童委員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑧障がい者就労支援センター （障がいのある人や家族、企業などの相談に応じ、「ジョブコーチ」を派遣したり、職場を開拓するなどの支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑨社会福祉協議会 （生活福祉資金の貸付や日常生活への支援、ボランティア利用など、様々な生活の相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑩精神保健福祉センター （専門相談窓口として、医療、福祉などに関する相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4

防災についておたずねします

問３３　あなたが、地震などの災害が発生したときに、困ることや不安なことは何ですか。
（○はあてはまるものすべて）

1．災害の情報を知る方法がない
2．助けを求める方法がない
3．近くに助けてくれる人がいない
4．一人では避難できない
5．避難所の設備が障がいに対応しているか不安
6．避難所で必要な支援が受けられるか不安
7．避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい
8．薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
9．医療機器の電源確保が心配
10．特にない
11．その他（　　）
12．わからない

問３４　あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。
（○はあてはまるものすべて）

1．日頃から家族で災害時の対応を話し合っている
2．非常時持ち出し品の用意，非常食などの備蓄をしている
3．疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている
4．近所の人や知人などに，災害が発生した時の助けをお願いしている
5．「避難行動要支援者名簿」に登録している
6．避難先を確保している
7．その他（　　）
8．特にない

問３５　あなたが、水害や地震などの災害が発生したときに、安全の確保などで頼れる人はどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

1．同居の家族
2．同居している家族以外の親族
3．友人・知人
4．福祉サービスの事業者
5．頼る必要がない（自力で避難などができる）
6．頼れる人がいない
7．その他（　　）

問３６　あなたは、福岡市は安全・安心のための社会環境整備ができていると感じていますか。（○は１つだけ）

1．感じている
2．どちらかといえば感じている
3．どちらかといえば感じていない
4．感じていない
5．わからない

差別や人権についておたずねします

問３７　あなたは、ここ２～３年の間に、障がいがあるため、差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない

問３７－１は、問３７で「１．」を選ばれた方におたずねします

問３７－１　どのようなことで、いやな思いをしましたか。
（○はあてはまるものすべて）

1．病院・診療所などで診察を断られた
2．バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあった
3．家を借りる時に不動産業者や家主に断られた
4．ホテル・旅館、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られた
5．障がいを理由とした不採用や解雇
6．役所の窓口に行ったとき、職員の対応で不愉快な思いをした
7．相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした
8．学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた
9．居宅介護や外出の支援をするヘルパーなどの対応で不愉快な思いをした
10．入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で不愉快な思いをした
11．バス、電車、タクシーの乗員の対応で不愉快な思いをした
12．近所の人達の対応で不愉快な思いをした
13．その他（　　）
14．思い出せない

問３８　障がい者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。（○は３つまで）

1．障がい者の意見や行動が尊重されないこと
（結婚、就職に際しての周囲の反対など）
2．差別的な言動を受けること
3．聴覚や視覚に障がいのある人などへ必要な情報を伝える配慮が足らないこと
4．発達障がいの特性から生じる困難さに対し、配慮がなされないこと
5．人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと
6．道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと
7．働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと
8．住宅を容易に借りることができないこと
9．就職・職場で不利な扱いを受けること
10．役所の窓口において不当な扱いを受けること
11．病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受けること
12．使える在宅サービスや福祉施設・病院が少ないこと
13．学校における一人ひとりの障がい特性に応じた支援体制が不十分なこと
14．詐欺や悪徳商法の被害を受けやすいこと
15．スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと
16．その他（　　）
17．特にない

福祉施策全般についておたずねします

問３９　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**国や県、市に**、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1. 障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実
2. 就労支援の充実（働くための訓練や職場定着など）
3. 施設で働ける場（就労継続支援事業所など）の充実
4. 居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実
5. 年金など、所得保障の充実
6. グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
7. 困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実
8. 乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり
9. 障がい者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリーの推進など）
10. 文化・スポーツなどを通じた社会参加の支援
11. 障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実
12. 介護や訓練が受けられる施設（入所・通所）の充実
13. 支援者の養成や質の向上
14. 行政自体の設備や手続きなどを含めたバリアフリーの推進
15. その他（　　）
16. 特にない
17. わからない

問４０　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**地域社会や企業**に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1. 障がいに対する理解を深める
2. 障がい者をはじめ、困っている人を支える地域活動やボランティア活動を活発にする
3. 地域の行事やイベントに障がい者が参加しやすいよう配慮する
4. 電車やバスなどの公共交通機関や建物、店舗、住居などを障がい者が利用しやすいようにつくる
5. 企業で障がい者を積極的に雇用する
6. 障がい者施設などで作ったものを購入する
7. その他（　　）
8. 特にない
9. わからない

問４１　あなたは、福岡市は障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じていますか。（○は１つだけ）

1. 感じている
2. どちらかといえば感じている
3. どちらかといえば感じていない
4. 感じていない
5. わからない

問４２　障がい者福祉についてご意見がありましたら、自由に記入してください。

◎この調査票はどなたが回答しましたか。（○は１つだけ）

1．本人が全部回答した
2．他の人が本人の意思を確認しながら回答した
3．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答した
4．その他（　　）

「2．他の人が本人の意思を確認しながら回答した」
「3．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答した」
を選ばれた方におたずねします

◎この調査票を回答した方の続柄は何ですか。ご本人からみた続柄をお答えください。（○は１つだけ）

1．父親　2．母親　3．祖父母　4．配偶者（夫・妻）
5．子ども　6．兄弟姉妹　7．その他の家族
8．サービス事業者（ホームヘルパーなど）　9．その他（　　）

全員におたずねします

◎調査票への回答にあたって、困ったことやその他何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

福岡市　障がい福祉に関するアンケート調査
【難病患者用】

【ご協力のお願い】

日頃から福岡市の福祉向上にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

福岡市では、障がいのある人が必要な支援を受けながら、自らの能力を最大限発揮し、地域や家庭でいきいきと生活することのできるまちづくりをめざし、「福岡市保健福祉総合計画」（令和３年度～令和８年度）および「第７期福岡市障がい福祉計画及び第３期福岡市障がい児福祉計画」（令和６年度～令和８年度）に基づき、障がい福祉施策を進めております。

今回、令和９年度以降の福岡市保健福祉総合計画等を作る基礎資料とするため、福岡市の難病患者の中から約 1,000 人の方に、生活の様子や福祉サービスに対するご意見やご要望などについて、アンケート調査を行うことといたしました。

この調査は、これからの福岡市の障がい福祉施策の充実のために実施するものです。

あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありません。

お手数をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和７年６月　　福岡市

記入にあたってのご注意

- ●この調査票は、できる限りご本人（封筒のあて名の方）がお答えください。ご本人の回答や記入が難しい場合は、介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。
- ●鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- ●回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- ●質問は問４８までありますが、質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
- ●調査票・返信用封筒に住所やお名前を書く必要はありません。
- ●調査票は、記入が終わったら、同封しております封筒（切手不要）に入れて、**７月２５日（金）まで**に、お送りください。
- ◆記入にあたって、ご不明な点がある方や支援が必要な方は、ご遠慮なくお問い合わせください。

【調査に関するお問い合わせ先】
福岡市役所 精神保健・難病対策課　難病疾病対策係　アンケート調査担当
電 話：092-711-4986　ＦＡＸ：092-733-5535
E-mail：seishinhoken-nanbyo.PHB@city.fukuoka.lg.jp

あなた自身のことについておたずねします

問１　あなたの性別を教えてください。（○は１つだけ）
※性的違和を感じている方は、あなたの感じている性に○をつけてください。

１．男性	２．女性	３．答えたくない

問２　あなたの年齢を教えてください。

満 [　　] 歳（令和７年６月１日現在）

問３　あなたがお住まいの区はどこですか。（○は１つだけ）

１．東区	２．博多区	３．中央区	４．南区
５．城南区	６．早良区	７．西区	８．市外

問４　あなたが現在罹患している疾患名を２８～３２ページの「指定難病一覧」の中から選んで疾患番号をご記入いただくか、疾患名をご記入ください。

疾患番号 [　　]　または　疾患名 [　　]

問４－１　問４でお答えになった疾患が発症したと思われる年齢を教えてください。

満 [　　] 歳

問４－２　問４でお答えになった疾患の診断がついた年齢を教えてください。

満 [　　] 歳

問５　あなたが現在罹患している指定難病に関して、最近６ヶ月の医療機関の受療状況を教えてください。（○は１つだけ）

1．主に入院している（年間　　日程度）
2．入院と通院の半々（入院：年間　　日程度，通院：月　　回程度）
3．主に通院している（月　　回程度）
4．主に往診してもらっている（月　　回程度）
5．入院・通院していない

問６　通院する上での課題や不安に感じることは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．近くに医療機関がない
2．医療機関における夜間・休日の対応が不十分
3．医療機関における緊急時の対応が不十分
4．通院費の負担が大きい
5．通院先の医療機関では満足できる治療が受けられない
6．通院介助してくれる人がいない・少ない
7．その他（　　）
8．特にない

問７　あなたは、人工呼吸器を使用していますか。（○は１つだけ）

1．使用している　　2．使用していない

問８　現在お困りになっている症状は主にどのような症状ですか。（○は３つまで）

1．痛み	2．発熱
3．めまい	4．吐き気
5．体重の変化	6．かゆみ
7．むくみ	8．倦怠感
9．手足に力が入らない	10．呼吸が苦しい
11．心臓が苦しい	12．上手に話せない
13．耳が聞こえない、聞こえにくい	14．目が見えない、見えにくい
15．排尿が困難	16．排便が困難
17．関節がこわばる、動かない	18．食べる・飲むことが困難、できない
19．その他（　　）	
20．特にない	

問９　あなたがお持ちの障害者手帳などについてお聞きします。①～⑤のそれぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。⑤は４０歳以上の方のみお答えください。

（それぞれあてはまるものに○）

①　身体障害者手帳	1．持っている 2．持っていない	1級　2級　3級　4級　5級　6級
②　療育手帳	1．持っている 2．持っていない	A1　A2　A3　B1　B2
③　精神障害者保健福祉手帳	1．持っている 2．持っていない	1級　2級　3級
④　障がい支援区分	1．受けている 2．非該当 3．申請していない	区分1　区分2　区分3　区分4　区分5　区分6
⑤　要介護認定（４０歳以上の方のみ）	1．受けている 2．非該当 3．申請していない	要支援1　要支援2　要介護1　要介護2 要介護3　要介護4　要介護5

問９－１は、問９で「①身体障害者手帳」を「１．持っている」を選ばれた方におたずねします

問９－１　あなたの**主な障がい**（障がいの部位）を教えてください。（○は１つだけ）

1．視覚障がい	2．聴覚障がい
3．平衡機能障がい	4．音声、言語、そしゃく機能障がい
5．肢体不自由（上肢）	6．肢体不自由（下肢）
7．肢体不自由（体幹等）	8．肢体不自由（全身性）
9．呼吸器機能障がい	10．心臓機能障がい
11．じん臓機能障がい	12．ぼうこう、直腸又は小腸機能障がい
13．肝臓機能障がい	14．その他（　　）

問１０　主な障がい（障がいの部位）のほかに、**重複する障がい**があれば教えてください。（○はあてはまるものすべて）

1．主な障がい以外はない	2．視覚障がい
3．聴覚障がい	4．平衡機能障がい
5．音声、言語、そしゃく機能障がい	6．肢体不自由（上肢）
7．肢体不自由（下肢）	8．肢体不自由（体幹等）
9．肢体不自由（全身性）	10．呼吸器機能障がい
11．心臓機能障がい	12．じん臓機能障がい
13．ぼうこう、直腸又は小腸機能障がい	14．肝臓機能障がい
15．知的障がい	16．精神障がい
17．発達障がい	18．高次脳機能障がい
19．難病	20．その他（　　）

問１１は、問９で「①身体障害者手帳」を「２．持っていない」を選ばれた方におたずねします

問１１　身体障害者手帳を取得していない理由は何ですか。（○は１つだけ）

1．制度を知らなかった
2．対象ではなかった
3．必要ない（あまり役に立たない）ので申請しなかった
4．取得するのは気が進まないので申請しなかった
5．その他（　　）

生活状況についておたずねします

問１２　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

1．自分や家族の持ち家
2．民間の借家や賃貸アパート・マンションなど
3．市営・県営住宅、公社住宅・ＵＲ住宅
4．障がい者グループホーム
5．障がい者の入所施設
6．その他（　　）

問１３　ご家族などとの同居の状況についておたずねします。
あなたと一緒に暮らしている方はどなたですか。**あなたからの続柄**でお答えください。（○はあてはまるものすべて）

1．父親　　2．母親
3．祖父母　　4．配偶者（夫・妻）
5．子ども　　6．兄弟姉妹
7．グループホーム、入所施設などの共同生活者
8．その他（　　）
9．同居者はいない（一人暮らし）

問１４　ふだん、あなたの身の回りの世話（介助）を主にしているのはどなたですか。
（○は１つだけ）

1．父親　　2．母親
3．祖父母　　4．配偶者（夫・妻）
5．子ども　　6．兄弟姉妹
7．その他の家族
8．障がい福祉サービス事業者（ヘルパー、グループホーム、入所施設などの支援員など）
9．その他（　　）10．世話をしてもらう必要がない

問１４－１は、問１４で「1.」～「7.」を選ばれた方におたずねします

問１４－１　身の回りの世話（介助）を主にしている方の年齢はいくつですか。
（○は１つだけ）

1．19 歳以下　　2．20 歳代　　3．30 歳代
4．40 歳代　　5．50 歳代　　6．60～64 歳
7．65～74 歳　　8．75 歳以上

問１５　介助者が病気や事故で不在となった場合の緊急時の対応を事前に準備していますか。（○はあてはまるものすべて）

1．相談支援事業所に相談し、事前に対応方法を決めている
2．短期入所事業所への受け入れを事前に依頼している
3．親族や知人に介助を依頼する
4．何も準備していない

外出の状況などについておたずねします

問１６　あなたは、通勤や通学、通所、買い物、通院、レジャーなどの外出を１ヶ月にどのくらいしていますか。付き添い者と一緒に外出する場合も含めてお答えください。（○は１つだけ）

１．週に４回以上	２．週に３回	３．週に２回
４．週に１回	５．月に１～２回	６．外出しない

問１６－１・２は、問１６で「１.」～「５.」を選ばれた方におたずねします

問１６－１　どのようなところに外出することが多いですか。
（○はあてはまるものすべて）

１．仕事	２．通所施設など	３．学校
４．買い物	５．レジャー・スポーツ	６．美術館・映画など
７．親せきや友人を訪問	８．病院・医院など	９．役所や相談機関など
10．旅行・行楽	11．散歩・散策	12．食事・喫茶
13．その他（　　）		

問１６－２　どのような方法で、あるいはどのような移動手段を使って外出しますか。
（○はあてはまるものすべて）

１．徒歩	２．自転車・バイク	３．自家用車
４．タクシー	５．地下鉄	６．電車
７．バス	８．車いす	９．その他（　　）

問１７　あなたは、外出する時、どのようなことに不便や困難を感じますか。
（○は５つまで）

１．歩道がない道路に危険を感じる
２．歩道に段差が多い
３．視覚障がい者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない
４．信号の変化がわかりにくく、危険を感じる
５．障がい者が安心して利用できる交通機関が少ない
６．ＩＣカードの使い方がわからない
７．障がい者用の駐車場が少ない
８．障がい者用トイレが少ない
９．エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない
10．エレベーターや障がい者用トイレなどの案内標識が少ない
11．道路に自転車などの障害物が多い
12．歩行者や走行自転車のマナーの悪さ
13．外出に必要な情報が得られない
14．付き添いをしてくれる人がいない
15．困った時、まわりの人が助けてくれない
16．まわりの人の目が気になる
17．外出に費用がかかりすぎる
18．その他（　　）
19．特にない

問１８　あなたは、普段、どのようなコミュニケーション（意思疎通）の支援を利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

1．手話通訳者の派遣
2．要約筆記者の派遣
3．点字による支援（点訳）
4．音声による支援（音訳）
5．触手話や指点字による支援
6．代筆や代読による支援
7．イラストや単語を指差して意思を伝える方法による支援
8．パソコンやスマートフォン・携帯電話の利用
9．情報・意思伝達機器による支援（具体的に：　　）
10．わかりやすい日本語の使用（簡単な言葉を使う・漢字に読みがなをつけるなど）
11．継続して関わっていることに伴い、あなたの意思をだいたい理解している人による支援（ヘルパーなどによる支援）
12．家族による支援
13．その他（　　）
14．何も利用していない

問１９　あなたは、コミュニケーション（意思疎通）する上で、困っていることがありますか。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない

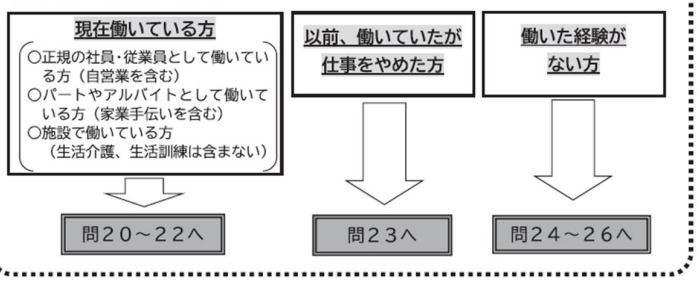
問１９－１は、問１９で「１．」を選ばれた方におたずねします

問１９－１　どのようなことで困っていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．面と向かって人と話すのが苦手
2．声や言葉がでにくい(声が聞こえない、言葉がでない)ため、自分の思いが伝わりづらい
3．相手の話が聞き取りづらい
4．手話を理解する人が少ない
5．音声による情報量が少ない
6．写真や図表などの視覚情報の説明がされていない
7．話をうまく組み立てられない
8．難しい内容やあいまいな表現を理解することが難しい
9．どのように人とコミュニケーションをとればいいのかわからない
10．その他（　　）

就労の状況についておたずねします

問２０～２６は、あなたの現在の就労状況によって回答する質問が異なります。
下記に従ってお進みください。



問２０～２２は、現在働いている方のみお答えください

問２０　あなたの就労形態は何ですか。（○は１つだけ）

1．自営業主　　2．家族従事者
3．正規の社員・従業員　　4．臨時・日雇、アルバイト，パート
5．派遣社員　　6．内職
7．施設で働いている（就労継続支援事業所）
8．将来、企業などで働くため、施設に通っている（就労移行支援事業所など）

問２１　どのような方法で仕事を探しましたか。（○はあてはまるものすべて）

1．ハローワークからのあっせん（紹介）
2．障がい者就労支援センターに支援してもらった
3．地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターに支援してもらった
4．難病相談支援センターに支援してもらった
5．学校、各種学校の紹介
6．職業能力開発施設（職業能力開発校など）の紹介
7．施設（就労移行支援事業所など）に支援してもらった
8．求人誌などで自分で探した
9．家族、親せきの紹介
10．知り合いの紹介
11．障がい者団体の紹介
12．起業した
13．その他（　　）

問２２　あなたの、ふだんの月収（手取り額）はどのくらいですか。賞与などの臨時的に支給されるものは除きます。（○は１つだけ）

１．３，０００円未満	２．３，０００円～５，０００円未満
３．５，０００円～１万円未満	４．１万円～３万円未満
５．３万円～５万円未満	６．５万円～１０万円未満
７．１０万円～１５万円未満	８．１５万円～２０万円未満
９．２０万円～３０万円未満	10．３０万円以上
11．収入はない	

問２０～２２を回答した方は、問２４へお進みください

問２３は、以前働いていたが仕事をやめた方のみお答えください

問２３　仕事をやめた原因は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．障がいや病気で身体的に働くことが難しくなったため
２．職場や通勤経路のバリアフリー化が進んでいなかったため
３．職場の人間関係が上手くいかなかったため
４．仕事内容が自分には向いていなかったため
５．職場で必要な支援を受けることができなかったため
６．家庭の事情（家事・結婚・育児など）のため
７．倒産など会社の都合
８．会社から解雇されたため
９．定年退職のため
10．その他（　　）

ここからは、全員におたずねします

問２４　あなたは、今後、働きたい（働き続けたい）ですか。（○は１つだけ）

１．働きたい（働き続けたい）　　２．働きたくない

問２５　難病患者が働くことについて社会の理解があると思いますか。（○は１つだけ）

１．あると思う　　２．ある程度あると思う
３．あまりあると思わない　　４．あると思わない　　５．わからない

問２５－１は、問２５で「３.」「４.」を選ばれた方におたずねします

問２５－１　難病患者が働くことについて社会の理解があると思わない理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．難病患者の働く場（雇用機会）が少ないため
２．難病患者が働くための情報提供が進んでいないため
３．難病患者が働くための相談機関が少ないため
４．通勤経路のバリアフリー化が進んでいないため
５．職場環境のバリアフリー化が進んでいないため
６．雇用・労働条件の整備が進んでいないため
　例：勤務時間、勤務日数の配慮、休憩時間の確保など
７．難病患者の雇用に関する制度が不十分なため
　例：難病患者雇用の促進、雇用主への助成、支援員の確保など
８．職業訓練機会が不足しているため
９．障がいへの理解が進んでいないため（差別や偏見が残っているため）
10．その他（　　）

問２６　どのような働き方や制度が充実すれば難病患者が働きやすいと思いますか。
（○はあてはまるものすべて）

1．収入の増加
2．在宅勤務
3．短時間勤務などの労働（作業）時間の配慮
4．調子の悪いときに休みを取りやすくする
5．配置転換などの人事管理面についての配慮
6．通院時間の確保・服薬管理など医療上の配慮
7．仕事（作業）の内容の簡略化などの配慮
8．仕事（作業）上の援助や本人・周囲への助言を行う者（ジョブコーチなど）による支援
9．職場復帰のための訓練機会の提供・充実
10．職業生活・生活全般に関する相談支援の充実（障がい者就労支援センター、障害者就業・生活支援センターなど）
11．試しにいろいろな仕事（作業）を体験してみること（職場実習など）
12．障がい者雇用のきっかけづくり（トライアル雇用※）
13．その他（　　）

※トライアル雇用：約３～６か月間の試行雇用を通じて、企業との間で相互理解を深め、お互いの不安を解消することで、障がいのある方の継続雇用をめざす制度。

福祉サービスの利用についておたずねします

問２７　平成２５年４月１日に「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」が施行されました。これにより，障がい者の範囲に難病患者が追加され，障がい福祉サービスの対象となりましたが，このことを知っていましたか。（○は１つだけ）

1．知っていた　　2．知らなかった

福祉サービス・事業について

問２８　あなたは、次のようなサービスを利用したことがありますか。また、今後（２～３年以内に）利用したいと思いますか。
①～⑰の項目ごとに、利用状況と利用意向のそれぞれについて○をつけてください。

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
①	居宅介護	ヘルパーが訪問し、家事・身体介護などのサービスを提供する。	1	2	1	2	3
②	重度訪問介護	重度の障がいがあり常に介護が必要な人に、ヘルパーが訪問し，家事・身体介護や外出時の移動の支援などのサービスを提供する。	1	2	1	2	3
③	短期入所	介護している人が疾病などにより一時的に介護できない場合に施設などで宿泊を伴った日常生活上の支援を行う。	1	2	1	2	3
④	行動援護	行動上著しい困難を有する知的障がい者などに対し、予防的対応、外出時の介護などを行う。	1	2	1	2	3
⑤	同行援護	移動に著しい困難を有する視覚障がい者に対し、外出時において移動に必要な情報の提供、移動の援護を行う。	1	2	1	2	3
⑥	施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日の入浴、排泄、食事の介護などを行う。	1	2	1	2	3

事業番号	サービス名	サービス内容	利用状況		利用意向		
			利用したことがある	利用したことはない	利用したい	今のところ必要ない	わからない
⑦	生活介護	常時介護を必要とする人に、施設で日中の介護などを行う。	1	2	1	2	3
⑧	自立訓練	身体機能、生活能力の向上のために必要な訓練を行う。	1	2	1	2	3
⑨	就労移行支援	一般企業への就職を希望する人に訓練を行う。	1	2	1	2	3
⑩	就労継続支援（A型）	通所により、雇用契約に基づく就労の機会を提供する。	1	2	1	2	3
⑪	就労継続支援（B型）	通所により、就労の機会や生産活動の機会を提供する。	1	2	1	2	3
⑫	就労定着支援	企業、自宅等への訪問や体調管理などに関する課題の解決に向けた支援を実施する。	1	2	1	2	3
⑬	自立生活援助	定期的に居宅を訪問し、食事、洗濯などの課題や体調の変化や通院の状況などについて確認を行い、必要な助言などを行う。	1	2	1	2	3
⑭	グループホーム	地域で共同生活を営む住居において日常生活上の相談、介護などの支援を行う。	1	2	1	2	3
⑮	日中一時支援	介護者が疾病等により、一時的に介護できない場合に、施設等において日中預かり、日常生活の支援を行う。	1	2	1	2	3
⑯	日常生活用具	障がい者（児）の日常生活の利便を図るための用具の給付を行う。	1	2	1	2	3
⑰	補装具	身体上の障がいを補うための「補装具」の購入や修理にかかる費用の支給を行う。	1	2	1	2	3

問２９　①～⑰のサービス・事業の中で、サービスの量が不足していたり、利用対象・範囲の拡大などを図るべきだと思うものがありますか。（○は１つだけ）

1．ある　　2．ない　　3．わからない

問２９－１は、問２９で「1．」を選ばれた方におたずねします

問２９－１　それはどのサービス・事業ですか。優先度が高いと思うものを３つまで選んでください。（事業番号は①～⑰の数字を記入してください）

事業番号	選んだ理由

今後の暮らし方についておたずねします

問３０　あなたは、今後（親なき後を含む）、どのように暮らしたいと思いますか。
（○は１つだけ）

1．一人で暮らしたい
2．家族と一緒に暮らしたい
3．グループホームなどの地域で共同生活できる住居で暮らしたい
4．障がい者施設に入所したい
5．高齢者施設に入所したい
6．その他（　　）
7．わからない

問３１　自宅やグループホームなどで生活するためには、どのような条件が必要だと思いますか。
（○は３つまで）

1．昼間の介護を頼める人がいること
2．夜間の介護を頼める人がいること
3．調理や掃除、洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること
4．介護を受けながら日中活動を行う施設に通えること
5．就労や生活の自立、機能の回復へ向けて訓練を受けられる施設に通えること
6．就労継続支援事業所（A型、B型）で働けること
7．短期入所など緊急時に宿泊できるところがあること
8．外出介護を頼める人（ガイドヘルパー）のサービスがあること
9．主治医や医療機関が近くにあること
10．仕事があること
11．家族と同居できること
12．グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること
13．地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
14．スーパーや銀行などの生活に必要な機関が近くにあること
15．その他（　　）
16．特にない

情報収集や相談についておたずねします

問３２　あなたは、生活に関することで、福岡市からどのような情報が知りたいですか。
（○はあてはまるものすべて）

1．障がい者に関わる福祉制度などのこと
2．居宅介護などの在宅で利用できるサービスに関すること
3．通所施設などの日中活動の情報に関すること
4．グループホーム、入所施設に関すること
5．困ったときに相談ができる窓口や相談機関のこと
6．仕事の選び方などの就職に関すること
7．同じ疾患の患者との交流の場に関すること
8．文化・スポーツ・レクリエーション、レジャーなどの余暇活動に関すること
9．災害時の避難の仕方などの災害対策に関すること
10．患者会や当事者団体のこと
11．ボランティア団体などのこと
12．その他（　　）
13．特にない

問３３　福岡市が実施している福祉施策について、あなたが知る手掛かりとなっているのは、次のどれですか。（○はあてはまるものすべて）

1．市政だより	2．新聞
3．テレビ・ラジオ	4．ホームページ
5．団体の機関紙など	6．区役所の福祉・介護保険課
7．保健福祉センター（区役所の健康課）	8．障がい者更生相談所
9．民生委員・児童委員	10．障がい者相談員
11．通所または入所している施設	12．あいあいセンター
13．区障がい者基幹相談支援センター	14．計画相談支援事業所
15．福岡市情報プラザ（福岡市役所１階）	16．居宅介護や外出の支援をするヘルパーなど
17．手話放送、字幕放送	18．その他（　　）
19．特にない	

問３４　あなたは、今の生活の中で困っていることや心配なこと、悩んでいることがありますか。（○は３つまで）

１．身体、心の健康や障がいのこと	２．家族のこと
３．生活費などの経済的なこと	４．障がい福祉サービスのこと
５．住まいのこと	
６．通っているまたは入所している施設のこと	
７．仕事のこと	８．老後や将来のこと
９．その他（　　）	10．特にない

問３５　福岡市には、障がいのある方からのさまざまな相談事に応じる窓口として，次のような窓口があります。
あなたは、これらの相談窓口があることを知っていましたか。また、利用したことがありますか。
さらに、「利用したことがある」を選ばれた方は、その時の満足度はどうでしたか。
①～⑩の項目ごとに、認知度、利用状況、満足度のそれぞれについて○をつけてください。

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
記入例	①	2	①	2	1	②	3	4
①保健福祉センター（区役所の健康課）（療養生活などに関する相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
②区役所の福祉・介護保険課（障がい福祉サービスの利用などに関する相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4

	認知度		利用状況		満足度			
	知っている	知らない	利用したことがある	利用したことはない	満足している	やや満足している	あまり満足していない	不満である
③福岡市難病相談支援センター（難病の方の専門相談窓口として日常生活における相談支援や就労支援などを行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
④あいあいセンター（心身障がい福祉センター）（子どもの発達に関する相談支援や成人の障がい者の社会生活や就労支援などを行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑤区障がい者基幹相談支援センター（市内14か所のセンターで，障がいがある人の在宅生活全般に関する相談支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑥福岡市障がい者１１０番（差別の解消や、権利擁護に関する相談などに対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑦身体障がい者相談員、知的障がい者相談員（障がいのある人の日常生活の問題について、地域の相談員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑧民生委員・児童委員（障がいのある人の日常生活の問題について、身近な地域で民生委員・児童委員が相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑨障がい者就労支援センター（障がいのある人や家族、企業などの相談に応じ、「ジョブコーチ」を派遣したり、職場を開拓するなどの支援を行う）	1	2	1	2	1	2	3	4
⑩社会福祉協議会（生活福祉資金の貸付や日常生活への支援、ボランティア利用など、様々な生活の相談に対応する）	1	2	1	2	1	2	3	4

地域とのかかわりについておたずねします

問３６　あなたのご近所の方との関係は、次のどれに近いですか。（○は１つだけ）

1．何か困ったときに助け合う親しい人がいる
2．たまに家を訪問し合う人がいる
3．立ち話をする程度の人ならいる
4．あいさつをする程度の人ならいる
5．ほとんど付き合いはない

問３７　ここ２～３年の間、地域での行事（町内会などが実施する防災訓練、夏祭りなど）に参加したことがありますか。（○は１つだけ）

1．参加している　　2．たまに参加している
3．ほとんど参加していない　　4．参加していない
5．そのような行事があることを知らない

問３８　あなたは、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

1．簡単な身の周りの世話をする
2．外出時に付き添う
3．普段から定期的に声かけなどをする
4．相談相手になる
5．世間話をして一緒に過ごす
6．地域の行事やイベントに一緒に参加する
7．趣味やスポーツ活動を一緒にする
8．災害時の支援
9．その他（　　）
10．特にない

防災についておたずねします

問３９　あなたが、地震などの災害が発生したときに、困ることや不安なことは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．災害の情報を知る方法がない
2．助けを求める方法がない
3．近くに助けてくれる人がいない
4．一人では避難できない
5．避難所の設備が障がいに対応しているか不安
6．避難所で必要な支援が受けられるか不安
7．避難所でほかの人と一緒に過ごすのが難しい
8．薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安
9．医療機器の電源確保が心配
10．特にない
11．その他（　　）
12．わからない

問４０　あなたは、災害に対してどのような備えをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

1．日頃から家族で災害時の対応を話し合っている
2．非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている
3．疾病などで必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている
4．近所の人や知人などに、災害が発生した時の助けをお願いしている
5．「避難行動要支援者名簿」に登録している
6．避難先を確保している
7．その他（　　）
8．特にない

問４１　あなたが、水害や地震などの災害が発生したときに、安全の確保などで頼れる人はどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

１．同居の家族	２．同居している家族以外の親族
３．友人・知人	４．福祉サービスの事業者
５．その他（　　）	６．頼る必要がない（自力で避難などができる）
７．頼れる人がいない	

問４２　あなたは、福岡市は安全・安心のための社会環境整備ができていると感じていますか。（○は１つだけ）

１．感じている	２．どちらかといえば感じている
３．どちらかといえば感じていない	４．感じていない
５．わからない	

差別や人権についておたずねします

問４３　あなたは、ここ２～３年の間に、疾患があるため、差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。（○は１つだけ）

１．ある　　２．ない

問４３－１は、問４３で「１．」を選ばれた方におたずねします

問４３－１　どのようなことで、いやな思いをしましたか。
（○はあてはまるものすべて）

１．病院・診療所などで診察を断られた
２．バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあった
３．家を借りる時に不動産業者や家主に断られた
４．ホテル・旅館、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られた
５．疾患を理由とした不採用や解雇
６．役所の窓口に行ったとき、職員の対応で不愉快な思いをした
７．相談機関・相談窓口に行ったとき、職員の対応で不愉快な思いをした
８．学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた
９．居宅介護や外出の支援をするヘルパーなどの対応で不愉快な思いをした
10．入所・通所している施設職員及び他の利用者の対応で不愉快な思いをした
11．バス、電車、タクシーの乗員の対応で不愉快な思いをした
12．近所の人達の対応で不愉快な思いをした
13．その他（　　）
14．思い出せない

問４４　難病患者を含め、障がい者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。（○は３つまで）

1．障がい者の意見や行動が尊重されないこと（結婚、就職に際しての周囲の反対など）
2．差別的な言動を受けること
3．聴覚や視覚に障がいのある人などへ必要な情報を伝える配慮が足らないこと
4．人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと
5．道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと
6．働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと
7．住宅を容易に借りることができないこと
8．就職・職場で不利な扱いを受けること
9．役所の窓口において不当な扱いを受けること
10．病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受けること
11．使える在宅サービスや福祉施設・病院が少ないこと
12．学校の受け入れ体制が不十分なこと
13．詐欺や悪徳商法の被害を受けやすいこと
14．スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと
15．その他（　　）
16．特にない

福祉施策全般についておたずねします

問４５　難病患者を含め、障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**国や県、市に**、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1．障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実
2．就労支援の充実（働くための訓練や職場定着など）
3．施設で働ける場（就労継続支援事業所など）の充実
4．居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実
5．年金など、所得保障の充実
6．グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
7．困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実
8．乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり
9．障がい者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリーの推進など）
10．文化・スポーツなどを通じた社会参加の支援
11．障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実
12．介護や訓練が受けられる施設（入所・通所）の充実
13．行政自体の設備や手続きなどを含めたバリアフリーの推進
14．その他（　　）
15．特にない
16．わからない

問４６　難病患者を含め、障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**地域社会や企業**に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1．障がいに対する理解を深める
2．障がい者をはじめ、困っている人を支える地域活動やボランティア活動を活発にする
3．地域の行事やイベントに障がい者が参加しやすいよう配慮する
4．電車やバスなどの公共交通機関や建物、店舗、住居などを障がい者が利用しやすいようにつくる
5．企業で障がい者を積極的に雇用する
6．障がい者施設などで作ったものを購入する
7．その他（　　）
8．特にない
9．わからない

問４７　あなたは、福岡市は障がいのある人が暮らしやすいまちだと感じていますか。
（○は１つだけ）

1．感じている
2．どちらかといえば感じている
3．どちらかといえば感じていない
4．感じていない
5．わからない

問４８　障がい者福祉についてご意見がありましたら、自由に記入してください。

◎この調査票はどなたが回答しましたか。（○は１つだけ）

1．本人が全部回答した
2．他の人が本人の意思を確認しながら回答した
3．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答した
4．その他（　　）

「２．他の人が本人の意思を確認しながら回答した」
「３．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答した」
を選ばれた方におたずねします

◎この調査票を回答した方の続柄は何ですか。調査票のあて名の方からみた**続柄**をお答えください。（○は１つだけ）

1．父親　2．母親　3．祖父母　4．配偶者（夫・妻）
5．子ども　6．兄弟姉妹　7．その他の家族
8．サービス事業者（ホームヘルパーなど）　9．その他（　　）

全員におたずねします

◎調査票への回答にあたって、困ったことやその他何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

指定難病一覧

○令和７年４月１日現在

番号	病名	番号	病名
1	球脊髄性筋萎縮症	40	高安動脈炎
2	筋萎縮性側索硬化症	41	巨細胞性動脈炎
3	脊髄性筋萎縮症	42	結節性多発動脈炎
4	原発性側索硬化症	43	顕微鏡的多発血管炎
5	進行性核上性麻痺	44	多発血管炎性肉芽腫症
6	パーキンソン病	45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症
7	大脳皮質基底核変性症	46	悪性関節リウマチ
8	ハンチントン病	47	バージャー病
9	神経有棘赤血球症	48	原発性抗リン脂質抗体症候群
10	シャルコー・マリー・トゥース病	49	全身性エリテマトーデス
11	重症筋無力症	50	皮膚筋炎／多発性筋炎
12	先天性筋無力症候群	51	全身性強皮症
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	52	混合性結合組織病
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	53	シェーグレン症候群
15	封入体筋炎	54	成人発症スチル病
16	クロウ・深瀬症候群	55	再発性多発軟骨炎
17	多系統萎縮症	56	ベーチェット病
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	57	特発性拡張型心筋症
19	ライソゾーム病	58	肥大型心筋症
20	副腎白質ジストロフィー	59	拘束型心筋症
21	ミトコンドリア病	60	再生不良性貧血
22	もやもや病	61	自己免疫性溶血性貧血
23	プリオン病	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症
24	亜急性硬化性全脳炎	63	免疫性血小板減少症
25	進行性多巣性白質脳症	64	血栓性血小板減少性紫斑病
26	HTLV-1 関連脊髄症	65	原発性免疫不全症候群
27	特発性基底核石灰化症	66	IgA 腎症
28	全身性アミロイドーシス	67	多発性嚢胞腎
29	ウルリッヒ病	68	黄色靱帯骨化症
30	遠位型ミオパチー	69	後縦靱帯骨化症
31	ベスレムミオパチー	70	広範脊柱管狭窄症
32	自己貪食空胞性ミオパチー	71	特発性大腿骨頭壊死症
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	72	下垂体性 ADH 分泌異常症
34	神経線維腫症	73	下垂体性 TSH 分泌亢進症
35	天疱瘡	74	下垂体性 PRL 分泌亢進症
36	表皮水疱症	75	クッシング病
37	膿疱性乾癬（汎発型）	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症
39	中毒性表皮壊死症	78	下垂体前葉機能低下症

番号	病名	番号	病名
79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	121	脳内鉄沈着神経変性症
80	甲状腺ホルモン不応症	122	脳表ヘモジデリン沈着症
81	先天性副腎皮質酵素欠損症	123	ＨＴＲＡ１関連脳小血管病
82	先天性副腎低形成症	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症
83	アジソン病	125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症
84	サルコイドーシス	126	ペリー病
85	特発性間質性肺炎	127	前頭側頭葉変性症
86	肺動脈性肺高血圧症	128	ビッカースタッフ脳幹脳炎
87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	129	痙攣重積型（二相性）急性脳症
88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	130	先天性無痛無汗症
89	リンパ脈管筋腫症	131	アレキサンダー病
90	網膜色素変性症	132	先天性核上性球麻痺
91	バッド・キアリ症候群	133	メビウス症候群
92	特発性門脈圧亢進症	134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群
93	原発性胆汁性胆管炎	135	アイカルディ症候群
94	原発性硬化性胆管炎	136	片側巨脳症
95	自己免疫性肝炎	137	限局性皮質異形成
96	クローン病	138	神経細胞移動異常症
97	潰瘍性大腸炎	139	先天性大脳白質形成不全症
98	好酸球性消化管疾患	140	ドラベ症候群
99	慢性特発性偽性腸閉塞症	141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん
100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	142	ミオクロニー欠神てんかん
101	腸管神経節細胞僅少症	143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん
102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	144	レノックス・ガストー症候群
103	CFC 症候群	145	ウエスト症候群
104	コステロ症候群	146	大田原症候群
105	チャージ症候群	147	早期ミオクロニー脳症
106	クリオピリン関連周期熱症候群	148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん
107	若年性特発性関節炎	149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群
108	TNF 受容体関連周期性症候群	150	環状 20 番染色体症候群
109	非典型溶血性尿毒症症候群	151	ラスムッセン脳炎
110	ブラウ症候群	152	ＰＣＤＨ19 関連症候群
111	先天性ミオパチー	153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	154	睡眠時棘徐波活性化を示す発達性てんかん性脳症及びてんかん性脳症
113	筋ジストロフィー	155	ランドウ・クレフナー症候群
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	156	レット症候群
115	遺伝性周期性四肢麻痺	157	スタージ・ウェーバー症候群
116	アトピー性脊髄炎	158	結節性硬化症
117	脊髄空洞症	159	色素性乾皮症
118	脊髄髄膜瘤	160	先天性魚鱗癬
119	アイザックス症候群	161	家族性良性慢性天疱瘡
120	遺伝性ジストニア	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）

番号	病名	番号	病名
163	特発性後天性全身性無汗症	205	脆弱Ｘ症候群関連疾患
164	眼皮膚白皮症	206	脆弱Ｘ症候群
165	肥厚性皮膚骨膜症	207	総動脈幹遺残症
166	弾性線維性仮性黄色腫	208	修正大血管転位症
167	マルファン症候群／ロイス・ディーツ症候群	209	完全大血管転位症
168	エーラス・ダンロス症候群	210	単心室症
169	メンケス病	211	左心低形成症候群
170	オクシピタル・ホーン症候群	212	三尖弁閉鎖症
171	ウィルソン病	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症
172	低ホスファターゼ症	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症
173	VATER 症候群	215	ファロー四徴症
174	那須・ハコラ病	216	両大血管右室起始症
175	ウィーバー症候群	217	エプスタイン病
176	コフィン・ローリー 症候群	218	アルポート症候群
177	ジュベール症候群関連疾患	219	ギャロウェイ・モワト症候群
178	モワット・ウィルソン症候群	220	急速進行性糸球体腎炎
179	ウィリアムズ症候群	221	抗糸球体基底膜腎炎
180	ＡＴＲ－Ｘ症候群	222	一次性ネフローゼ症候群
181	クルーゾン症候群	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎
182	アペール症候群	224	紫斑病性腎炎
183	ファイファー症候群	225	先天性腎性尿崩症
184	アントレー・ビクスラー症候群	226	間質性膀胱炎（ハンナ型）
185	コフィン・シリス症候群	227	オスラー病
186	ロスムンド・トムソン症候群	228	閉塞性細気管支炎
187	歌舞伎症候群	229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）
188	多脾症候群	230	肺胞低換気症候群
189	無脾症候群	231	α1－アンチトリプシン欠乏症
190	鰓耳腎症候群	232	カーニー複合
191	ウェルナー症候群	233	ウォルフラム症候群
192	コケイン症候群	234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）
193	プラダー・ウィリ症候群	235	副甲状腺機能低下症
194	ソトス症候群	236	偽性副甲状腺機能低下症
195	ヌーナン症候群	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症
196	ヤング・シンプソン症候群	238	ビタミンＤ抵抗性くる病/骨軟化症
197	１ｐ36 欠失症候群	239	ビタミンＤ依存性くる病/骨軟化症
198	4ｐ欠失症候群	240	フェニルケトン尿症
199	5ｐ欠失症候群	241	高チロシン血症１型
200	第 14 番染色体父親性ダイソミー症候群	242	高チロシン血症２型
201	アンジェルマン症候群	243	高チロシン血症３型
202	スミス・マギニス症候群	244	メープルシロップ尿症
203	22q11.2 欠失症候群	245	プロピオン酸血症
204	エマヌエル症候群	246	メチルマロン酸血症

番号	病名	番号	病名
247	イソ吉草酸血症	289	クロンカイト・カナダ症候群
248	グルコーストランスポーター1 欠損症	290	非特異性多発性小腸潰瘍症
249	グルタル酸血症１型	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）
250	グルタル酸血症２型	292	総排泄腔外反症
251	尿素サイクル異常症	293	総排泄腔遺残
252	リジン尿性蛋白不耐症	294	先天性横隔膜ヘルニア
253	先天性葉酸吸収不全	295	乳幼児肝巨大血管腫
254	ポルフィリン症	296	胆道閉鎖症
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	297	アラジール症候群
256	筋型糖原病	298	遺伝性膵炎
257	肝型糖原病	299	嚢胞性線維症
258	ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	300	ＩｇＧ４関連疾患
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	301	黄斑ジストロフィー
260	シトステロール血症	302	レーベル遺伝性視神経症
261	タンジール病	303	アッシャー症候群
262	原発性高カイロミクロン血症	304	若年発症型両側性感音難聴
263	脳腱黄色腫症	305	遅発性内リンパ水腫
264	無βリポタンパク血症	306	好酸球性副鼻腔炎
265	脂肪萎縮症	307	カナバン病
266	家族性地中海熱	308	進行性白質脳症
267	高ＩｇＤ症候群	309	進行性ミオクローヌスてんかん
268	中條・西村症候群	310	先天異常症候群
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	311	先天性三尖弁狭窄症
270	慢性再発性多発性骨髄炎	312	先天性僧帽弁狭窄症
271	強直性脊椎炎	313	先天性肺静脈狭窄症
272	進行性骨化性線維異形成症	314	左肺動脈右肺動脈起始症
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／ＬＭＸ１Ｂ関連腎症
274	骨形成不全症	316	カルニチン回路異常症
275	タナトフォリック骨異形成症	317	三頭酵素欠損症
276	軟骨無形成症	318	シトリン欠損症
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	319	セピアプテリン還元酵素（ＳＲ）欠損症
278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症
279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	321	非ケトーシス型高グリシン血症
280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	322	β―ケトチオラーゼ欠損症
281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	323	芳香族Ｌ－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症
282	先天性赤血球形成異常性貧血	324	メチルグルタコン酸尿症
283	後天性赤芽球癆	325	遺伝性自己炎症疾患
284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	326	大理石骨病
285	ファンコニ貧血	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）
286	遺伝性鉄芽球性貧血	328	前眼部形成異常
287	エプスタイン症候群	329	無虹彩症
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症

番号	病名
331	特発性多中心性キャッスルマン病
332	膠様滴状角膜ジストロフィー
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群
334	脳クレアチン欠乏症候群
335	ネフロン癆
336	家族性低βリポタンパク血症 1(ホモ接合体)
337	ホモシスチン尿症
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症
339	MECP2 重複症候群
340	線毛機能不全症候群（カルタゲナー（Kartagener）症候群を含む。）
341	TRPV4 異常症
342	LMNB1 関連大脳白質脳症
343	PURA 関連神経発達異常症
344	極長鎖アシル-CoA 脱水素酵素欠損症
345	乳児発症 STING 関連血管炎
346	原発性肝外門脈閉塞症
347	出血性線溶異常症
348	ロウ症候群

福岡市　障がい福祉に関するアンケート調査
【事業所用】

【ご協力のお願い】

日頃から福岡市の福祉向上にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

福岡市では、障がいのある人が必要な支援を受けながら、自らの能力を最大限発揮し、地域や家庭でいきいきと生活することのできるまちづくりをめざし、「福岡市保健福祉総合計画」（令和３年度～令和８年度）および「第７期福岡市障がい福祉計画及び第３期福岡市障がい児福祉計画」（令和６年度～令和８年度）に基づき、障がい福祉施策を進めております。

今回、令和９年度以降の福岡市保健福祉総合計画等の策定に先立ち、福岡市にお住まいの障がいのある方の生活の様子や福祉サービス等に対するニーズ等を把握するための実態調査を行うことといたしました。

この調査は、障がいのある方を支援している市内の福祉サービス事業所（施設）等の皆さまに、業務を通じサービスの提供者としての視点で感じている障がい福祉サービス等に関するニーズ等についてお尋ねするため、調査をお願いするものです。

なお、ご回答いただいた内容は、統計的に処理いたします。貴事業所（施設）の情報を外部に提供したり、別の目的に利用することは一切ございませんので、安心してお答えください。

本調査は、これからの福岡市の障がい施策の充実のために実施するものですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

本調査は障がいのある方等の個人に対しても実施しています。（身体・知的障がい児・者、発達障がい児・者、精神障がい者、難病患者調査）

ご利用者様から調査に関する問い合わせがありましたら、調査票の記載などのご配慮を賜りますようお願いいたします。

令和７年６月　　福岡市

【調査に関するお問い合わせ先】
●８ページの「①相談支援事業所」又は「②居宅介護等サービス事業所」の場合
福岡市役所　障がい在宅福祉課　アンケート調査担当
電話：092-711-4985　FAX：092-711-4818
E-mail：s-zaitakufukushi.PWB@city.fukuoka.lg.jp
●８ページの「③施設事業所」の場合
福岡市役所　障がい施設福祉課　アンケート調査担当
電話：092-711-4249　FAX：092-711-4818
E-mail: s-shisetufukushi.PWB@city.fukuoka.lg.jp

記入にあたってのご注意

●鉛筆またはボールペンでご記入ください。
●記入は事業所の代表者の方にお願いします。
●この調査票は、事業所番号単位でご回答ください。
●回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
●質問によっては、回答していただく事業所が限られる場合がありますので、矢印や案内にそってお答えください。
●調査票は、記入が終わったら、同封しております封筒（切手不要）に入れて、**７月２５日（金）まで**に、郵便ポストに入れてください。

◎貴事業所の名称・所在地・電話番号等をご記入ください。

事業所名			
所在地	〒		
連絡先	電話：（　　）　－　　FAX：（　　）　－		
回答者名		回答者の役職	

事業所の概要についておたずねします

問１　貴事業所が提供しているサービスについてお教えください。
（○はあてはまるものすべて）

《障がい福祉サービス等》

１．居宅介護	２．重度訪問介護
３．行動援護	４．同行援護
５．短期入所	６．療養介護
７．生活介護	８．自立訓練（機能訓練）
９．自立訓練（生活訓練）	10．就労移行支援
11．就労継続支援（Ａ型）	12．就労継続支援（Ｂ型）
13．就労定着支援	14．自立生活援助
15．共同生活援助	16．施設入所支援
17．計画相談支援	18．地域相談支援

《地域生活支援事業》

19．移動支援　　20．日中一時支援
21．地域活動支援センター（Ⅰ型・Ⅱ型・Ⅲ型・Ⅳ型）
22．障がい者相談支援
23．居住サポート
24．その他（　　）

《その他》

25．放課後等デイサービス　　26．訪問型在宅レスパイト
27．その他（　　）

問２　貴事業所の職員数をご記入ください。
（該当者がいない場合は、０人とご記入ください）

常勤職員	人	非常勤職員	人	その他職員	人

常勤職員：週３２時間以上サービスに従事している職員
非常勤職員：週３２時間未満サービスに従事している職員

問３　貴事業所の年度末(※1)毎の利用人数をご記入ください。障がいが重複している（複数のサービスを利用している）場合はそれぞれに１人と記入してください。なお、該当者がいない場合は、０人とご記入ください。

項目	身体障がい者	知的障がい者	精神障がい者	障がい児	その他	計
令和３年度末利用者数	人	人	人	人	人	人
令和４年度末利用者数	人	人	人	人	人	人
令和５年度末利用者数	人	人	人	人	人	人
令和６年度末利用者数	人	人	人	人	人	人

※1…3月31日時点の状況。

障がい者福祉施策全般についておたずねします

福祉サービス・事業について

以下のサービス・事業の概要を読んでから、問４にお進みください。

	サービス・事業名	内　容
1	居宅介護	ヘルパーが訪問し、家事・身体介護等のサービスを提供する。
2	重度訪問介護	重度の障がいがあり常に介護が必要な人に、ヘルパーが訪問し，家事・身体介護や外出時の移動の支援などのサービスを提供する。
3	短期入所	保護者等が疾病等により一時的に介護できない場合に障がい者・児を保護する。（宿泊を伴う）
4	行動援護	行動上著しい困難を有する知的障がい者等に対し、予防的対応、外出時の介護等を行う。
5	同行援護	移動に著しい困難を有する視覚障がい者に対し、外出時において移動に必要な情報の提供、移動の援護を行う。
6	施設入所支援	施設に入所する人に、夜間や休日の入浴、排泄、食事の介護などを行う。
7	生活介護	常時介護を必要とする人に、施設で日中の介護等を行う。
8	自立訓練	身体機能、生活能力の向上のために必要な訓練を行う。
9	就労移行支援	一般企業への就職を希望する人に対する訓練を行う。
10	就労継続支援（Ａ型）	通所により、雇用契約に基づく就労の機会を提供する。
11	就労継続支援（Ｂ型）	通所により、就労の機会や生産活動の機会を提供する。

	サービス・事業名	内　容
12	就労定着支援	企業、自宅等への訪問や体調管理などに関する課題の解決に向けた支援を実施する。
13	グループホーム	地域で共同生活を営む住居において日常生活上の相談、介護等の支援を実施する。
14	自立生活援助	定期的に居宅を訪問し、食事、洗濯などの課題や体調の変化や通院の状況などについて確認を行い、必要な助言などを行う。
15	移動支援	一人での外出が困難な障がい者が、区役所や病院等へ外出する際、ヘルパーが外出の援助を行う。
16	日中一時支援	介護者が疾病等により、一時的に介護できない場合に、施設等において日中預かり、日常生活の支援を行う。
17	日常生活用具	心身障がい者（児）の日常生活の利便を図るための用具の給付を行う。
18	補装具	身体上の障がいを補うための「補装具」の購入や修理にかかる費用の支給を行う。
19	福祉乗車券の交付	重度の障がい者等に対して、公共交通機関の乗車券等を交付する。
20	福祉タクシー料金の助成	在宅の重度心身障がい者（児）がタクシーを利用する際、運賃の一部を助成する。
21	福祉電話の貸与	障がい者に電話やファックスを貸与する。
22	緊急通報システム	急病等の緊急事態の際に、受信センターへ通報できる緊急通報機器を設置する。
23	福岡市重度心身障がい者福祉手当	重度の心身障がい者（児）へ市単独の手当を支給する。 在宅者 20,000 円/年、入所者 15,000 円/年
24	児童発達支援	障がいのある子どもに、通園施設等において日常生活の指導や集団生活への適応訓練等を行う。

	サービス・事業名	内　容
25	放課後等デイサービス	学校通学中の障がいのある子どもに、放課後や夏休み等に生活能力向上のための訓練等を行う。
26	保育所等訪問支援	障がいのある子どもの通う保育所等を訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援を行う。
27	障がい児入所支援	障がいのある子どもを入所施設等において保護し、日常生活における基本動作の指導等を行う。
28	特別支援学校放課後等支援事業	特別支援学校に通う児童・生徒を放課後等にお預かりする。

問４　１～２８のサービス・事業の中で、サービスの量が不足していたり、利用対象・範囲の拡大等を図るべきだと思うものがありますか。（○は１つだけ）

１．ある　　２．ない　　３．わからない

問４－１は、問４で「１.」を選ばれた方におたずねします

問４－１　それはどのサービス・事業ですか。優先度が高いと思うものを３つまで選んでください。（事業番号は１～２８の数字を記入してください）

事業番号	選んだ理由

問５　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**国や県、市に**、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

1．障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実
2．就労支援の充実（働くための訓練や職場定着など）
3．施設で働ける場（就労継続支援事業所など）の充実
4．居宅介護や移動支援など、在宅生活支援サービスの充実
5．年金など、所得保障の充実
6．グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
7．困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実
8．乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり
9．障がい者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリーの推進など）
10．文化・スポーツなどを通じた社会参加の支援
11．障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実
12．介護や訓練が受けられる施設（入所・通所）の充実
13．行政自体の設備や手続きなどを含めたバリアフリーの推進
14．その他（　　）
15．特にない
16．わからない

問６　障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、**地域社会や自社以外の企業**に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。（○は３つまで）

１．障がいに対する理解を深める
２．障がい者をはじめ、困っている人を支える地域活動やボランティア活動を活発にする
３．地域の行事やイベントに障がい者が参加しやすいよう配慮する
４．電車やバス等の公共交通機関や建物、店舗、住居等を障がい者が利用しやすいようにつくる
５．企業で障がい者を積極的に雇用する
６．障がい者施設等で作ったものを購入する
７．その他（　　）
８．特にない
９．わからない

問７　事業運営上の課題や障がい者福祉についてご意見がありましたら、自由に記入してください。

各事業所の業務実施状況等についておたずねします

ここからは提供サービスの種類によって、回答する質問が異なります。
下記に従ってお進みください。
※「居宅介護等サービス事業所」「施設事業所」等の複数の区分に該当する場合は、お手数ですがそれぞれの調査に回答してください。

①相談支援事業所
＊　あいあいセンター
＊　区障がい者基幹相談支援センター
＊　指定相談支援事業所
＊　ゆうゆうセンター
＊　西部療育センター
＊　東部療育センター
＊　南部療育センター

⇨ 【９～１１頁】 相談支援事業所用調査 へ

②居宅介護等サービス事業所
＊　「①相談支援事業所」「③施設事業所」以外の障がい福祉サービス事業所、地域生活支援事業所

⇨ 【１２～１３頁】 居宅介護等サービス事業所用調査 へ

③施設事業所
＊　「施設入所支援」「共同生活援助」「療養介護」「生活介護」「自立訓練」「就労移行支援」「就労継続支援」「就労定着支援」「短期入所（日中一時支援含む）」事業所
＊　地域活動支援センター（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型）

⇨ 【１４～１６頁】 施設事業所用調査 へ

相談支援事業所用調査

問８　貴事業所が主たる対象としている障がい種別は何ですか。
（○はあてはまるものすべて）

１．身体障がい者　　２．知的障がい者　　３．精神障がい者　　４．障がい児 ５．難病患者

問９　以下の各職種の職員数をご記入ください。１人の相談支援専門員（コーディネーター）が複数の障がいを担当している場合はそれぞれに１人と記入してください。
なお、該当者がいない場合は、０人とご記入ください。

相談支援専門員 または コーディネーター	身　体	専従：　　人	兼任：　　人
	知　的	専従：　　人	兼任：　　人
	精　神	専従：　　人	兼任：　　人
	難　病	専従：　　人	兼任：　　人

問１０　相談支援の観点から、障がい者に不足している社会資源は何だと思いますか。
（○は３つまで）

１．医療ケアが可能な短期入所施設
２．強度行動障がいに対応できる短期入所施設
３．高度なスキルを持ったホームヘルパー等の人材
４．グループホーム
５．障がい者が入居できる住まい
６．対象者の範囲が広く、利便性が高い移動支援事業
７．虐待防止（予防）のための官民一体となった取り組み
８．障がい者の権利擁護のための専門機関
９．連携できる医師・医療機関
10．障がい福祉サービス事業所や地域活動支援センター等などの日中活動の場
11．障がい者支援施設（入所）
12．その他（　　）
13．特にない

問１１　相談支援を実施するうえで、どのような課題がありますか。
（○はあてはまるものすべて）

１．障がい者ケアマネジメントなど計画的な相談支援を実施することが難しい
２．困難事例の処遇をどのようにしたらよいかわからない
３．障がい者の制度の変化が激しいため、知識が追いつかない
４．他の相談支援事業所との連携が難しい
５．相談支援専門員（コーディネーター）の人数が不足している
６．相談支援専門員（コーディネーター）が他の業務と兼務しているため、十分な相談支援が難しい
７．相談支援専門員（コーディネーター）の人材育成が難しい
８．社会資源の不足で、障がい者（児）のニーズに十分対応できない
９．相談支援に対する国の報酬が安い
10．作成する書類の種類や数が多く、事務処理に追われている
11．その他（　　）
12．特にない

問１２　利用者のニーズにはどのように対応していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．担当の相談支援専門員（コーディネーター）だけで考えている
２．同じ事業所の相談支援専門員（コーディネーター）間で協議している
３．個別支援（ケア）会議で関係者による協議を行っている
４．基幹相談支援センターが主催する会議に出席し、関係者による協議を行っている
５．その他（　　）

問１３　相談支援の発展のために必要なことは何ですか。
（○はあてはまるものすべて）

１．障がい種別にこだわらず、総合的な相談支援が受けられること（相談のワンストップ）
２．地域生活支援協議会で、不足している支援や社会資源を開発・改善していく仕組みを整えること
３．相談支援事業の客観的な評価基準を整えること
４．相談支援専門員（コーディネーター）のスキルを研修等により向上させること
５．基幹相談支援センターが中心となって、相談支援事業所間のネットワークを形成すること
６．基幹相談支援センターが中心となって、障がいに関する専門機関やサービス事業所等とのネットワークを形成すること
７．多くの市民が相談支援事業所を認知していること
８．相談支援専門員を増やすこと
９．相談支援に対する国の報酬を高くすること
10．事務処理を効率化すること
11．事業所として困難事例に適切に対応できる体制を整えること
12．その他（　　）
13．特にない

相談支援事業所に対する質問は以上です
ご協力ありがとうございました

居宅介護等サービス事業所用調査

問１４　事業所で取り組む必要があると思うものは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．職場内での人材育成・教育の充実
２．専門職の確保　⇒（具体的に：　　）
３．利用者にとって有益な情報開示の推進
４．利用者にわかりやすい契約書の工夫
５．利用者の納得と意思の尊重
６．利用者のプライバシー保護・個人情報管理の徹底
７．各種マニュアルの作成
８．苦情処理対応
９．サービスの自己評価の取り組み
10．従業員の労働条件
11．他の居宅介護事業所や相談支援事業所との連携
12．医療機関との連携
13．家族等介護者とのつながり
14．事務処理の効率化
15．困難事例への対応
16．事業の実施に関する制度の理解力向上
17．利用者の確保
18．基幹相談支援センターとの連携
19．ハラスメント対策
20．その他（　　）
21．特にない

問１５～問１６は、行動援護、同行援護または移動支援事業所の方のみお答えください。

問１５　行動援護、同行援護または移動支援は、利用者の社会参加の推進を目的としていますが、事業実施にあたり、利用者がよく利用している外出内容は何だと思いますか。（○は３つまで）

１．市役所・区役所等各種手続、相談等のための外出
２．郵便局・銀行等金融機関利用のための外出
３．医療機関の受診や相談のための外出
４．入院・入所中あるいは在宅療養中の家族及び知人の見舞いのための外出
５．本市において開催される催しや大会、研修会などに参加するための外出
６．利用者の子どもの学校行事への参加のための外出
７．公的施設利用のための外出
８．買物・理美容のための外出
９．習い事・サークル活動などのための外出
10．その他（　　）

問１６　行動支援、同行援護または移動支援を実施する中で、不満に思うことは何ですか。
（○はあてはまるものすべて）

1．公共交通機関のバリアフリー化が進んでいない
2．金銭的負担が大きいタクシーを利用せざるを得ない場合がある
3．その他（　　）
4．不満に思うことはない

問１７は、行動援護事業所の方のみお答えください

問１７　行動援護事業の実施にあたり、困難を感じることは何ですか。
（○はあてはまるものすべて）

1．要件を満たすヘルパーが集まらない
2．要件を満たすための研修が少ない
3．利用希望者が少ない
4．作成する書類が多く、事務処理が困難
5．その他（　　）
6．特にない

問１８　事業を実施するうえで、どのような課題がありますか。

居宅介護等サービス事業所に対する質問は以上です
ご協力ありがとうございました

施設事業所用調査

問１９　施設事業所の観点から、不足している社会資源は何だと思いますか。
（○は３つまで）

1．医療ケアが可能な短期入所施設
2．強度行動障がいに対応できる短期入所施設
3．高度なスキルを持ったホームヘルパー等の人材
4．グループホーム
5．障がい者が入居できる住まい
6．対象者の範囲が広く、利便性が高い移動支援事業
7．虐待防止（予防）のための官民一体となった取り組み
8．障がい者の権利擁護のための専門機関
9．連携できる医師・医療機関
10．障がい福祉サービス事業所や地域活動支援センターなどの日中活動の場
11．障がい者支援施設（入所）
12．その他（　　）
13．特にない

問２０　貴事業所において、施設サービスを提供するうえで課題と感じることはどのようなことですか。（○はあてはまるものすべて）

1．個別支援計画の適切な作成、見直し（アセスメント、モニタリング）
2．職員の確保、人材育成
3．工賃水準の向上
4．一般企業への就職
5．利用者の不足
6．待機者の受け入れ
7．利用者の高齢化
8．事業所間の連携
9．地域との交流
10．防災対策（備蓄、安否確認、避難訓練、業務継続計画の策定など）
11．防犯対策（防犯設備、緊急連絡体制など）
12．給付費等請求事務処理
13．その他（　　）
14．特にない

問２１　施設や病院に入所（入院）している障がい者が、退所（退院）して、地域(在宅)で暮らしていくためにはどのようなこと（条件等）が必要だと思いますか。
（○は５つまで）

1．障がいの有無にかかわらず、地域で支え合い共に生きていくという意識をみんなが持っていること
2．歩道や交通手段が使いやすく、いつでも気軽に外出できること
3．障がい者が入居できる民間住宅（アパート等）があること
4．身近なところで様々な相談ができること
5．スポーツやレクリエーションなどの活動に気軽に参加できること
6．一人ひとりの希望にあった日中活動の場（施設）があること
7．必要な時に、一時的に入所できる施設があること
8．就職先があること
9．保健・医療・福祉が連携した支援体制があること
10．災害時など緊急時の支援体制があること
11．夜間の見守り支援があること
12．食事や身の回りの世話をしてくれる人がいること
13．グループホームに入居できること
14．金銭管理を支援してくれるサービスがあること
15．その他（　　）
16．特にない

問２２～問２４は、短期入所事業所及び日中一時支援事業所の方のみお答えください

短期入所及び日中一時支援について、利用者から「利用したい時に空きがなく使えない」とのご意見があがっています。サービスの利便性向上のために、現状を把握する必要がありますので下記の質問にお答えください。

問２２　施設の空きがなく利用者の受け入れができない場合、どのように対応していますか。（○は１つだけ）

1．他の施設を紹介している
2．特に何もしていない
3．その他（　　）

問２３　事業実施にあたり、課題と感じることはどのようなことですか。
（○はあてはまるものすべて）

1．利用者数が毎日変動するため、人員体制の確保が難しい
2．緊急時の利用において、本人の身体状況が把握できていないため受入が難しい
3．施設の空きがなく受入を断らなければならない時に、他の施設を紹介できない
4．医療的なケアが必要な利用者や重度の行動障がいがある利用者に、対応できる職員体制が確保されていない
5．その他（　　）
6．特にない

問２３－１は、問２３で「3.」を選ばれた方におたずねします

問２３－１　他の施設を紹介できない理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．他の施設の受入体制が分からないため（対象障がい、定員枠等）
2．ケアに関する個人情報を他の施設にどの程度まで提供してよいか分からないため
3．紹介するのに手間がかかり、対応できる職員がいないため
4．その他（　　）

問２４　下記の医療ケアのうち、貴事業所で対応可能なものはどれですか。
（○はあてはまるものすべて）

1．胃ろうのみ
2．経管栄養のみ（胃ろう以外）
3．たん吸引
4．褥瘡
5．人工肛門
6．定期導尿
7．ネブライザー使用
8．透析
9．気管切開
10．人工呼吸器使用
11．その他（　　）
12．特にない

施設事業所に対する質問は以上です
ご協力ありがとうございました

２．福岡市の障がい児・者等の概況

（１） 身体障がいの状況

① 身体障がいの種別（主な障がいの部位）

令和7年6月30日現在の身体障害者手帳所持者の身体障がいの種別（主な障がいの部位）をみると、肢体不自由が24,690人（48.2%）と全体の過半数近くを占め最も多く、次いで、内部障がいが17,900人（34.9%）となっている。**【図表11－1】**

年次推移をみると、平成12年度から令和7年度までの26年間に、内部障がいが2.2倍、聴覚・平衡が1.5倍に増加しており、他の障がい種別に比べて増加率が高い。**【図表11－2】**

障がい種別の構成比に着目すると、内部障がいは平成12年度の25.0%から令和7年度には35.0%と、10.0ポイント増加している。**【図表11－2】**

【図表11－1　障がい種別・年齢区分別　身体障害者手帳所持者数[令和7年6月30日現在]】

（　）は構成比（%）

	合　計	視覚障がい	聴覚・平衡	音声・言語障がい等	肢体不自由	内部障がい
総　　数	51,221 (100.0)	3,528 (6.9)	4,521 (8.8)	582 (1.1)	24,690 (48.2)	17,900 (35.0)
身体障がい児 (0～17歳)	1,108 (100.0)	29 (2.6)	199 (18.0)	6 (0.5)	602 (54.3)	272 (24.6)
身体障がい者 (18歳以上)	50,113 (100.0)	3,499 (7.0)	4,322 (8.6)	576 (1.1)	24,088 (48.1)	17,628 (35.2)

＊手帳所持者数（R7.6.30現在）　市統計データ

【図表11－2　障がい種別　身体障害者手帳所持者数の推移】

（　）は構成比（%）

	計	視覚障がい	聴覚・平衡	音声言語障がい等	肢体不自由	内部障がい
令和７年度	51,221 (100.0)	3,528 (6.9)	4,521 (8.8)	582 (1.1)	24,690 (48.2)	17,900 (35.0)
令和元年度	52,114 (100.0)	3,484 (6.7)	4,351 (8.3)	602 (1.2)	27,222 (52.2)	16,455 (31.6)
平成28年度	51,831 (100.0)	3,540 (6.8)	4,159 (8.0)	555 (1.1)	27,619 (53.3)	15,958 (30.8)
平成25年度	51,557 (100.0)	3,694 (7.1)	4,022 (7.8)	563 (1.1)	27,925 (54.2)	15,353 (29.8)
平成22年度	48,526 (100.0)	3,749 (7.7)	3,774 (7.8)	513 (1.1)	26,398 (54.4)	14,092 (29.0)
平成17年度	39,413 (100.0)	3,497 (8.9)	3,269 (8.3)	389 (1.0)	21,494 (54.5)	10,764 (27.3)
平成12年度	32,296 (100.0)	3,320 (10.3)	2,994 (9.3)	419 (1.3)	17,481 (54.1)	8,082 (25.0)
増減（R7-H12）	18,925 (0.0)	208 (▲ 3.4)	1,527 (▲ 0.5)	163 (▲ 0.2)	7,209 (▲ 5.9)	9,818 (10.0)
増減率（R7/H12）	1.6 倍	1.1 倍	1.5 倍	1.4 倍	1.4 倍	2.2 倍

② 身体障がいの程度（身体障害者手帳の等級）

令和7年6月30日現在の身体障害者手帳所持者の手帳等級内訳は、1級が17,593人（34.3%）で最も多く、次いで4級11,868人（23.2%）、2級7,583人（14.8%）の順であり、1・2級を合計すると、重度者が25,176人と全体の約半数（49.2%）を占めている。**【図表11－3】**

年次推移をみると、平成12年度から令和7年度までの26年間で、全体では1.6倍、重度者が1.5倍、中度者が1.7倍、軽度者が1.6倍となっている。**【図表11－4】**

【図表11－3　手帳等級別・年齢区分別　身体障害者手帳所持者数[令和7年6月30日現在]】

（　）は構成比（%）

	合　計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	重度（1・2級）	中度（3・4級）	軽度（5・6級）
総　　数	51,221 (100.0)	17,593 (34.3)	7,583 (14.8)	6,800 (13.3)	11,868 (23.2)	3,673 (7.2)	3,704 (7.2)	25,176 (49.2)	18,668 (36.4)	7,377 (14.4)
身体障がい児 （0～17歳）	1,108 (100.0)	577 (52.1)	204 (18.4)	135 (12.2)	78 (7.0)	26 (2.4)	88 (7.9)	781 (70.5)	213 (19.2)	114 (10.3)
身体障がい者 （18歳以上）	50,113 (100.0)	17,016 (34.0)	7,379 (14.7)	6,665 (13.3)	11,790 (23.5)	3,647 (7.3)	3,616 (7.2)	24,395 (48.7)	18,455 (36.8)	7,263 (14.5)

＊手帳所持者数（R7.6.30現在）　市統計データ

【図表11－4　手帳等級別　身体障害者手帳所持者数の推移】

（　）は構成比（%）

	計	重度（1・2級）	中度（3・4級）	軽度（5・6級）
令和７年度	51,221 (100.0)	25,176 (49.2)	18,668 (36.4)	7,377 (14.4)
令和元年度	52,114 (100.0)	25,922 (49.7)	18,790 (36.1)	7,402 (14.2)
平成28年度	51,831 (100.0)	25,976 (50.1)	18,952 (36.6)	6,903 (13.3)
平成25年度	51,557 (100.0)	26,062 (50.6)	18,938 (36.7)	6,557 (12.7)
平成22年度	48,526 (100.0)	24,979 (51.4)	17,258 (35.6)	6,289 (13.0)
平成17年度	39,413 (100.0)	20,673 (52.5)	13,403 (34.0)	5,337 (13.5)
平成12年度	32,296 (100.0)	16,684 (51.7)	10,920 (33.8)	4,692 (14.5)
増減（R7-H12）	18,925 (0.0)	8,492 (▲ 2.5)	7,748 (2.6)	2,685 (▲ 0.1)
増減率（R7/H12）	1.6 倍	1.5 倍	1.7 倍	1.6 倍

③ 身体障がい児・者の性・年齢構成

令和7年6月30日現在の身体障害者手帳所持者の性別構成は、全体で男性25,096人（49.0%）に対して女性26,125人（51.0%）と女性がやや多くなっている。ただし、児・者別にみると、18歳未満の児童では男性が55.1%を占めて女性より多く、18歳以上では女性が51.1%と男性より多くなっている。

【図表11－5】

年齢構成は、児・者全体でみると、概ね年齢が高いほど人数が多く、60歳代以上が38,982人（76.1%）と全体の7割強を占めている。**【図表11－5】**

年次推移をみると、性別の構成比については、平成17年以降女性の占める割合が高くなっている。

年齢構成では60歳代以上の増加が顕著であり、26年前の平成12年度と比較して人数は1.9倍、構成比も13.8ポイント増加しているが、令和元年度と比較すると令和7年度は減少に転じている。

【図表11－6】

【図表11－5　性別・年齢別　身体障害者手帳所持者数[令和7年6月30日現在]】

（　）は構成比（%）

	合　計	性別		年齢別						
		男性	女性	10歳代以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	（再掲）65歳以上
総　　数	51,221	25,096	26,125	1,264	1,073	1,734	2,885	5,283	38,982	35,513
	(100.0)	(49.0)	(51.0)	(2.5)	(2.1)	(3.4)	(5.6)	(10.3)	(76.1)	(69.3)

	合　計	性別		年齢別					
		男性	女性	0-2歳	3-5歳	6-8歳	9-11歳	12-14歳	15-17歳
身体障がい児（0～17歳）	1,108	610	498	73	154	181	244	215	241
	(100.0)	(55.1)	(44.9)	(6.6)	(13.9)	(16.3)	(22.0)	(19.4)	(21.8)

	合　計	性別		年齢別							
		男性	女性	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-64歳	65-74歳	75歳以上
身体障がい者（18歳以上）	50,113	24,486	25,627	156	1,073	1,734	2,885	5,283	3,469	10,029	25,484
	(100.0)	(48.9)	(51.1)	(0.3)	(2.1)	(3.5)	(5.8)	(10.5)	(6.9)	(20.0)	(50.9)

（注）性別・年齢別構成比は、身体障害者手帳交付台帳と住民基本台帳を照合して得られた数における性・年齢構成比をもとに算出。

【図表11－6　性別・年齢別　身体障害者手帳所持者数の推移】

（　）は構成比（%）

	合計	男性	女性
令和７年度	51,221 (100.0)	25,096 (49.0)	26,125 (51.0)
令和元年度	52,114 (100.0)	25,099 (48.2)	27,015 (51.8)
平成28年度	51,831 (100.0)	24,634 (47.5)	27,197 (52.5)
平成25年度	51,557 (100.0)	24,402 (47.3)	27,155 (52.7)
平成22年度	48,526 (100.0)	23,469 (48.4)	25,057 (51.6)
平成17年度	39,537 (100.0)	19,557 (49.5)	19,980 (50.5)
平成12年度	32,366 (100.0)	17,443 (53.9)	14,923 (46.1)
増減（R7-H12）	18,855　(0.0)	7,653　(▲ 4.9)	11,202　(4.9)
増減率（R7/H12）	1.6 倍	1.4 倍	1.8 倍

（　）は構成比（%）

	合計	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	（再掲）65歳以上
令和７年度	51,221 (100.0)	2,337　(4.6)	1,734　(3.4)	2,885　(5.6)	5,283　(10.3)	38,982　(76.1)	35,513　(69.3)
令和元年度	52,114 (100.0)	2,436　(4.7)	1,865　(3.6)	3,273　(6.3)	5,028　(9.6)	39,512　(75.8)	35,790　(68.7)
平成28年度	51,831 (100.0)	2,462　(4.7)	1,800　(3.5)	3,201　(6.2)	5,014　(9.7)	39,354　(75.9)	35,059　(67.6)
平成25年度	51,557 (100.0)	2,438　(4.7)	1,716　(3.3)	2,890　(5.6)	5,228　(10.2)	39,285　(76.2)	33,923　(65.8)
平成22年度	48,526 (100.0)	2,382　(4.9)	1,876　(3.9)	2,874　(5.9)	5,793　(11.9)	35,601　(73.4)	30,451　(62.8)
平成17年度	39,537 (100.0)	2,394　(6.1)	1,658　(4.2)	2,520　(6.4)	5,984　(15.1)	26,980　(68.2)	23,044　(58.3)
平成12年度	32,366 (100.0)	2,083　(6.4)	1,351　(4.2)	2,683　(8.3)	6,070　(18.8)	20,179　(62.3)	15,659　(48.4)
増減（R7-H12）	18,855　(0.0)	254　(▲ 1.8)	383　(▲ 0.8)	202　(▲ 2.7)	▲ 787　(▲ 8.5)	18,803　(13.8)	
増減率（R7/H12）	1.6 倍	1.1 倍	1.3 倍	1.1 倍	0.9 倍	1.9 倍	

（注）性・年齢別人数については、平成17年度調査までの統計は手帳未所持者を含む。

（２） 知的障がいの状況

① 知的障がいの程度（療育手帳の判定）

令和7年6月30日現在の療育手帳所持者の手帳判定内訳では、Ｂ2が6,083人（39.3%）で最も多く、次いで、Ｂ1：3,695人（23.8%）、Ａ2：2,752人（17.8%）、Ａ1：2,654人（17.1%）が続いている。Ｂ1-Ｂ2のＢ判定の中・軽度者が9,778人（63.1%）で全体の6割強を占めている。**【図表11－7】**

年次推移をみると、26年前の平成12年度から令和7年度までに、全体で3.1倍となっており、Ａ判定の重度者が2.1倍、Ｂ判定の中度・軽度者が4.3倍と、中度・軽度者の増加が顕著である。**【図表11－8】**

【図表11－7　手帳判定別・年齢区分別　療育手帳所持者数[令和7年6月30日現在]】

（　）は構成比（%）

	合　計	A1	A2	A3	B1	B2	重度（A1-A3）	中度（B1）	軽度（B2）
総　　数	15,491 (100.0)	2,654 (17.1)	2,752 (17.8)	307 (2.0)	3,695 (23.8)	6,083 (39.3)	5,713 (36.9)	3,695 (23.8)	6,083 (39.3)
知的障がい児 （0～17歳）	4,921 (100.0)	621 (12.6)	704 (14.3)	56 (1.2)	900 (18.3)	2,640 (53.6)	1,381 (28.1)	900 (18.3)	2,640 (53.6)
知的障がい者 （18歳以上）	10,570 (100.0)	2,033 (19.2)	2,048 (19.4)	251 (2.4)	2,795 (26.4)	3,443 (32.6)	4,332 (41.0)	2,795 (26.4)	3,443 (32.6)

＊手帳所持者数（R7.6.30現在）　市統計データ

【図表11－8　手帳判定別　療育手帳所持者数の推移】

（　）は構成比（%）

	計		重度 ［A］		中度・軽度 ［B］	
令和7年度	15,491	(100.0)	5,713	(36.9)	9,778	(63.1)
令和元年度	12,164	(100.0)	4,989	(41.0)	7,175	(59.0)
平成28年度	10,764	(100.0)	4,583	(42.6)	6,181	(57.4)
平成25年度	9,306	(100.0)	4,222	(45.4)	5,084	(54.6)
平成22年度	8,101	(100.0)	3,892	(48.0)	4,209	(52.0)
平成17年度	5,881	(100.0)	3,000	(51.0)	2,881	(49.0)
平成12年度	4,998	(100.0)	2,698	(54.0)	2,300	(46.0)
増減（R7-H12）	10,493	(0.0)	3,015	(▲ 17.1)	7,478	(17.1)
増減率（R7/H12）	3.1 倍		2.1 倍		4.3 倍	

② 知的障がい児・者の性・年齢構成

令和7年6月30日現在の療育手帳所持者の性別構成は、全体で男性9,792人（63.2%）に対して、女性5,699人（36.8%）と男性の方が多い。**【図表11－9】**

年齢構成は、児・者全体でみると、身体障がいとは異なり、年齢が低いほど人数が多く、10歳代以下5,482人（35.4%）、20歳代3,032人（19.6%）の順となっており、これらを合わせると、20歳代以下の若年層が8,514人（55.0%）と、全体の半数以上を占めている。**【図表11－9】**

年次推移をみると、男女比は概ね6対4の割合であり、大きな変化はみられない。**【図表11－10】**

年齢構成の年次推移については、60歳代以上の増加が顕著であり、平成12年度から令和7年度までの間で4.2倍となっている。**【図表11－10】**

【図表11－9　性別・年齢別　療育手帳所持者数[令和7年6月30日現在]】

（　）は構成比（%）

	合　計	性別		年齢別						
		男性	女性	10歳代以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	（再掲）65歳以上
総　　数	15,491 (100.0)	9,792 (63.2)	5,699 (36.8)	5,482 (35.4)	3,032 (19.6)	2,332 (15.1)	1,718 (11.1)	1,525 (9.8)	1,402 (9.0)	991 (6.4)

	合　計	性別		年齢別					
		男性	女性	0-2歳	3-5歳	6-8歳	9-11歳	12-14歳	15-17歳
知的障がい児 (0～17歳)	4,921 (100.0)	3,393 (68.9)	1,528 (31.1)	70 (1.4)	849 (17.3)	1,171 (23.8)	970 (19.7)	927 (18.8)	934 (19.0)

	合　計	性別		年齢別							
		男性	女性	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-64歳	65-74歳	75歳以上
知的障がい者 (18歳以上)	10,570 (100.0)	6,399 (60.5)	4,171 (39.5)	561 (5.3)	3,032 (28.7)	2,332 (22.1)	1,718 (16.3)	1,525 (14.4)	411 (3.9)	638 (6.0)	353 (3.3)

（注）性別・年齢別構成比は、療育手帳交付台帳と住民基本台帳を照合して得られた数における性・年齢構成比をもとに算出。

【図表11－10　性別・年齢別　療育手帳所持者数の推移】

（　）は構成比（%）

	合計	男性	女性
令和７年度	15,491 (100.0)	9,792 (63.2)	5,699 (36.8)
令和元年度	12,164 (100.0)	7,616 (62.6)	4,548 (37.4)
平成28年度	10,764 (100.0)	6,693 (62.2)	4,071 (37.8)
平成25年度	9,306 (100.0)	5,736 (61.6)	3,570 (38.4)
平成22年度	8,101 (100.0)	4,976 (61.4)	3,125 (38.6)
平成17年度	6,516 (100.0)	4,041 (62.0)	2,475 (38.0)
平成12年度	6,005 (100.0)	3,671 (61.1)	2,334 (38.9)
増減（R7-H12）	9,486　(0.0)	6,121　(2.1)	3,365　(▲ 2.1)
増減率（R7/H12）	2.6 倍	2.7 倍	2.4 倍

（　）は構成比（%）

	合計	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	（再掲）65歳以上
令和７年度	15,491 (100.0)	8,514 (55.0)	2,332 (15.0)	1,718 (11.1)	1,525　(9.8)	1,402　(9.1)	991　(6.4)
令和元年度	12,164 (100.0)	6,653 (54.7)	1,753 (14.4)	1,624 (13.4)	989　(8.1)	1,146　(9.4)	767　(6.3)
平成28年度	10,764 (100.0)	5,817 (54.0)	1,596 (14.8)	1,517 (14.1)	825　(7.7)	1,009　(9.4)	633　(5.9)
平成25年度	9,306 (100.0)	5,258 (56.5)	1,590 (17.1)	1,057 (11.3)	623　(6.7)	778　(8.4)	441　(4.7)
平成22年度	8,101 (100.0)	4,458 (55.0)	1,456 (18.0)	935 (11.5)	621　(7.7)	631　(7.8)	349　(4.3)
平成17年度	6,516 (100.0)	3,908 (60.0)	1,126 (17.3)	552　(8.5)	558　(8.5)	372　(5.7)	233　(3.6)
平成12年度	6,005 (100.0)	3,494 (58.2)	1,054 (17.5)	613 (10.2)	508　(8.5)	336　(5.6)	158　(2.6)
増減（R7-H12）	9,486　(0.0)	5,020　(▲ 3.2)	1,278　(▲ 2.5)	1,105　(0.9)	1,017　(1.3)	1,066　(3.5)	
増減率（R7/H12）	2.6 倍	2.4 倍	2.2 倍	2.8 倍	3.0 倍	4.2 倍	

（注）性・年齢別人数については、平成17年度調査までの統計は手帳未所持者を含む。

（３） 精神障がいの状況

① 精神障がいの程度（精神障害者保健福祉手帳の判定）

令和7年6月30日現在の精神障害者保健福祉手帳所持者の手帳等級内訳では、2級が13,616人（53.0%）で最も多く、次いで3級11,114人（43.3%）、1級958人（3.7%）と続いている。**【図表11－11】**

年次推移をみると、平成12年度から令和7年度までに1級で2.8倍、2級で10.9倍、3級では23.0倍であり、2級、3級で大幅に増加している。**【図表11－12】**

【図表11－11　手帳判定別・年齢区分別　精神障害者保健福祉手帳所持者数（令和7年6月30日現在）】

（　）は構成比（%）

	合計	1級	2級	3級
総数	25,688 (100.0)	958 (3.7)	13,616 (53.0)	11,114 (43.3)
精神障がい児 （0～17歳）	1,786 (100.0)	8 (0.4)	625 (35.0)	1,153 (64.6)
精神障がい者 （18歳以上）	23,902 (100.0)	950 (4.0)	12,991 (54.3)	9,961 (41.7)

＊手帳所持者数（R7.6.30現在）　市統計データ

【図表11－12　手帳判定別　精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移（令和7年6月30日現在）】

（　）は構成比（%）

	計	1級	2級	3級
令和7年度	25,688　(100.0)	958　(3.7)	13,616　(53.0)	11,114　(43.3)
令和元年度	17,454　(100.0)	973　(5.6)	9,683　(55.5)	6,798　(38.9)
平成28年度	13,290　(100.0)	927　(7.0)	7,665　(57.7)	4,698　(35.3)
平成25年度	10,333　(100.0)	675　(6.5)	5,996　(58.0)	3,662　(35.5)
平成22年度	7,747　(100.0)	600　(7.8)	4,767　(61.5)	2,380　(30.7)
平成17年度	4,446　(100.0)	400　(9.0)	2,847　(64.0)	1,199　(27.0)
平成12年度	2,064　(100.0)	337　(16.3)	1,244　(60.3)	483　(23.4)
増減（R7-H12）	23,624　(0.0)	621　(▲ 12.6)	12,372　(▲ 7.3)	10,631　(19.9)
増減率（R7/H12）	12.4 倍	2.8 倍	10.9 倍	23.0 倍

② 精神障がい児・者の性・年齢構成

令和7年6月30日現在の精神障害者保健福祉手帳所持者の性別構成は、全体で男性12,129人（47.2%）に対して、女性13,559人（52.8%）と女性の方がやや多いが、18歳未満では男性が69.7%を占め女性より多くなっている。**【図表11－13】**

年齢構成は、50歳代5,634人（21.9%）、60歳代以上5,407人（21.0%）、40歳代5,043人（19.6%）、30歳代4,354人（17.0%）の順となっている。**【図表11－13】**

【図表11－13　性別・年齢別　精神障害者保健福祉手帳所持者数（令和7年6月30日現在）】

（　）は構成比（%）

	合　計	性別		年齢別						
		男性	女性	10歳代以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	（再掲）65歳以上
総　　数	25,688 (100.0)	12,129 (47.2)	13,559 (52.8)	2,189 (8.5)	3,061 (12.0)	4,354 (17.0)	5,043 (19.6)	5,634 (21.9)	5,407 (21.0)	3,360 (13.1)

	合　計	性別		年齢別					
		男性	女性	0-2歳	3-5歳	6-8歳	9-11歳	12-14歳	15-17歳
精神障がい児 （0～17歳）	1,786 (100.0)	1,245 (69.7)	541 (30.3)	0 -	16 (0.9)	215 (12.0)	487 (27.3)	518 (29.0)	550 (30.8)

	合　計	性別		年齢別							
		男性	女性	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-64歳	65-74歳	75歳以上
精神障がい者 （18歳以上）	23,902 (100.0)	10,884 (45.5)	13,018 (54.5)	403 (1.7)	3,061 (12.8)	4,354 (18.2)	5,043 (21.1)	5,634 (23.6)	2,047 (8.6)	2,278 (9.5)	1,082 (4.5)

【図表11－14　性別・年齢別　精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移（令和7年度6月30日現在）】

（　）は構成比（%）

	合計	男性	女性
令和７年度	25,688 (100.0)	12,129 (47.2)	13,559 (52.8)
令和元年度	17,454 (100.0)	8,488 (48.6)	8,966 (51.4)

	合計	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	（再掲）65歳以上
令和７年度	25,688 (100.0)	5,250 (20.4)	4,354 (17.0)	5,043 (19.6)	5,634 (21.9)	5,407 (21.1)	3,360 (13.1)
令和元年度	17,454 (100.0)	2,799 (16.1)	3,075 (17.6)	4,110 (23.5)	3,612 (20.7)	3,858 (22.1)	2,618 (15.0)

（４） 発達障がいの状況

発達障がいについては、全国的にみても、正確な人数が把握できない状況であるが、心身障がい福祉センター（あいあいセンター）、西部療育センター及び東部療育センターの新規受診児数の推移をみると、全体の数は10年前の平成27年度から令和6年度にかけて1.8倍となっている。また、新規受診児の65.1％が発達障がいと診断された児童であり、このうち約7割が知的な遅れのない児童となっている。**【図表11－15】**

また、発達障がい者支援センター（ゆうゆうセンター）における相談状況の年次推移をみると、平成27年度から令和6年度までの間で小学生の相談数が1.6倍に増加している。**【図表11－16】**

【図表11－15　心身障がい福祉センター・西部療育センター・東部療育センターにおける新規受診児数の推移】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	増減（R6-H27）	増減率（R6/H27）
新規受診児総数	1,294	1,423	1,417	1,518	1,614	1,708	1,931	2,080	2,160	2,324	1,030	1.8 倍
発達障がい児	794	938	908	1,000	1,016	1,086	1,216	1,290	1,366	1,514	720	1.9 倍
新規受診児総数に占める割合（%）	(61.4)	(65.9)	(64.1)	(65.9)	(62.9)	(63.6)	(63.0)	(62.0)	(63.2)	(65.1)	(3.7)	
知的障がいのない発達障がい児	527	582	611	648	632	551	774	824	834	1,033	506	2.0 倍
発達障がい児に占める割合（%）	(66.4)	(62.0)	(67.3)	(64.8)	(62.2)	(50.7)	(63.7)	(63.9)	(61.1)	(68.2)	(1.8)	

【図表11－16　福岡市発達障がい者支援センター（ゆうゆうセンター）の相談状況】

＜年齢別相談者数の推移＞

（　）は構成比（%）

	合計	0～6歳［乳幼児］	7～12歳［小学生］	13～18歳［中高生］	19歳以上	不明
令和６年度	1,584（100.0）	89　(5.6)	390（24.6）	262（16.6）	746（47.1）	97　(6.1)
令和５年度	1,290（100.0）	69　(5.4)	292（22.6）	204（15.8）	592（45.9）	133（10.3）
令和４年度	1,199（100.0）	65　(5.4)	283（23.6）	210（17.5）	521（43.5）	120（10.0）
令和３年度	1,086（100.0）	42　(3.9)	279（25.7）	191（17.6）	498（45.8）	76　(7.0)
令和２年度	1,087（100.0）	66　(6.1)	235（21.6）	183（16.8）	512（47.1）	91　(8.4)
令和元年度	1,331（100.0）	85　(6.4)	305（22.9）	198（14.9）	657（49.4）	86　(6.4)
平成30年度	1,404（100.0）	115　(8.2)	321（22.9）	242（17.2）	642（45.7）	84　(6.0)
平成29年度	1,514（100.0）	121　(8.0)	345（22.8）	227（15.0）	714（47.1）	107　(7.1)
平成28年度	1,453（100.0）	110　(7.6)	327（22.5）	242（16.6）	639（44.0）	135　(9.3)
平成27年度	1,393（100.0）	107　(7.7)	250（17.9）	258（18.5）	607（43.6）	171（12.3）
増減（R6-H27）	191　(0.0)	▲ 18　(▲ 2.1)	140　(6.7)	4　(▲ 1.9)	139　(3.5)	▲ 74　(▲ 6.2)
増減率（R6/H27）	1.1 倍	0.8 倍	1.6 倍	1.0 倍	1.2 倍	0.6 倍

＜障がい別相談者数（令和６年度）＞

（　）は構成比（%）

合計	自閉症スペクトラム症／アスペルガー症候群／広汎性発達障がい	注意欠陥多動性障がい	学習障がい	発達性協調運動障がい	トゥレット症候群	吃音	左記以外の発達障がい	発達障がいに加え知的障がいを伴う	その他	不明
1,693 (100.0)	452 (26.7)	217 (12.8)	12 (0.7)	3 (0.2)	1 (0.1)	3 (0.2)	38 (2.2)	126 (7.4)	98 (5.8)	774 (45.7)

（注）複数診断を受けている者は重複して計上。

【図表11－17　通常の学級に在籍する特別支援を要する児童生徒数（小・中学校）の推移】

（　）は構成比（%）

	合計	発達障がい	その他
令和６年度	4,634 (100.0)	4,352 (93.9)	282 (6.1)
令和５年度	4,701 (100.0)	4,474 (95.2)	227 (4.8)
令和４年度	4,116 (100.0)	3,855 (93.7)	261 (6.3)
令和３年度	3,780 (100.0)	3,538 (93.6)	242 (6.4)
令和２年度	3,758 (100.0)	3,443 (91.6)	315 (8.4)
令和元年度	3,270 (100.0)	2,986 (91.3)	284 (8.7)
平成30年度	2,912 (100.0)	2,661 (91.4)	251 (8.6)
平成29年度	2,778 (100.0)	2,461 (88.6)	317 (11.4)
平成28年度	2,734 (100.0)	2,387 (87.3)	347 (12.7)
平成27年度	2,692 (100.0)	2,317 (86.1)	375 (13.9)
増減（R6-H27）	1,942 (0.0)	2,035 (7.8)	-93 (▲ 7.8)
増率（R6-H27）	1.7 倍	1.9 倍	0.8 倍

（注1）発達教育センターによる調査結果。

（５）難病の状況

難病については、平成27年1月1日に「難病の患者に対する医療等に関する法律」が施行され、新たな難病医療費助成制度が運用されている。指定難病受給者数の年次推移をみると、平成30年度以降は一貫して増加傾向であり、令和6年度は11年前の平成26年度時点と比較すると、1.3倍となっている。

【図表11－18】

令和6年度までのいずれの年においても、男性が約4割、女性が約6割を占める。**【図表11－18】**

【図表11－18　指定難病受給者数の推移　性別】

※年度末時点　（　）は構成比（%）

	計	男性	女性	医療費助成対象疾病数
令和６年度	13,122 (100.0)	5,528 (42.1)	7,594 (57.9)	341
令和５年度	12,384 (100.0)	5,178 (41.8)	7,206 (58.2)	338
令和４年度	11,750 (100.0)	4,858 (41.3)	6,892 (58.7)	338
令和３年度	11,237 (100.0)	4,648 (41.4)	6,589 (58.6)	338
令和２年度	11,160 (100.0)	4,656 (41.7)	6,504 (58.3)	333
令和元年度	10,080 (100.0)	4,162 (41.3)	5,918 (58.7)	333
平成30年度	9,601 (100.0)	3,906 (40.7)	5,695 (59.3)	331
平成29年度	9,578 (100.0)	3,821 (39.9)	5,757 (60.1)	330
平成28年度	11,291 (100.0)	4,621 (40.9)	6,670 (59.1)	306
平成27年度	10,377 (100.0)	4,264 (41.1)	6,113 (58.9)	306
平成26年度	9,958 (100.0)	4,127 (41.4)	5,831 (58.6)	110
増減（R6-H26）	3,164 (0.0)	1,401 (0.7)	1,763 (▲ 0.7)	－
増減率（R6/H26）	1.3 倍	1.3 倍	1.3 倍	－

（参考値：旧制度）

	計	男性	女性	医療費助成対象疾病数
平成25年度	9,687 (100.0)	4,025 (41.6)	5,662 (58.4)	56
平成24年度	9,116 (100.0)	3,721 (40.8)	5,395 (59.2)	56
平成23年度	9,305 (100.0)	3,856 (41.4)	5,449 (58.6)	56
増減（H25-H23）	382 (0.0)	169 (0.2)	213 (▲ 0.2)	－
増減率（H25/H23）	1.1 倍	1.1 倍	1.1 倍	－